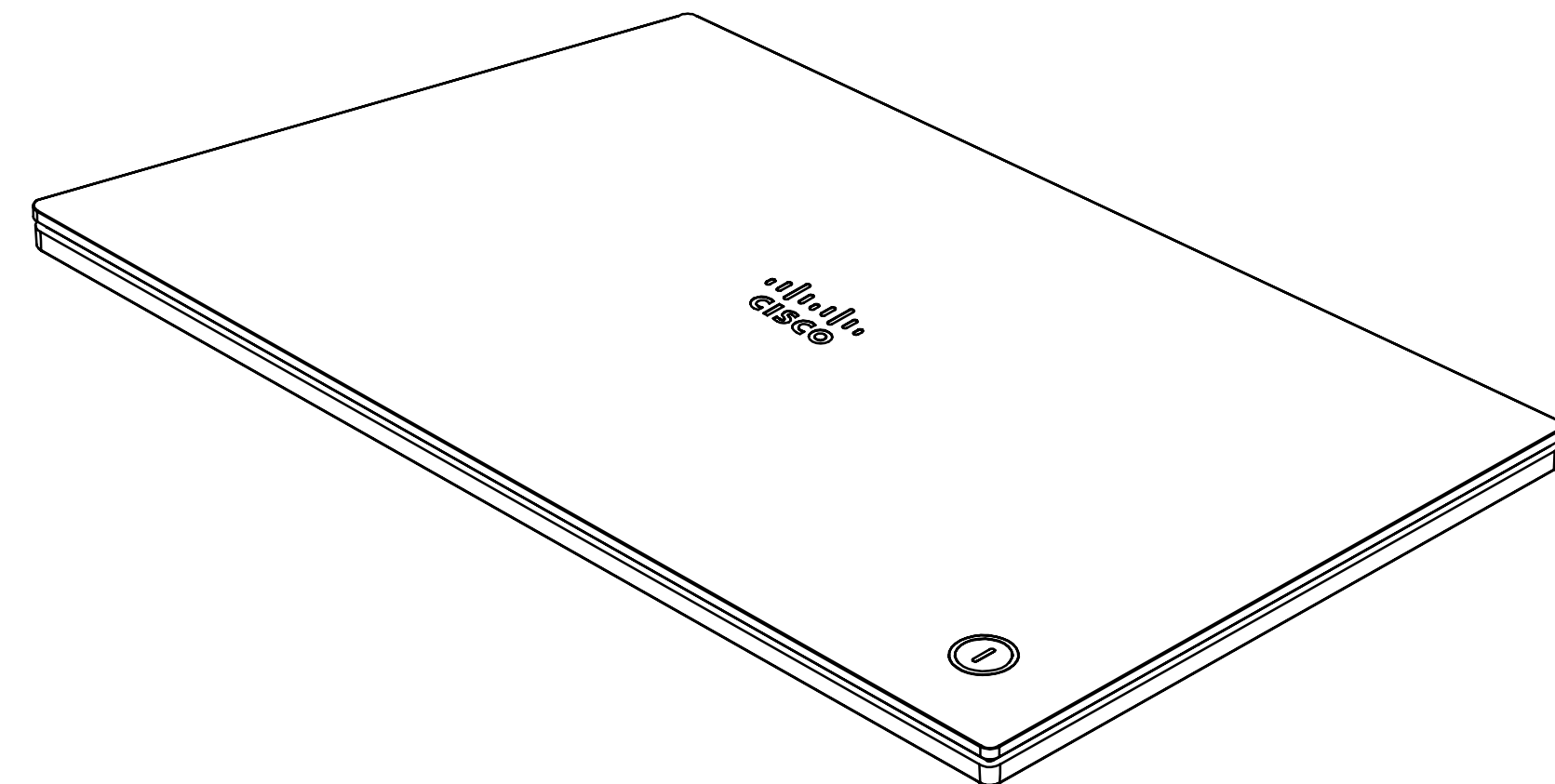
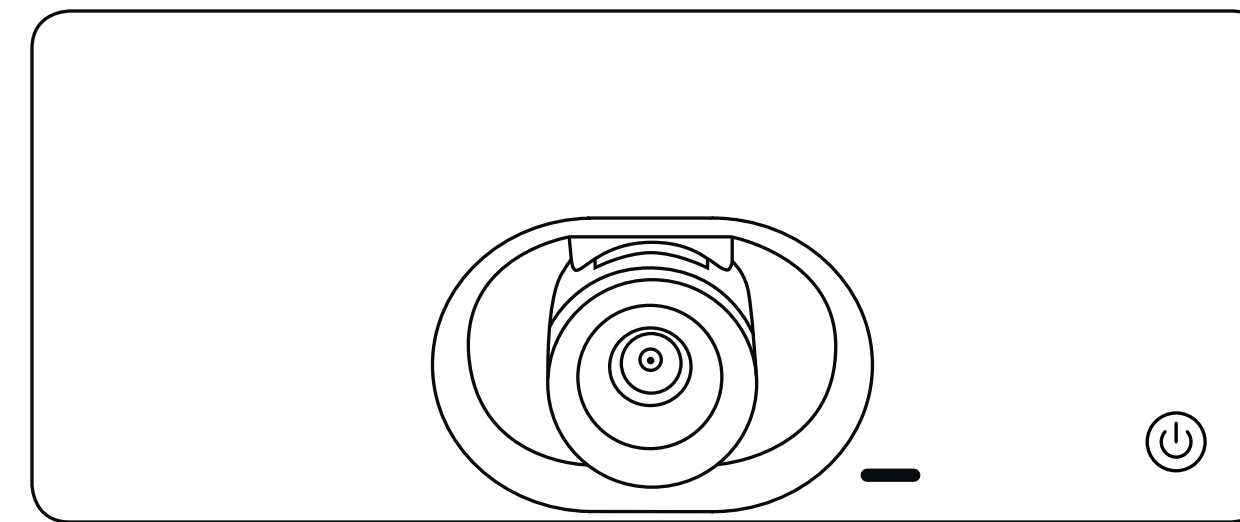


# CE 9.4 Cisco TelePresence ユーザ ガイド SX10 & SX20



内容

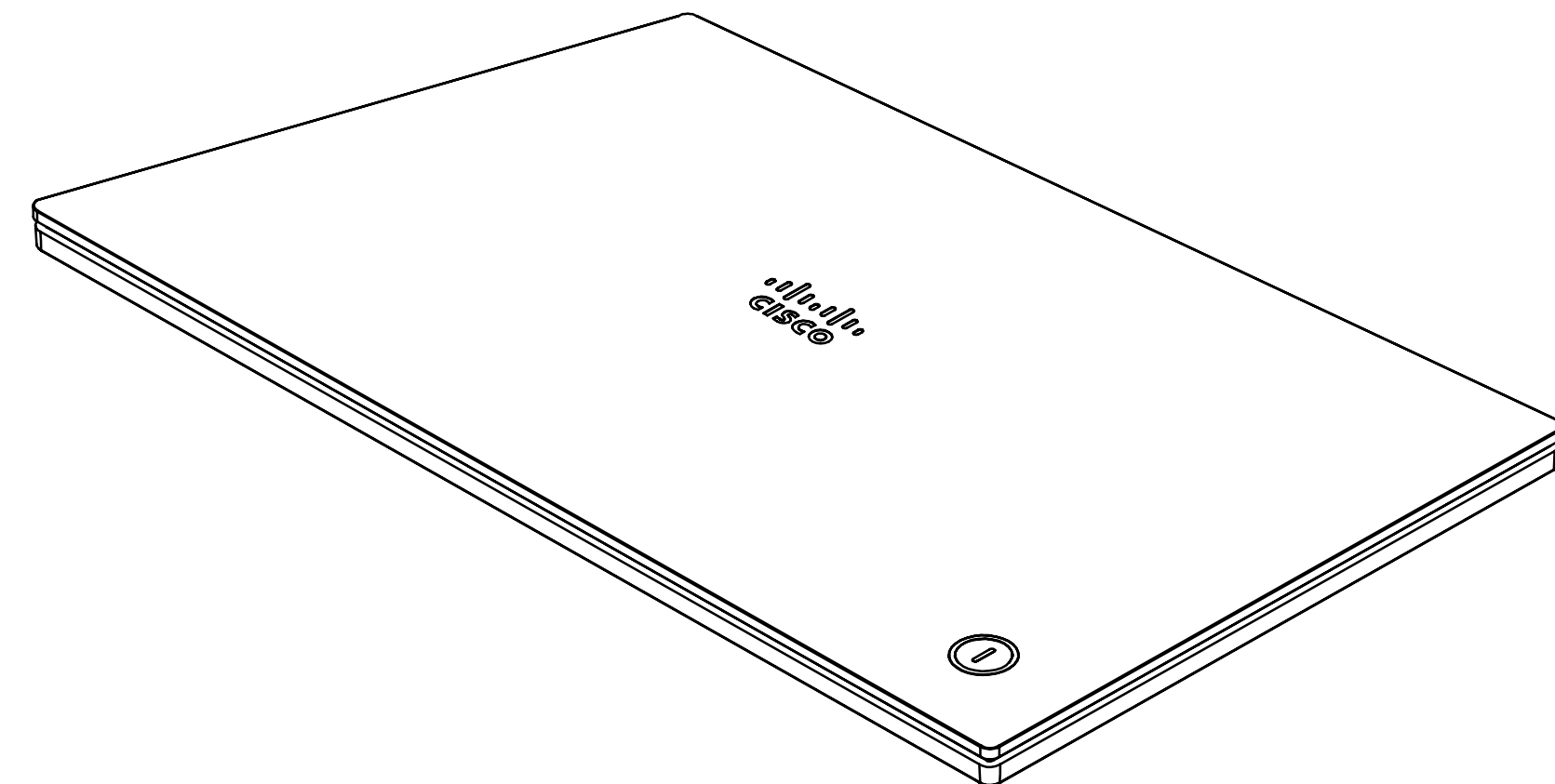
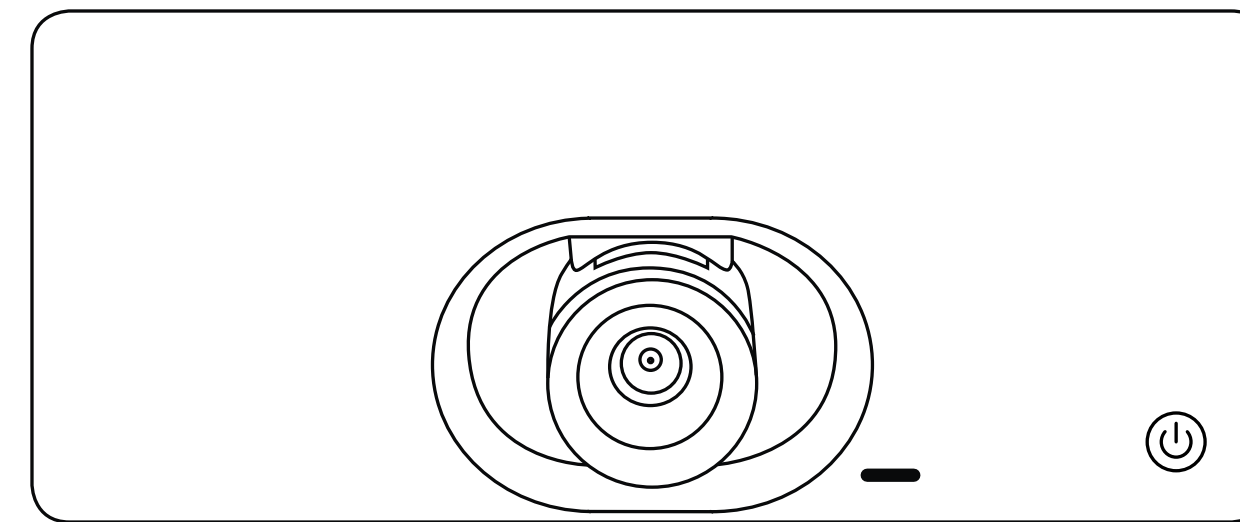
## このユーザ ガイドの内容

このユーザ ガイドの内容.....	2	すべてのコールを転送する .....	20
ビデオ会議：概要		転送について .....	20
画面の各部 .....	4	インテリジェント プロキシミティ	
操作ヒント .....	4	シスコの Proximity の超音波信号.....	22
リモートコントロールの各部(I).....	5	Proximity について.....	22
操作ヒント .....	5	コンテンツ共有	
リモートコントロールの各部(II).....	6	プレゼンテーションの開始と中止.....	24
操作ヒント .....	6	コンテンツの共有について.....	24
ビデオ電話		通話中のプレゼンテーションレイアウトの変更.....	25
連絡先リストから発信する .....	8	プレゼンテーションレイアウトについて.....	25
連絡先リストについて.....	8	スケジュールされた会議	
発信する前に連絡先を編集する .....	9	スケジュールされた会議に参加する .....	27
編集について .....	9	会議への入室 .....	27
帯域を変更してから発信する .....	10	コンタクト	
帯域について .....	10	誰かを非通話時にお気に入りに追加する.....	29
名前、番号、または IP アドレスを使用して発信する .....	11	[ディレクトリ(Directory)], [発着信履歴(Recents)],	
発信について .....	11	[お気に入り(Favorites)] について .....	29
既存の通話に参加者をさらに追加する .....	12	通話中に [お気に入り(Favorite)] に追加する .....	30
ビデオ会議について .....	12	お気に入りについて .....	30
電話会議から参加者を切断する .....	13	カメラ制御	
ビデオ会議について .....	13	カメラ設定の表示(ローカル カメラ).....	32
受信 .....	14	カメラ設定について.....	32
着信があった場合.....	14	相手先カメラ操作.....	33
通話中に別の着信を受信する .....	15	相手先カメラ操作について.....	33
通話の拡張 .....	15	自画面 PIP の移動.....	34
対応中の通話の転送.....	16	自画面を移動する理由.....	34
スクリーンのレイアウトの変更.....	17	設定	
レイアウトについて .....	17	設定にアクセスするには .....	36
[応答不可(Do Not Disturb)] を有効にする .....	18	バージョン情報管理.....	36
応答不可について .....	18		
スタンバイを有効にする .....	19		
スタンバイについて .....	19		

この目次のすべての項目はハイパーリンクになっており、該当記事に移動できます。章間で移動するには、サイドバーのアイコンをクリックしてください。

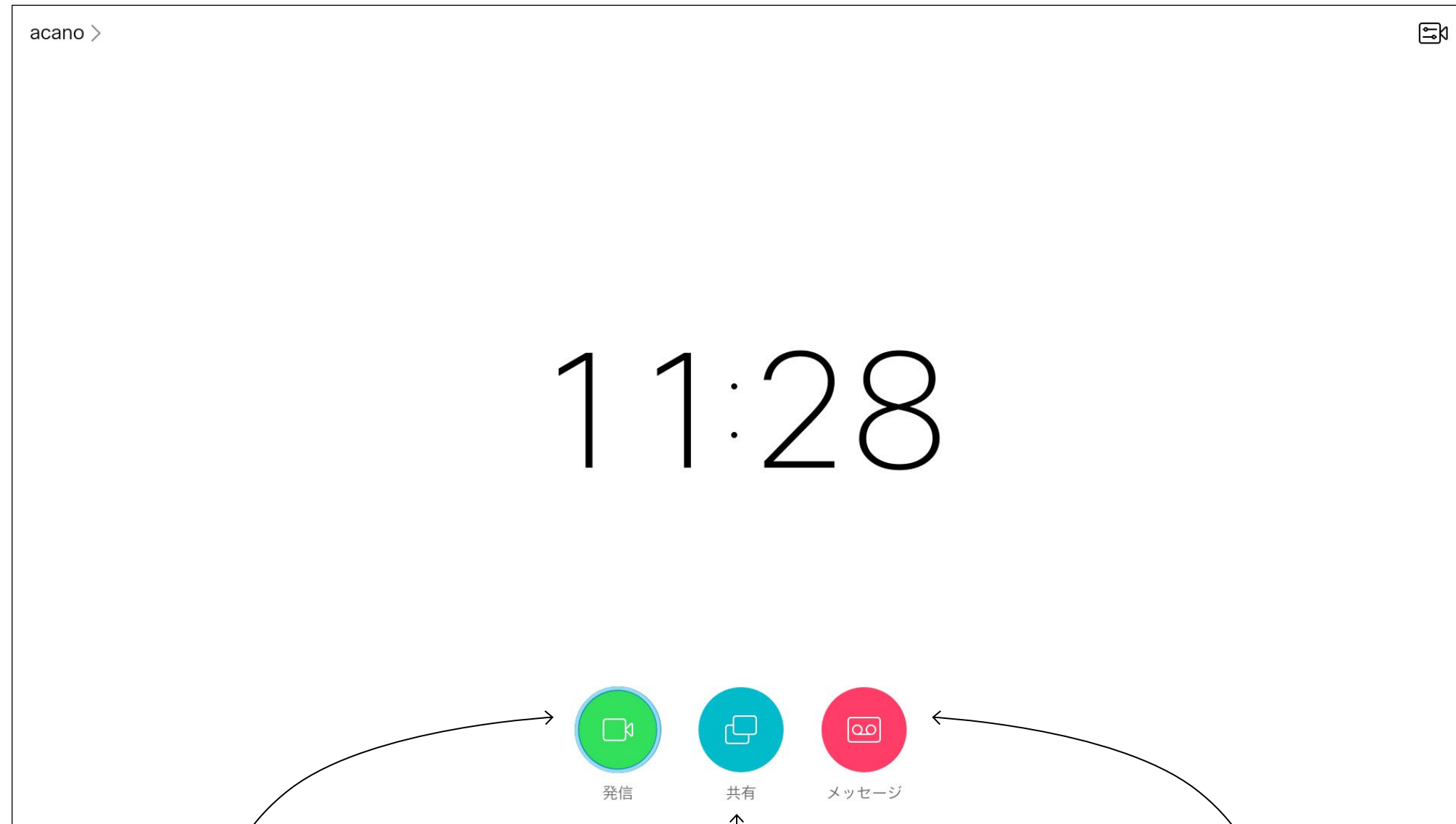
**注:** このユーザ ガイドで説明する機能の一部はオプションであるため、ご使用のシステムには存在しない場合があります。

# ビデオ会議： 概要



# 概要 画面の各部

画面の左上には、[スタンバイ (Standby)] モード、[システム情報 (System information)], [応答不可 (Do Not Disturb)] の各機能にアクセスできる [もっと見る (More)] アイコン (>) があります。



ディスプレイの右上に、カメラコントロールメニュー アイコンがあります。

ディスプレイの下よりの左には [発信 (Call)] ボタンがあります。

ディスプレイの下よりの右には [共有 (Share)] ボタンがあります。

システムにメッセージングシステムがある場合、ここからメッセージにアクセスします。

## 操作ヒント

画面上を移動するには、リモート コントロールにある方向キーを使用します。選択したメニュー フィールドを開くには、OK/Enter を押します。

変更を実行せずにメニューを終了するには、キャンセル キーを使用します ([ホーム (Home)] 画面に戻ります)。戻るキーを使用して 1 つ前のステップに戻ります。

以降のページではリモート コントロール ボタンについて説明します。

Intelligent Proximity 機能を使用すれば、手元の端末でワイヤレスにビデオ システムのコンテンツを共有、表示、キャプチャできます。またビデオ システムの通話を制御することもできます。[「インテリジェント プロキシミティ」、21 ページ](#)も参照してください。

ヒント [応答不可 (Do Not Disturb)] に設定すると、着信音はミュートになり、他者からの着信は不在着信として表示されます。ただし、こちらからは必要時にいつでも発信することができます。

デフォルトでは、応答不可には 60 分のタイムアウトがあります (この後、システムは通常動作に戻ります) が、ビデオ サポート チームによって異なる設定に変更されている場合があります。

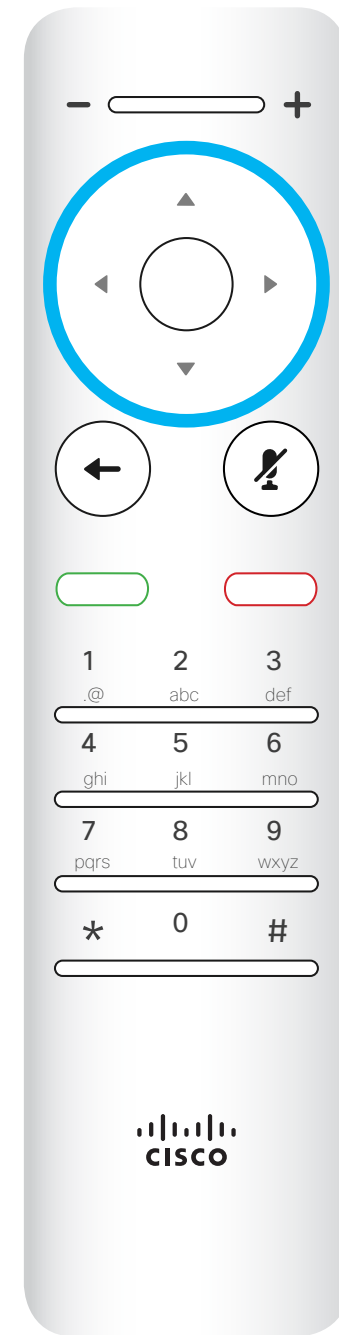
概要

# リモート コントロールの各部 (I)

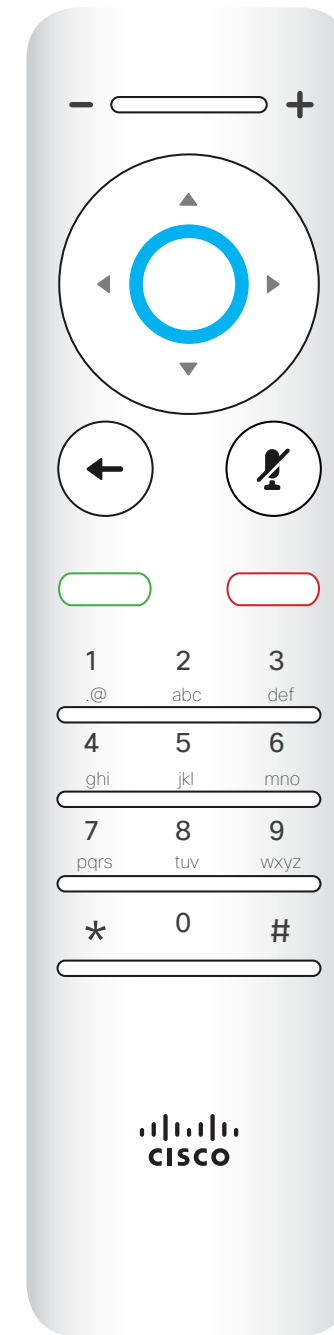
## 操作ヒント



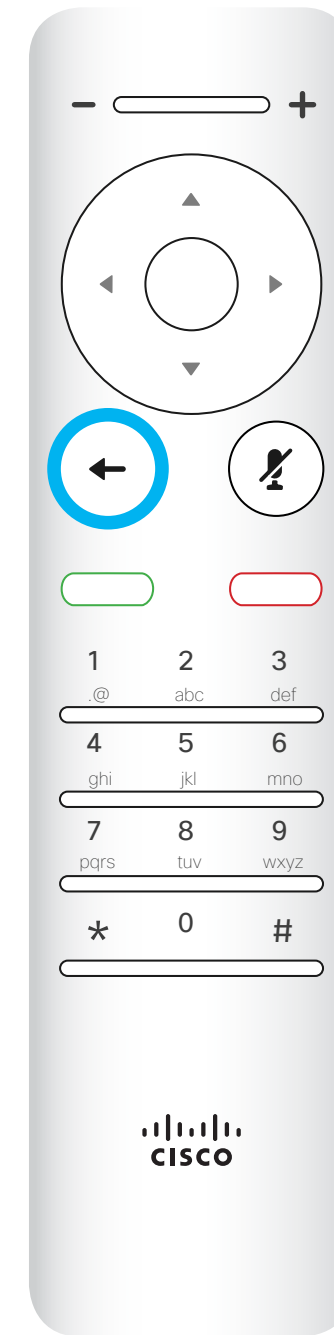
一番上のボタンの左側を押すと、音量が下がります (減)。  
一番上のボタンの右側を押すと、音量が上がります (増)。



フィールド選択/方向キーを操作するには、円形部分の周囲にあるキーを使用します (左/右/上/下)。



OK/Enter は中央の円形キーを使用します。

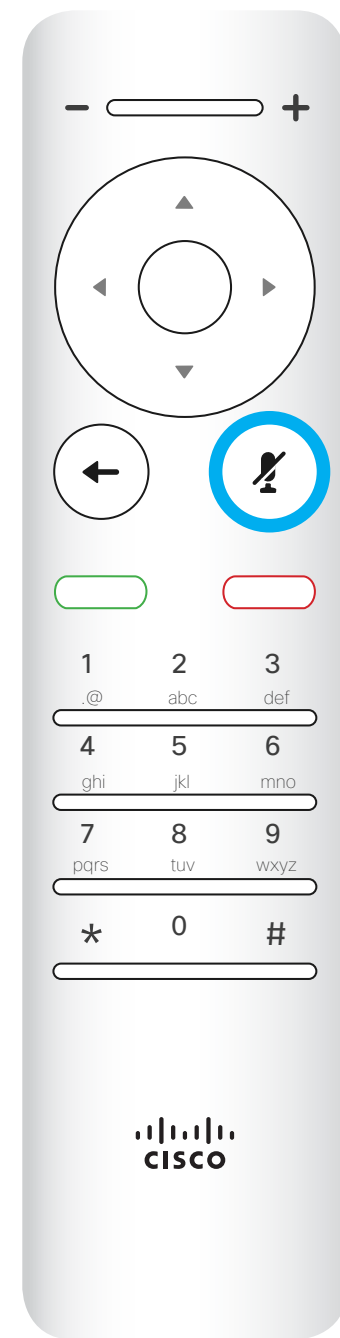


1 つ前のステップに戻る操作は左側の円形キーを使用します。

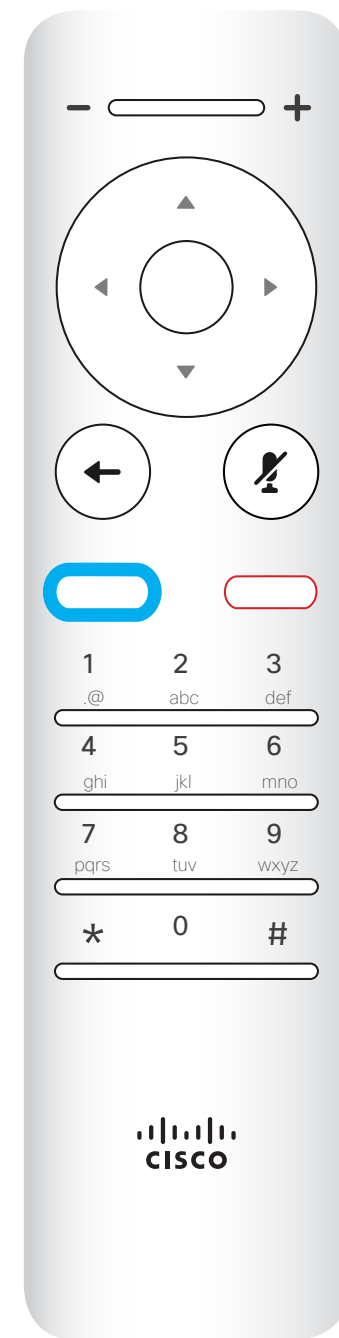
画面のあちこちに移動するには、カーソル コントロールを使用します。選択したメニュー フィールドを開くには、OK/Enter を押します。  
変更を実行せずにメニューを終了するには、キャンセル キーを使用します ([ホーム (Home)] 画面に戻ります)。戻るキーを使用して 1 つ前のステップに戻ります。

# リモート コントロールの各部 (II)

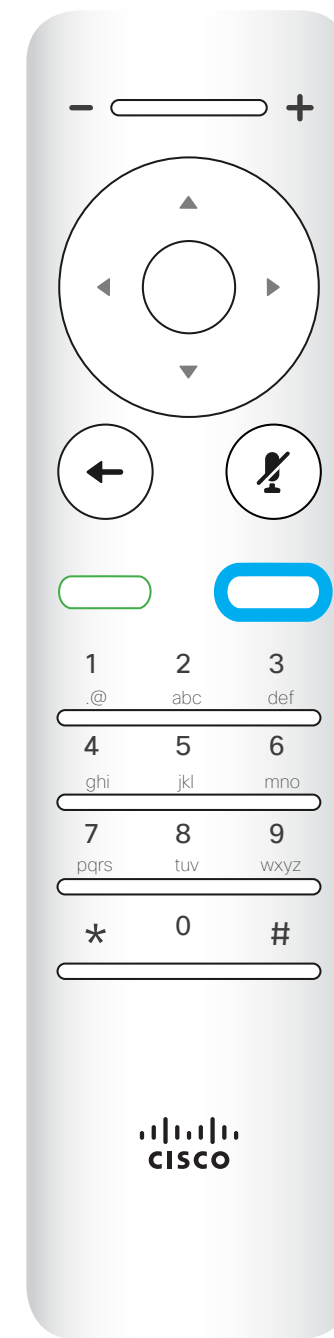
## 操作ヒント



マイクのミュート/ミュート解除は右側の円形キーを使用します。



戻るキーの下にある緑色のキーは、発信/着信通話ボタンです。



ミュート キーの下にあるキーは、着信拒否/通話終了/キャンセル/ホーム画面に戻る(外部発信) ボタンです。

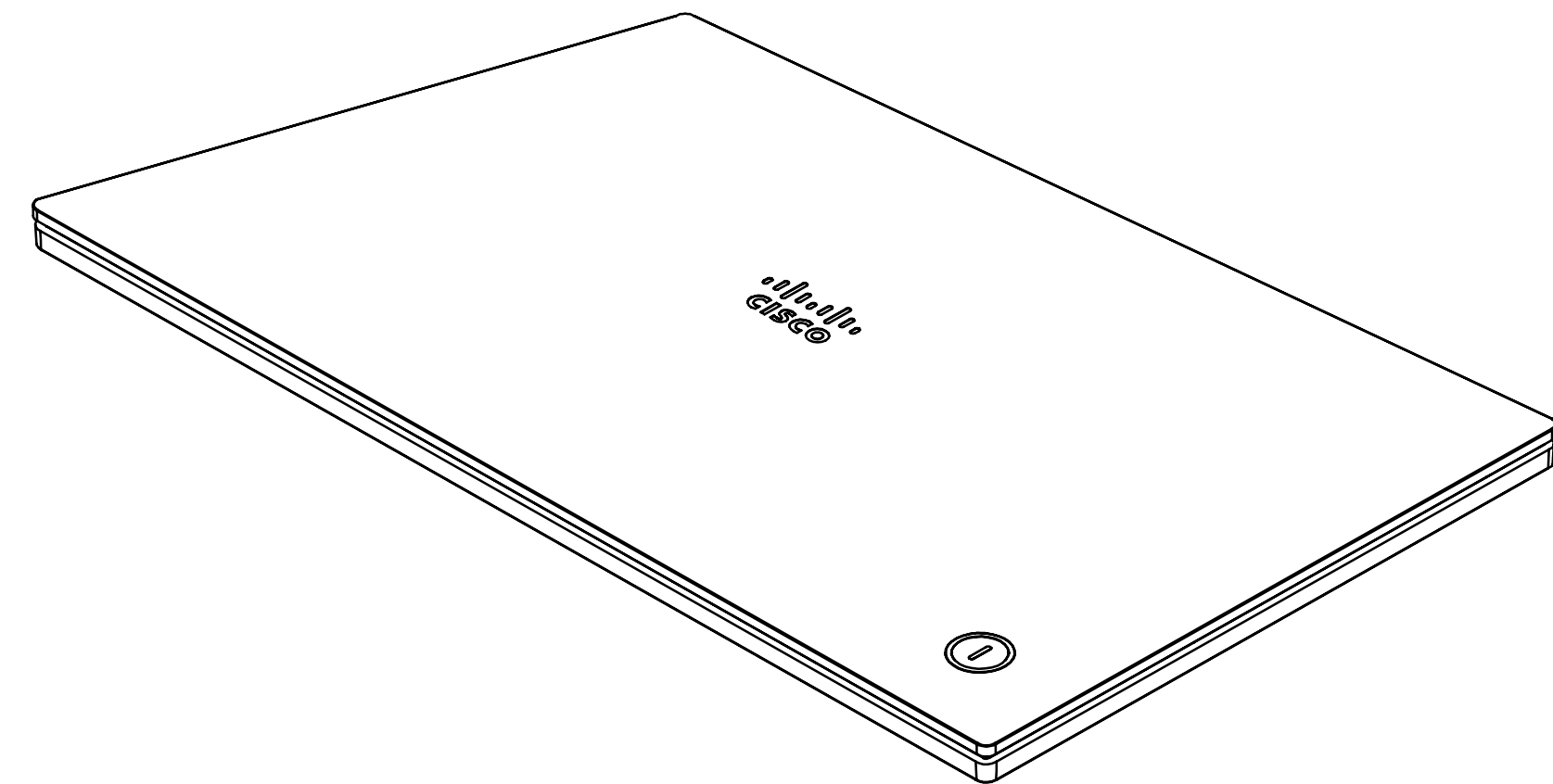
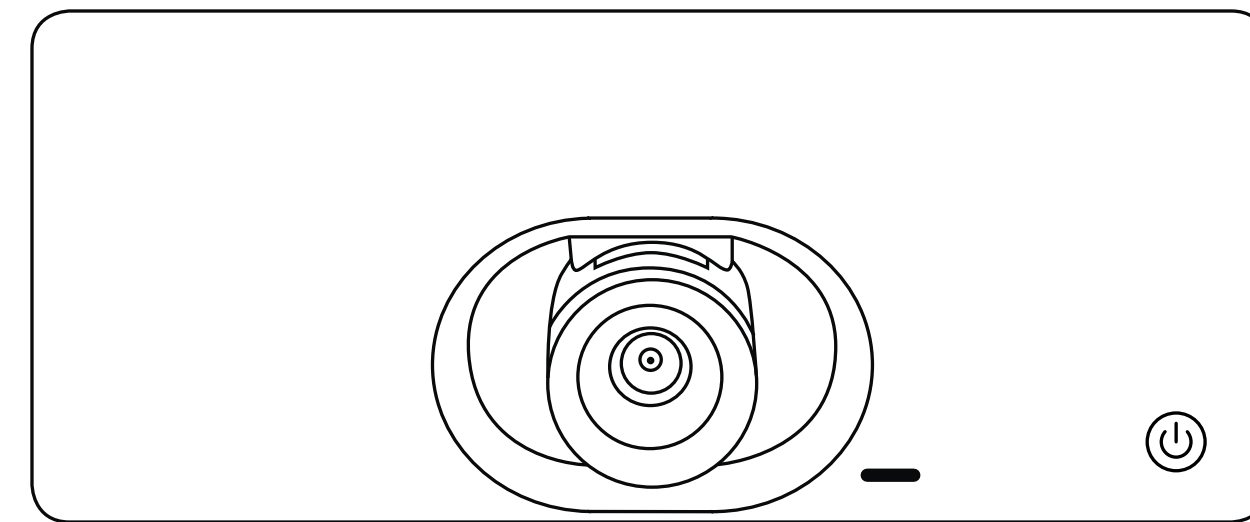


キーパッドは、電話をダイヤルするときや数字を入力するとき 사용됩니다。数字の5には突起があり、キーの位置がわかるようになっています。

画面のあちこちに移動するには、カーソル コントロールを使用します。選択したメニュー フィールドを開くには、OK/Enter を押します。

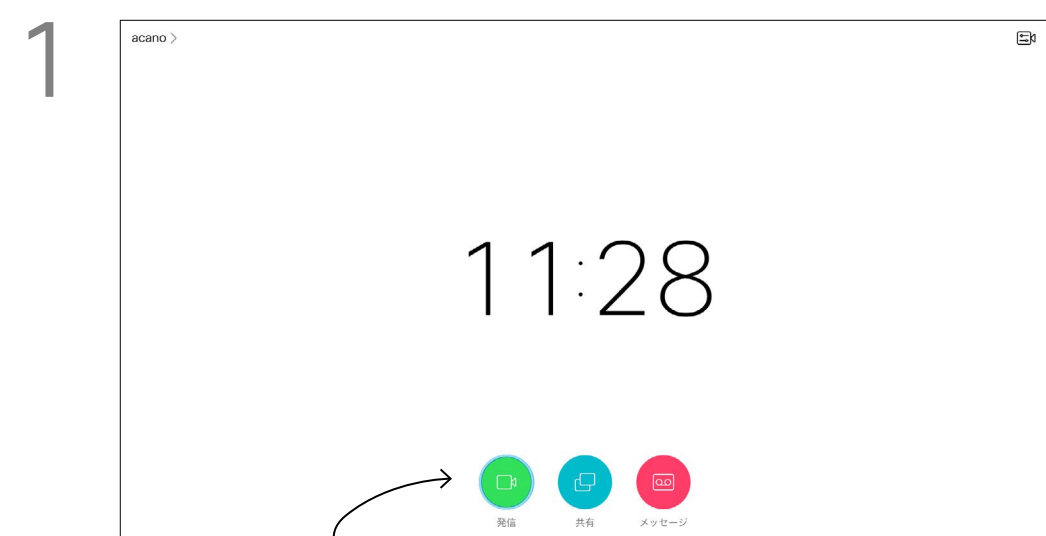
変更を実行せずにメニューを終了するには、キャンセルキーを使用します([ホーム (Home)]画面に戻ります)。戻るキーを使用して 1 つ前のステップに戻ります。

# ビデオ 電話

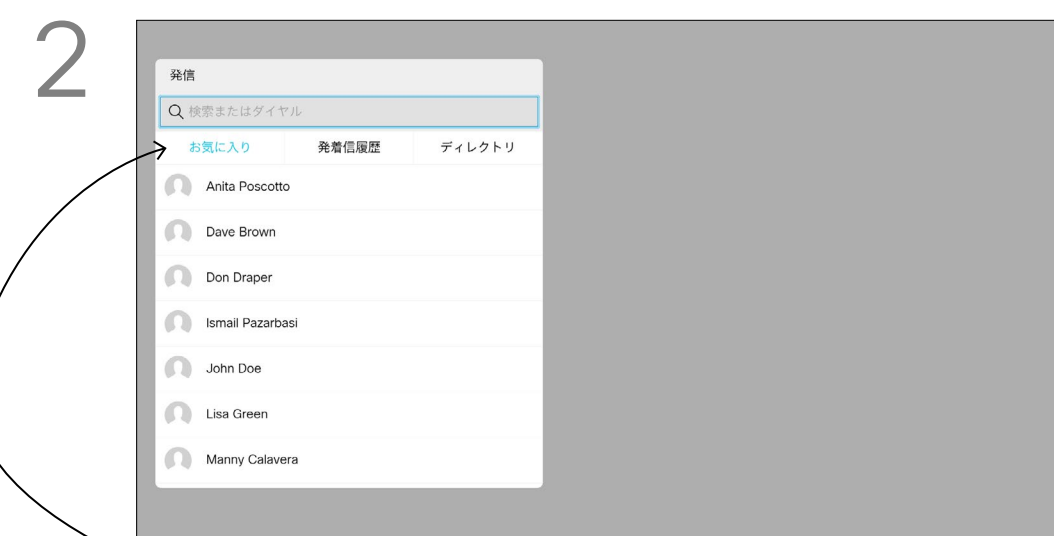


# ビデオ電話 連絡先リストから発信する

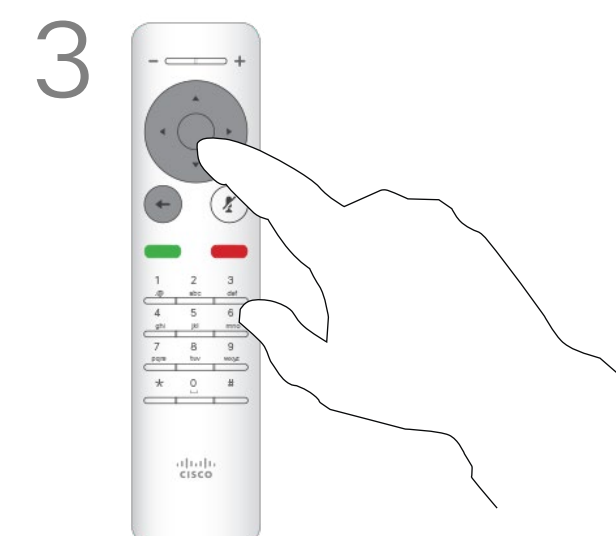
## 連絡先リストについて



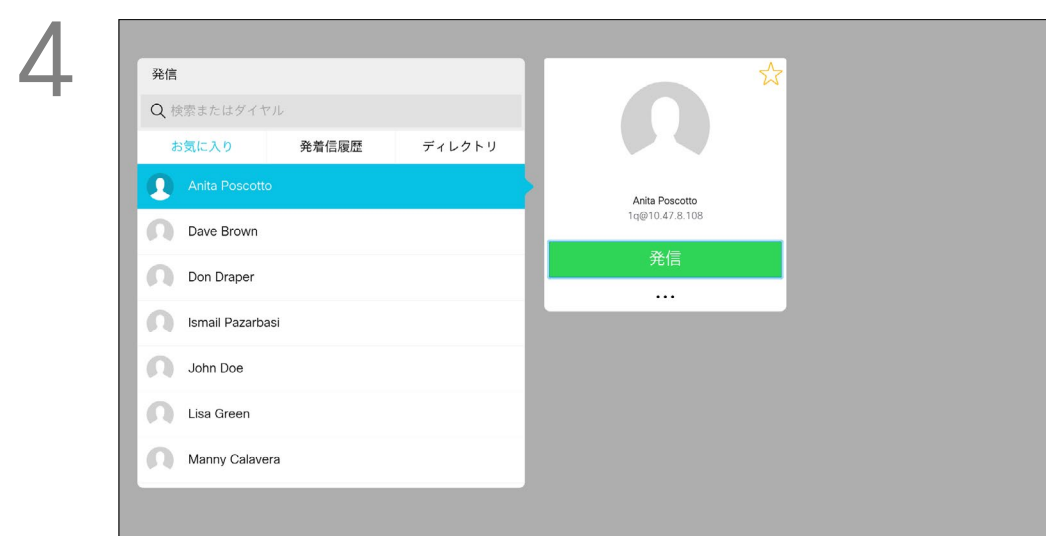
1 [発信 (Call)] (画面の下部に並んでいる一番左のアイコン) を選択し、リモート コントロールの OK を押すか、リモート コントロールの緑色の発信ボタンを押します。



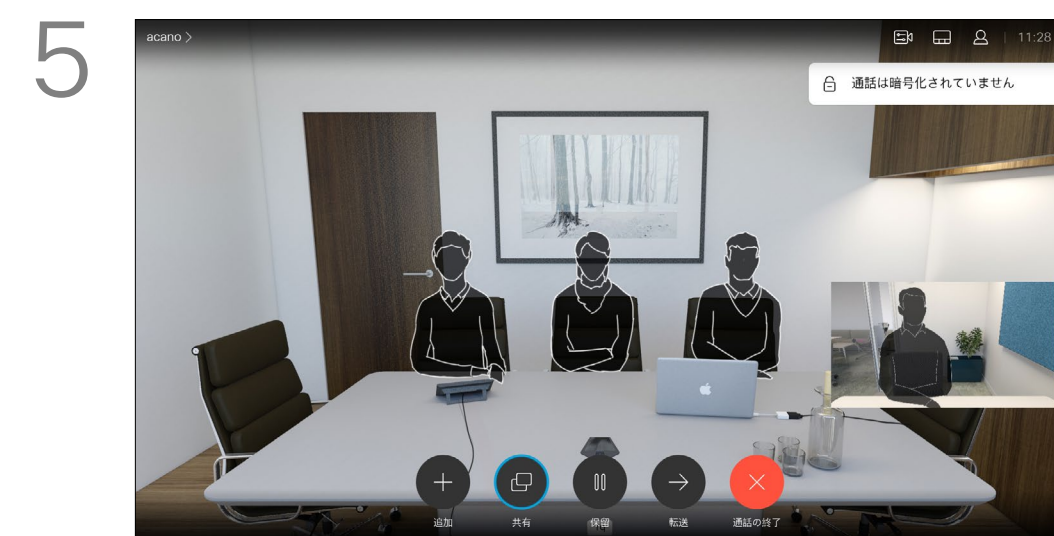
2 連絡先リストが表示されます。リモート コントロールの方向キーを使用すると、[お気に入り (Favorites)]、[発信履歴 (Recents)]、[ディレクトリ (Directory)] を切り替え (横方向)、いずれかのリストを選択できます。



3 特定のエントリーが見つかったら、リモート コントロールの OK を押して、[発信 (Call)] メニューを開きます。



4 [コール] メニューで [OK] を押すか、またはリモコンで緑の [発信 (Call)] ボタンを押して通話を発信します。



5 リモート コントロールの赤い通話終了ボタンを押すか、方向キーを使用して画面上の [通話終了 (End Call)] を選択し、OK を押して通話を終了します。

連絡先のリストは、次の 3 つの部分で構成されています。

[お気に入り (Favorites)] 自分で [お気に入り] に追加した連絡先です。通常、これらのエントリーは頻繁に通話する相手か、便利な方法で迅速にアクセスする必要がある人です。お気に入りは金色のアスタリスクで表示されます。

[ディレクトリ (Directory)] は通常、ビデオ サポート チームがシステムにインストールした社内ディレクトリです。

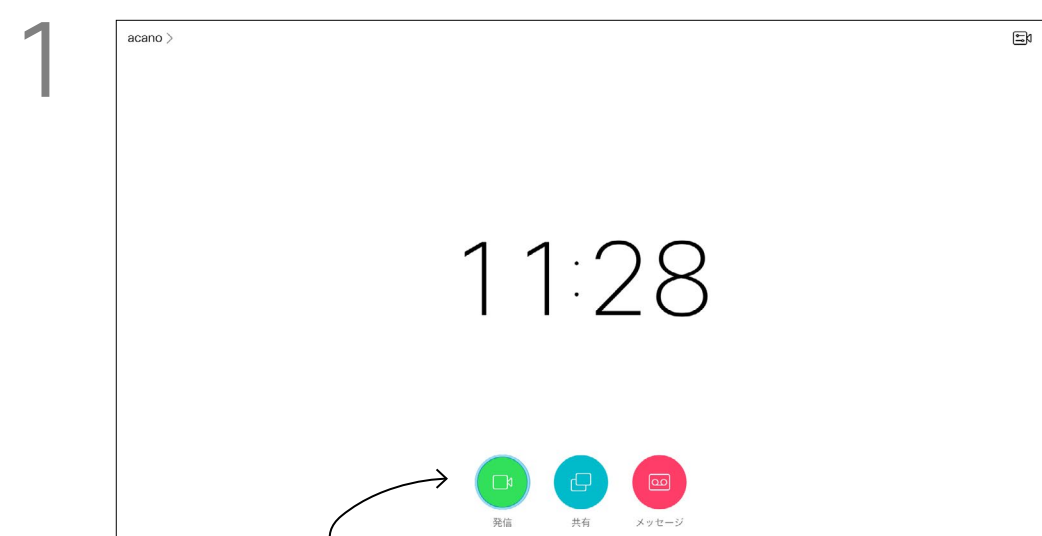
[発信履歴 (Recents)] は、発信、受信、不在着信のリストです。

次のオプションが適用されます。

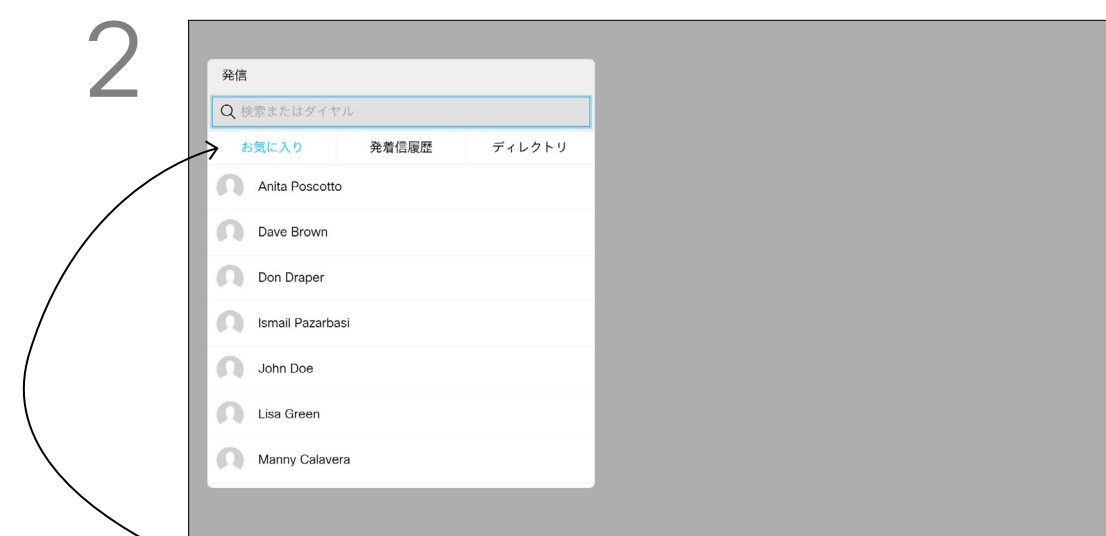
- ・ 名前、番号、または IP アドレスをキー入力できます。これにより、すべてのリストが検索されます。
- ・ タブをタップしてリストをスクロールすることも、名前か番号を入力することもできます。この場合は、検索が特定のリストでのみ実行されます。
- ・ [お気に入り (Favorites)] リストに追加したエントリーは、発信の前に編集したり、帯域 (通話に適用された帯域幅) を変更したりすることができます。

# ビデオ電話 発信する前に連絡先を編集する

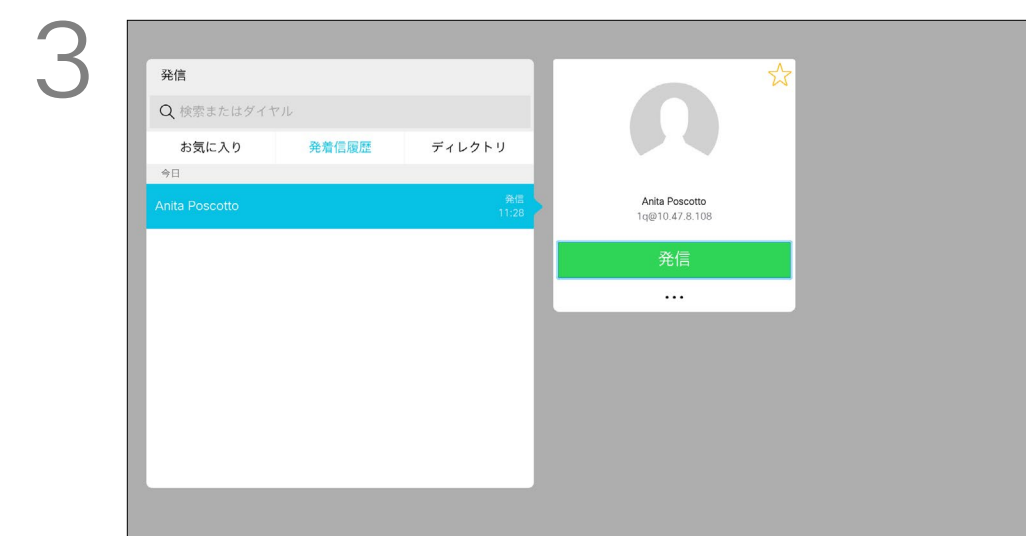
## 編集について



1 [発信 (Call)] (画面の下部に並んでいる一番左のアイコン) を選択し、リモート コントロールの OK を押すか、リモート コントロールの緑色の発信ボタンを押します。



2 リモート コントロールの方向キーを使用すると、[お気に入り (Favorites)], [発信履歴 (Recents)], [ディレクトリ (Directory)] を切り替え、いずれかのリストを選択できます。



3 特定のエンタリが見つかったら、リモート コントロールの OK を押して、[発信 (Call)] メニューを開きます。

連絡先リストについては、前のページを参照してください。

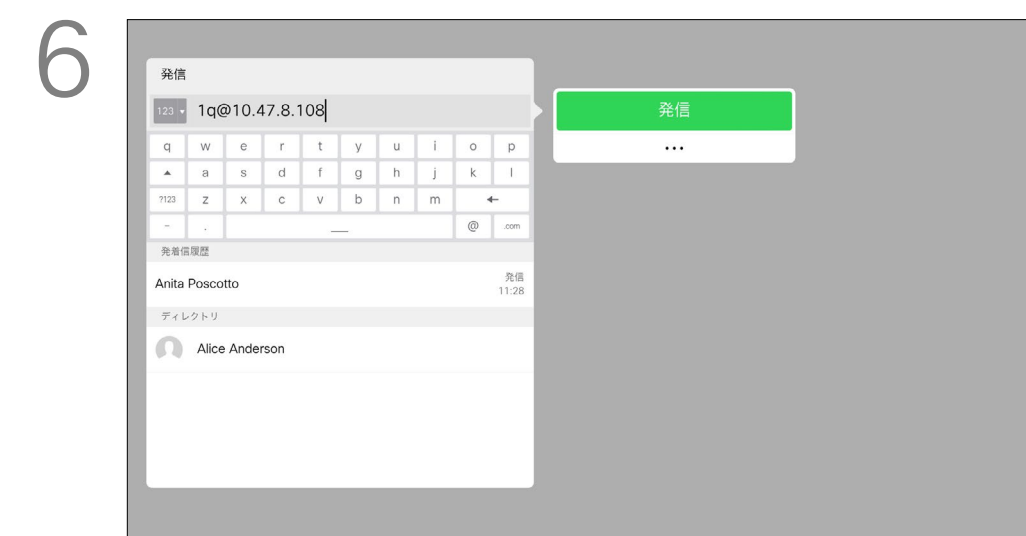
発信する前に連絡先リストのいずれかのエンタリを編集する必要がある場合があります。正しい発信にするためのプレフィックスやサフィックスの追加、またはエンタリの変更などです。



4 リモート コントロールの方向キーを使用して、その他フィールド (...) を選択して OK を押します。



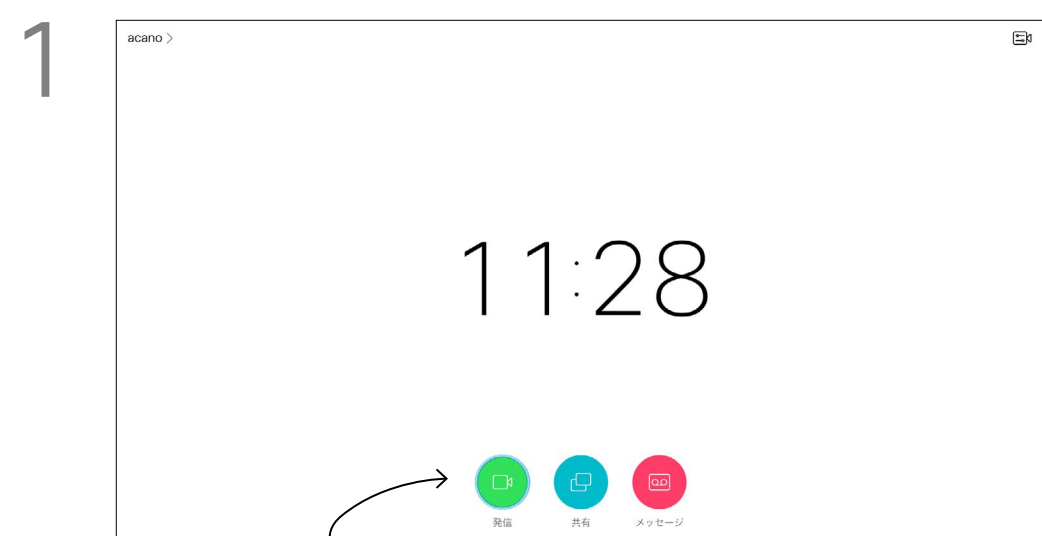
5 下の [編集して通話 (Edit and Call)] に移動し (その他メニューの中央のフィールド)、OK を押します。



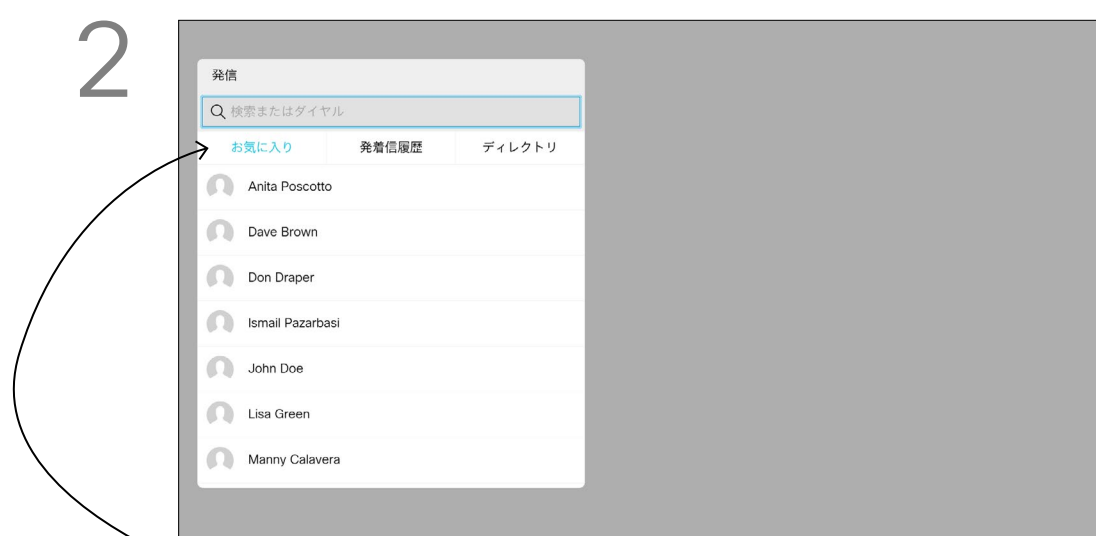
6 必要に応じてエンタリを編集し、リモート コントロールの緑色の発信ボタンを押して発信します。

# ビデオ電話 帯域を変更してから発信する

## 帯域について



1 [発信 (Call)] (画面の下部に並んでいる一番左のアイコン) を選択し、リモート コントロールの OK を押すか、リモート コントロールの緑色の発信ボタンを押します。



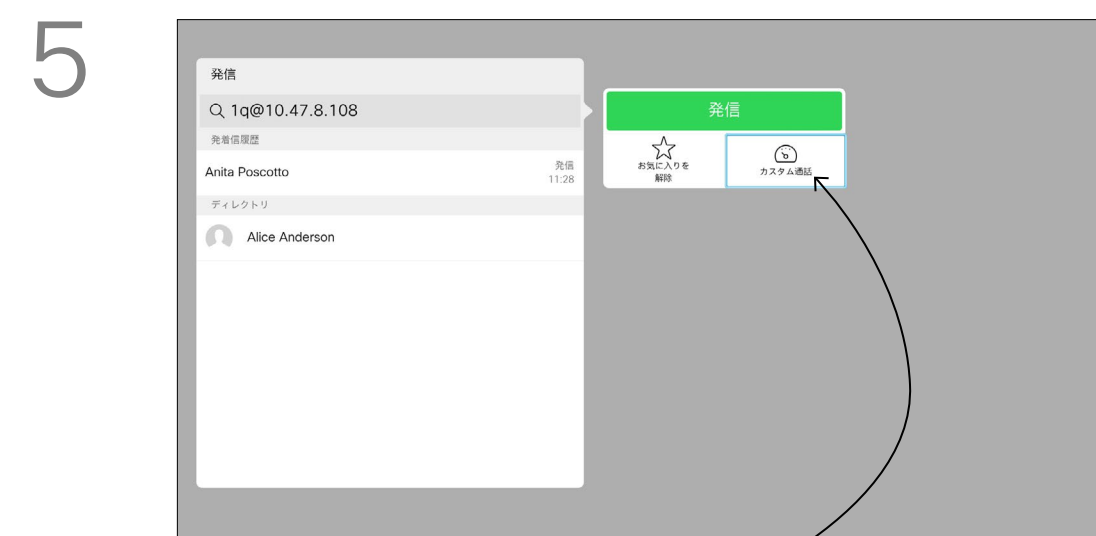
2 リモート コントロールの方向キーを使用すると、[お気に入り (Favorites)], [発信履歴 (Recents)], [ディレクトリ (Directory)] を切り替え、いずれかのリストを選択できます。



3 特定のエンタリが見つかったら、リモート コントロールの OK を押して、[発信 (Call)] メニューを開きます。



4 リモート コントロールの方向キーを使用して、その他フィールド (...) を選択して OK を押します。



5 下の [カスタム発信 (Custom call)] に移動し、OK を押します。



6 必要に応じて方向キーを使用し、リモート コントロールの緑色の発信ボタンを押して発信します。

帯域は、通話に割り当てられている帯域幅の量を表す際に使用される用語です。これは kbps (キロビット/秒) で測定されます。

帯域が大きくなるほど、品質が向上しますが、帯域幅の消費が大きくなります。

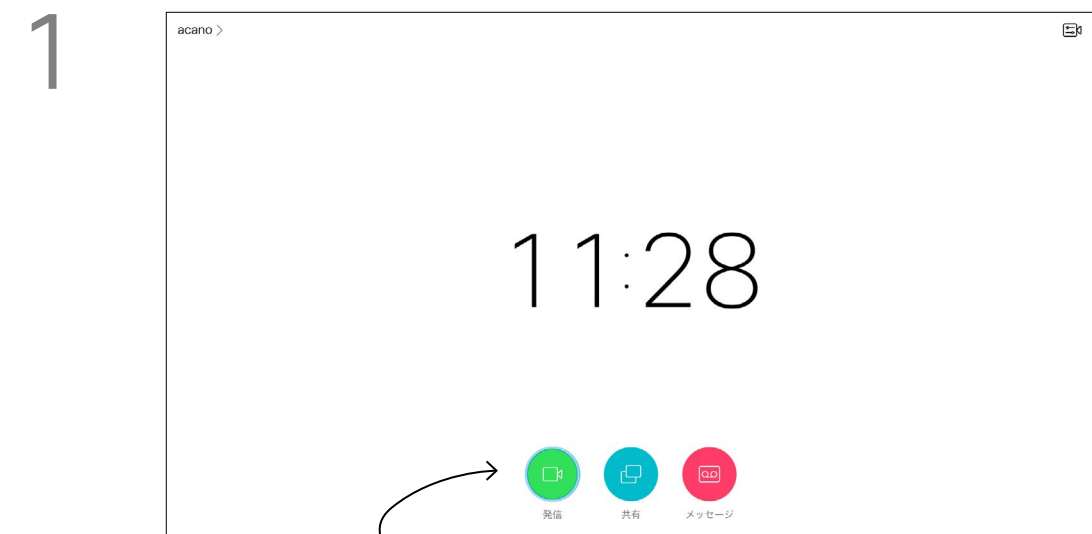
システムには、デフォルトの帯域が設定されています。これは通常ビデオ サポートチームが設定します。通常の条件では、帯域は必要に応じてシステムによって自動的に調整されます。この調整は、システムと接続がサポートしている帯域よりも大きい帯域で誰かと通話しようとするときにビデオ通話のチョークを避けるために行われます。

何らかの理由によって、自動帯域設定に失敗した場合、最終手段として手動で調整することも可能です。

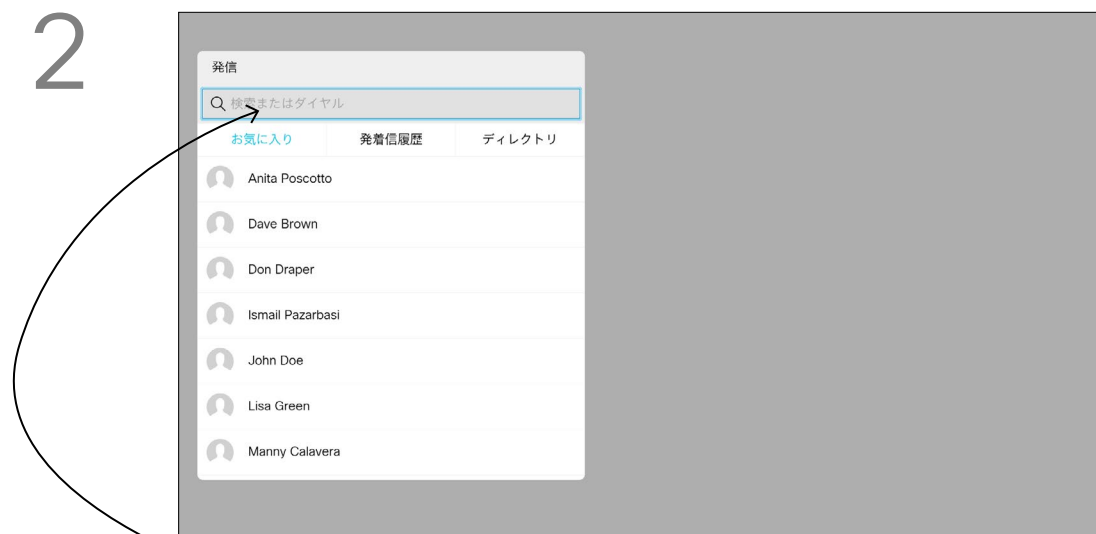
帯域は、通話中は変更できませんが、左記のように発信直前に変更できます。

# ビデオ電話 名前、番号、または IP アドレスを使用して発信する

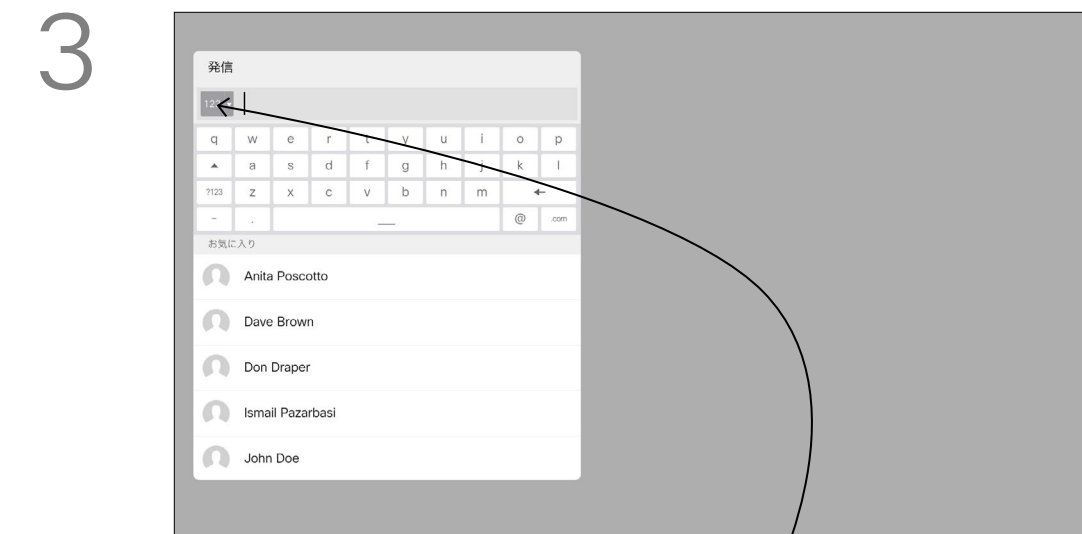
## 発信について



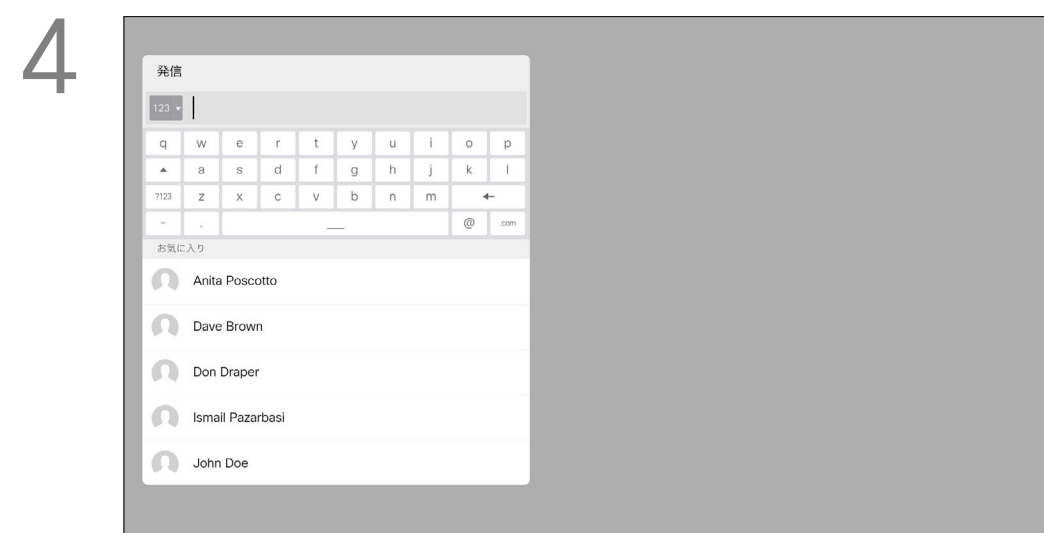
1 [発信 (Call)] (画面の下部に並んでいる一番左のアイコン) を選択し、リモート コントロールの OK を押すか、リモート コントロールの緑色の発信ボタンを押します。



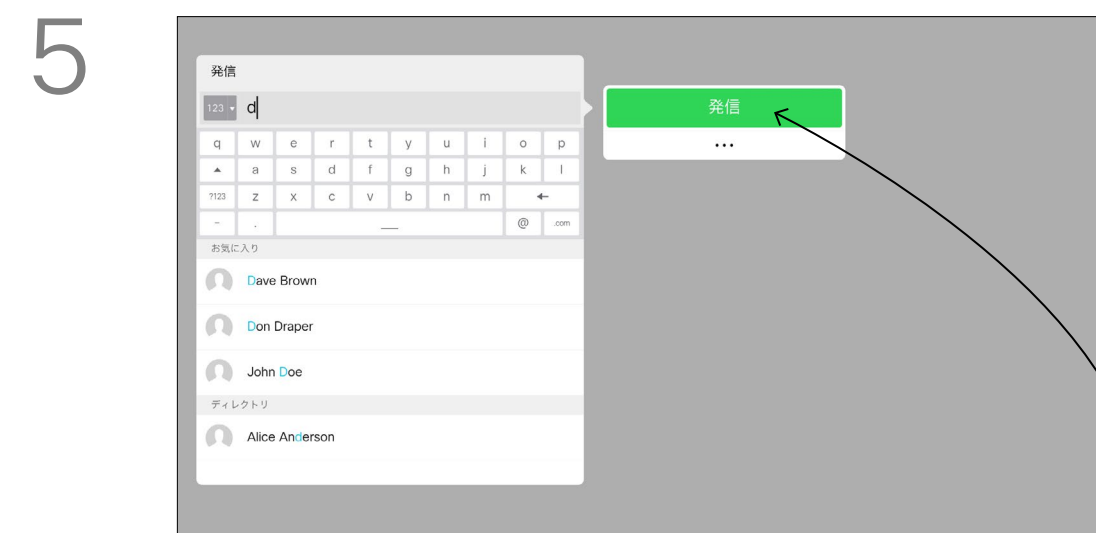
2 方向キーを使用して、メニューの一番上にある [検索またはダイヤル (Search or Dial)] フィールドに移動します。OK を押します。



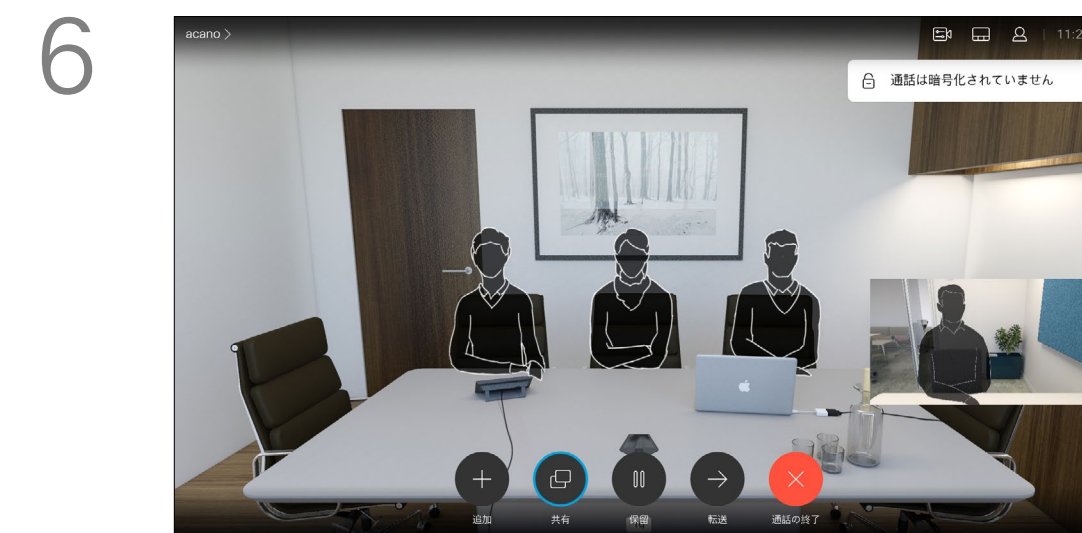
3 数字を入力するには、123 を選択します。



4 仮想キーボードを使用するには、下に移動し、キーボードで文字を選択します。OK を押して、文字を選択します。



5 次に、リモート コントロールの緑色の発信ボタンを押して発信します。または、[通話 (Call)] アイコンに移動し、OK を押します。



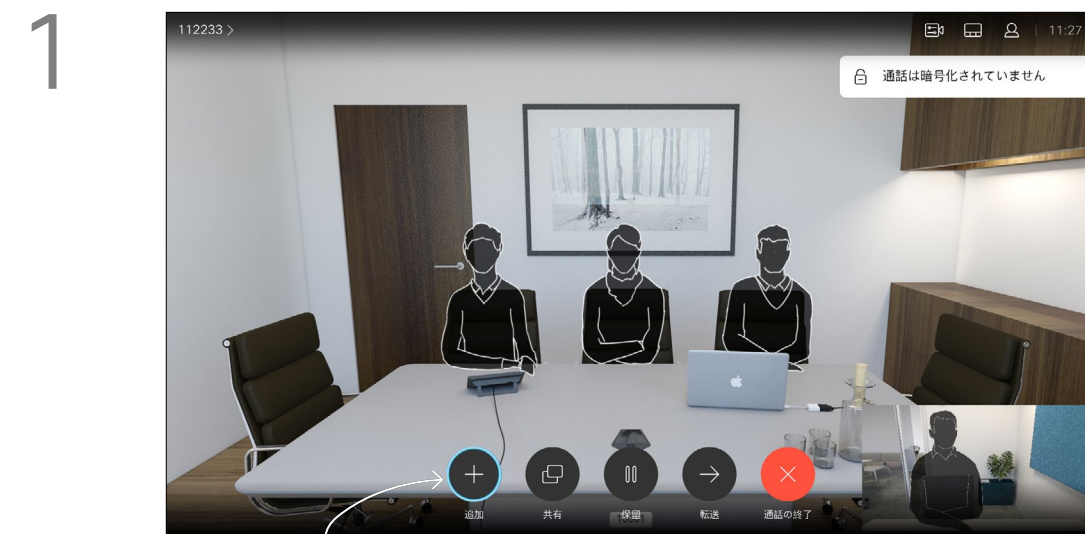
6 リモート コントロールの赤い通話終了ボタンを押すか、方向キーを使用して [通話の終了 (End Call)] を選択し、OK を押して通話を終了します。

連絡先リストに記載されていない人に発信するには、仮想キーボードを使用して名前、住所、または番号を入力します。これまでのすべての発信先が [発着信履歴 (Recents)] リストに表示されます。これらの発信先は [お気に入り (Favorites)] リストに転送できます。これについては、「連絡先」セクションで説明しています。

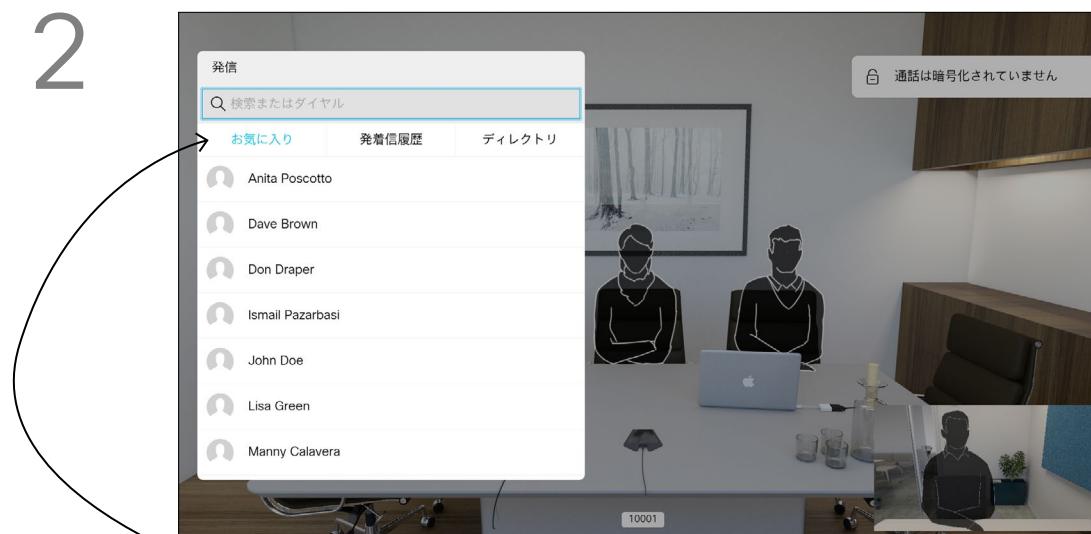
ビデオ アドレスを使用して発信する場合も、発信手順は同様です。アドレスを入力し、\* (リモート コントロールの左下隅にあるアスタリスク ボタン) をセパレータとして使用します。システムは、これを有効な IP アドレスのセパレータとして解釈し、入力したとおりに正しくビデオ アドレスが表示されます。

# ビデオ電話 既存の通話に参加者をさらに追加する

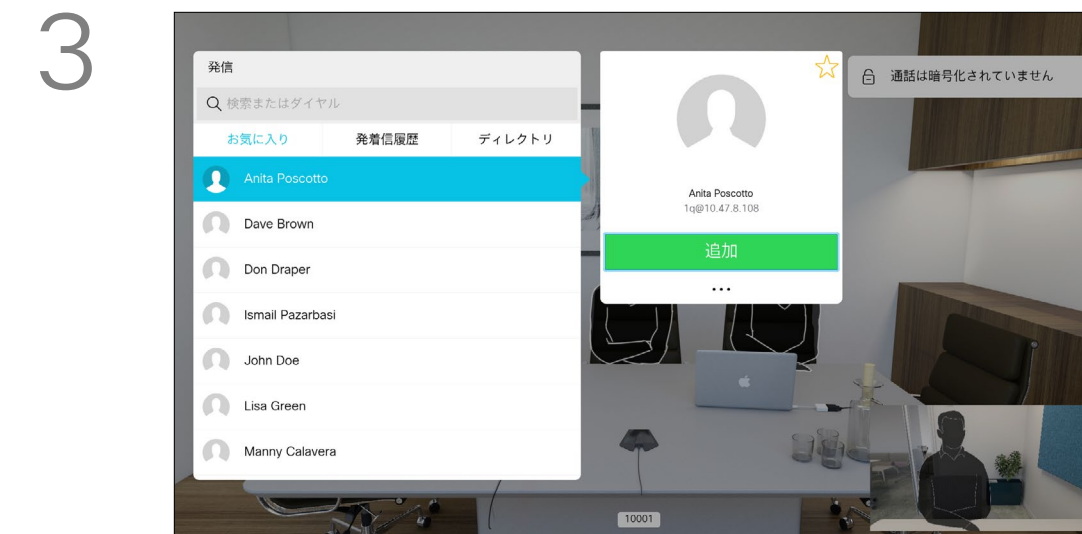
## ビデオ会議について



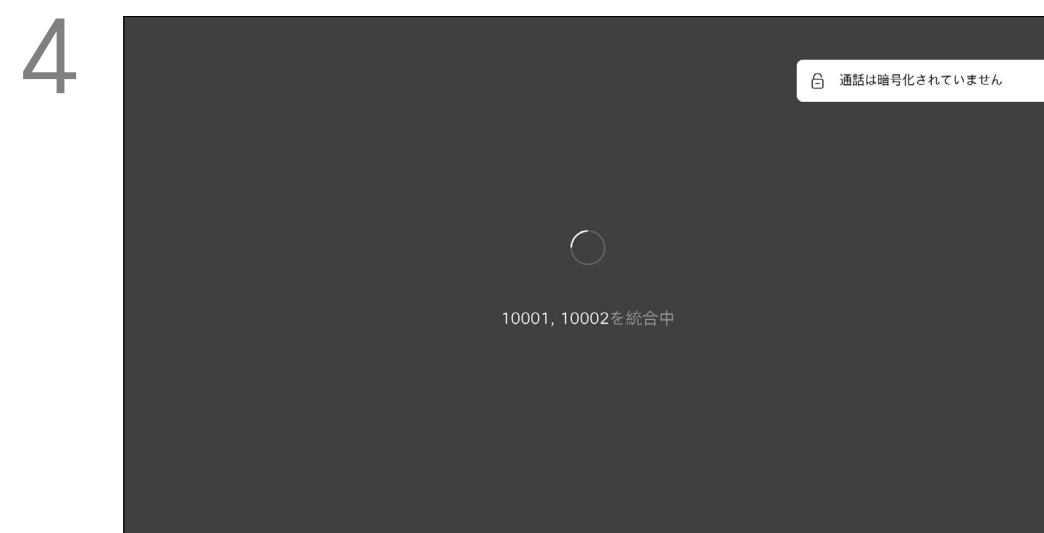
1 通話中に [追加 (Add)] に移動し、リモートコントロールの OK を押します。現在の通話が保留になります。



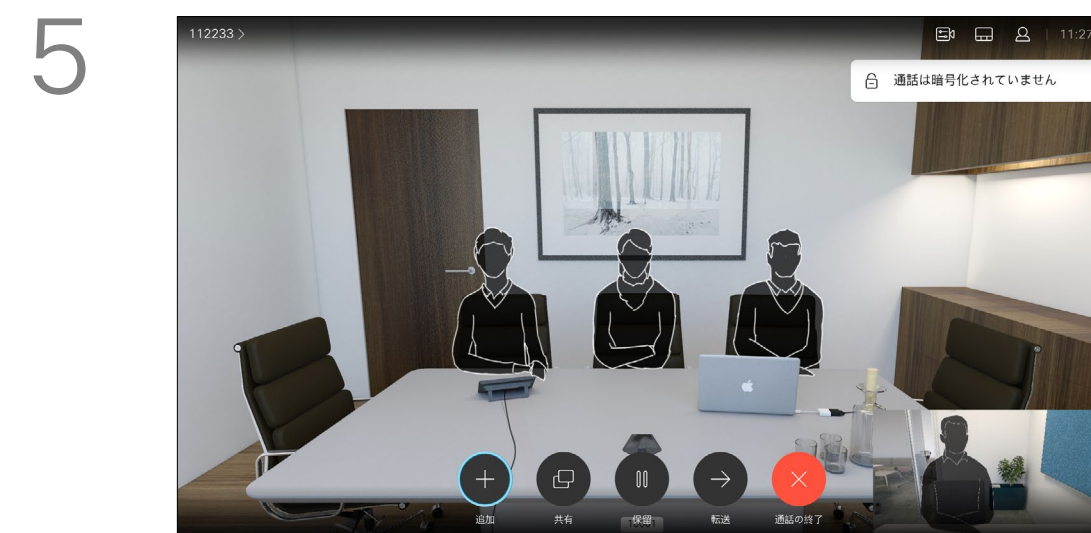
2 通常の方法で、追加する参加者を探します。OK を押します。



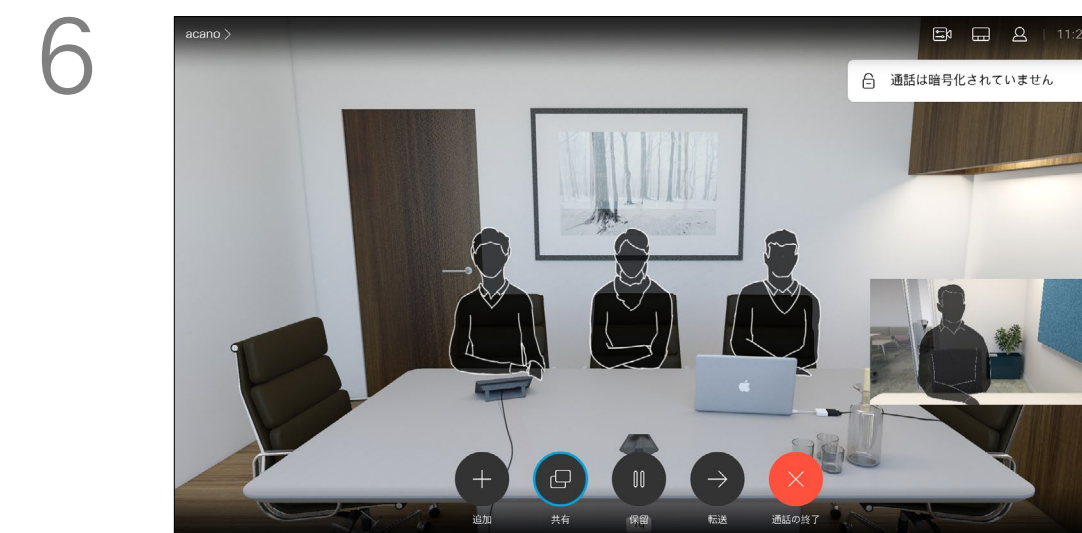
3 [追加 (Add)] に移動し、OK を押して通話を会議に追加します。



4 通話が統合されます。



5 必要に応じてこの操作を繰り返し、さらに参加者を追加します。



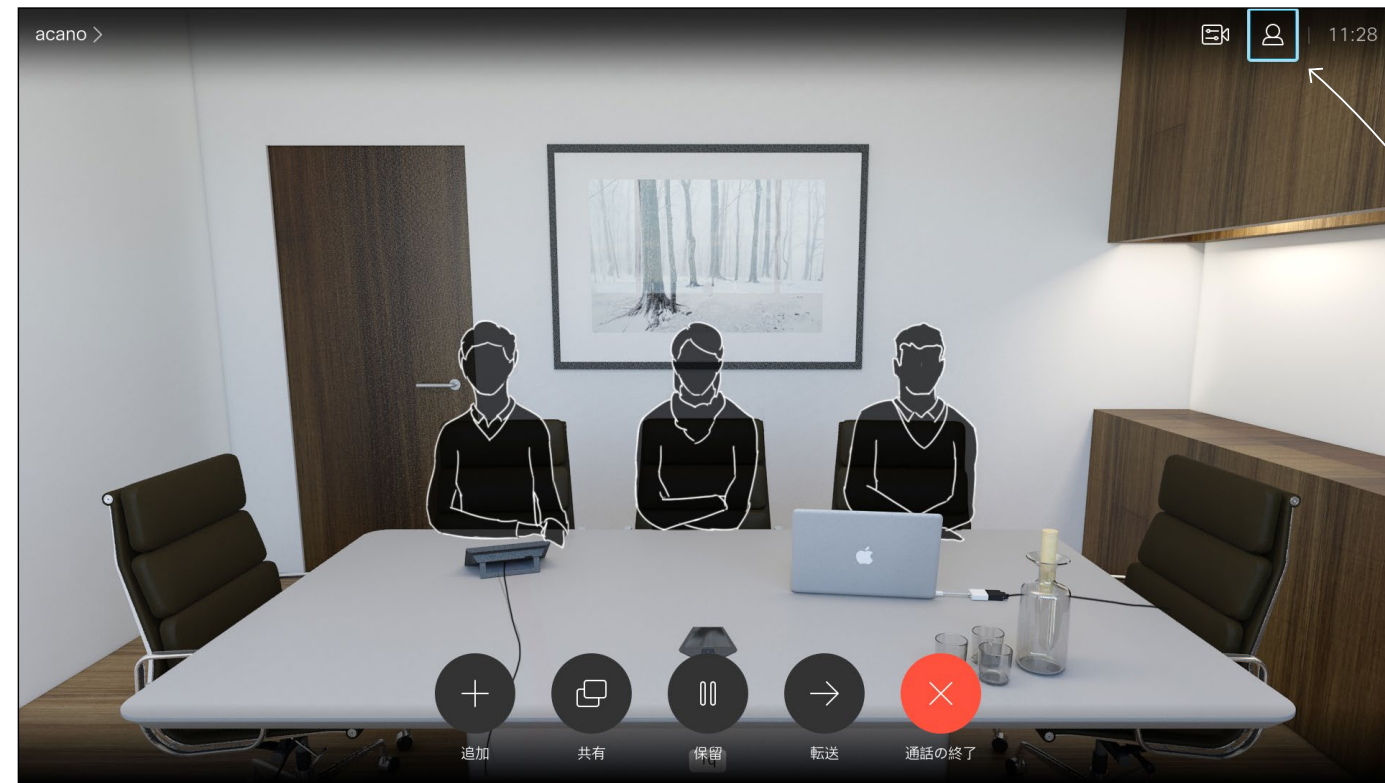
6 リモートコントロールの赤い通話終了ボタンを押すか、方向キーを使用して [通話の終了 (End Call)] を選択し、OK を押して通話を終了します。

お使いのビデオ システム ネットワークが、参加者が複数いるビデオ会議を開始する機能をサポートしている必要があります。ビデオ システムがサポートしている参加者の最大数は、システム構成とビデオ インフラストラクチャによって異なります。確信が持てない場合は、ビデオ サポート チームにお問い合わせください。ビデオ会議を開始する場合は、参加者に 1 人ずつ発信する必要があります。会議を開始したユーザは、会議全体を終了することができます。他の参加者は、会議から自分の接続のみを切断できます。

# ビデオ電話 電話会議から参加者を切断する

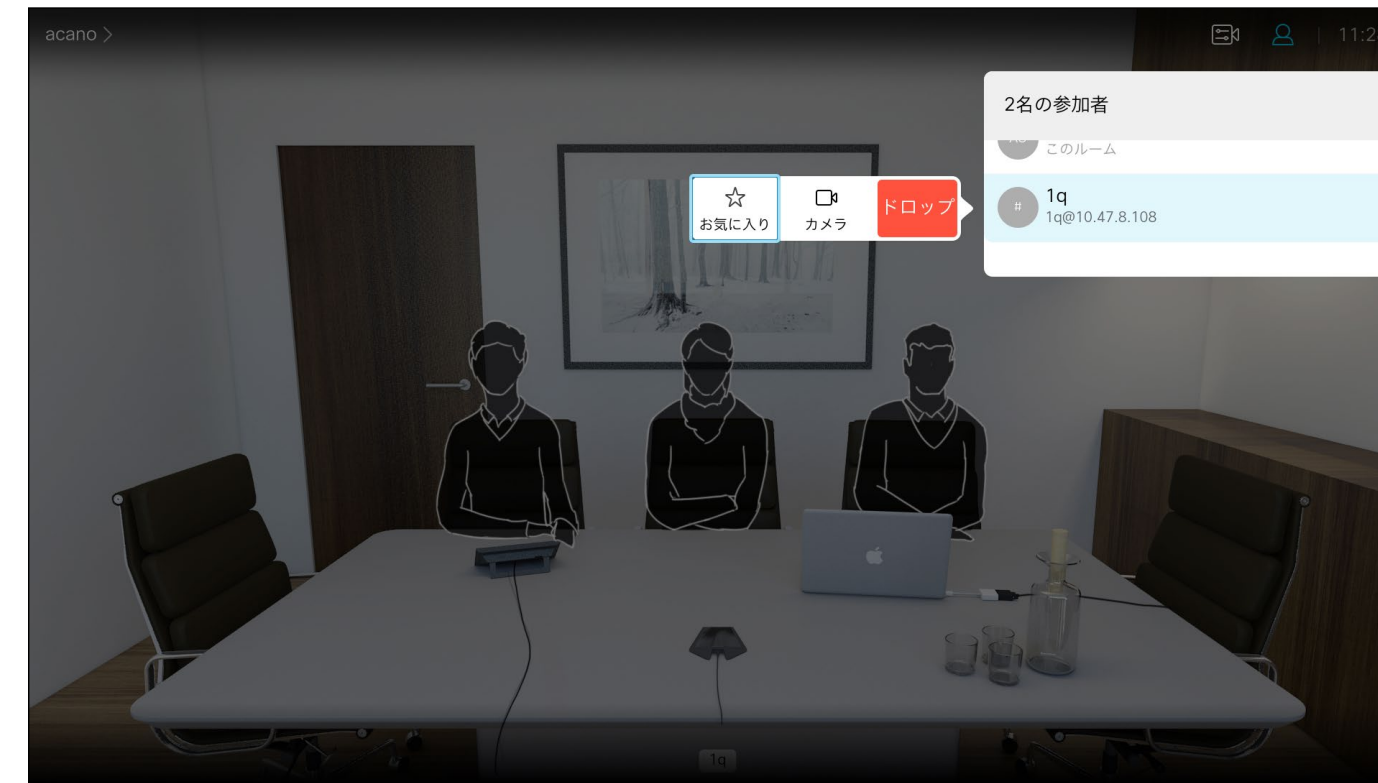
## ビデオ会議について

1



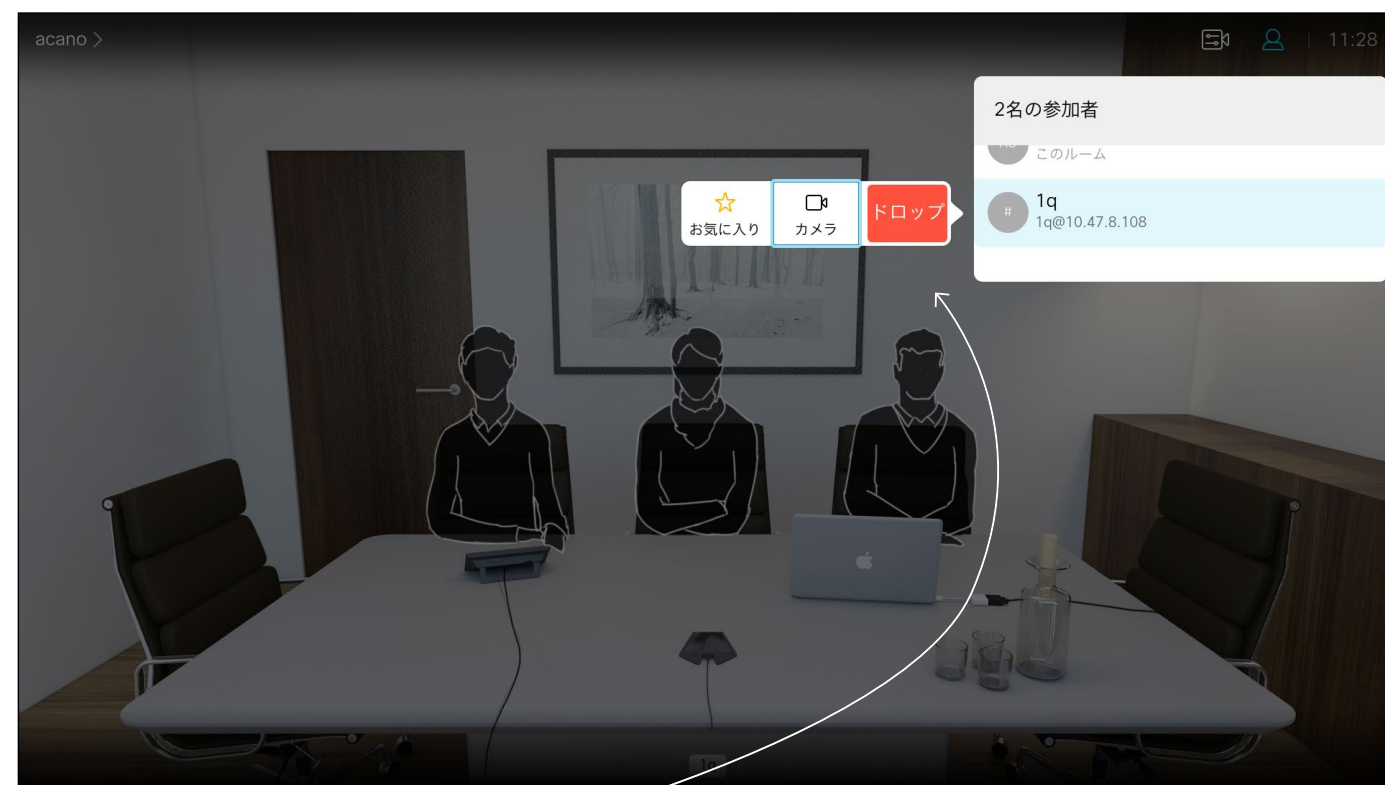
通話中に、図のように右上隅の参加者アイコンをタップし、OK を押して参加者リストを呼び出します。

2



会議からドロップさせる参加者まで下に移動し、OK を押します。

3

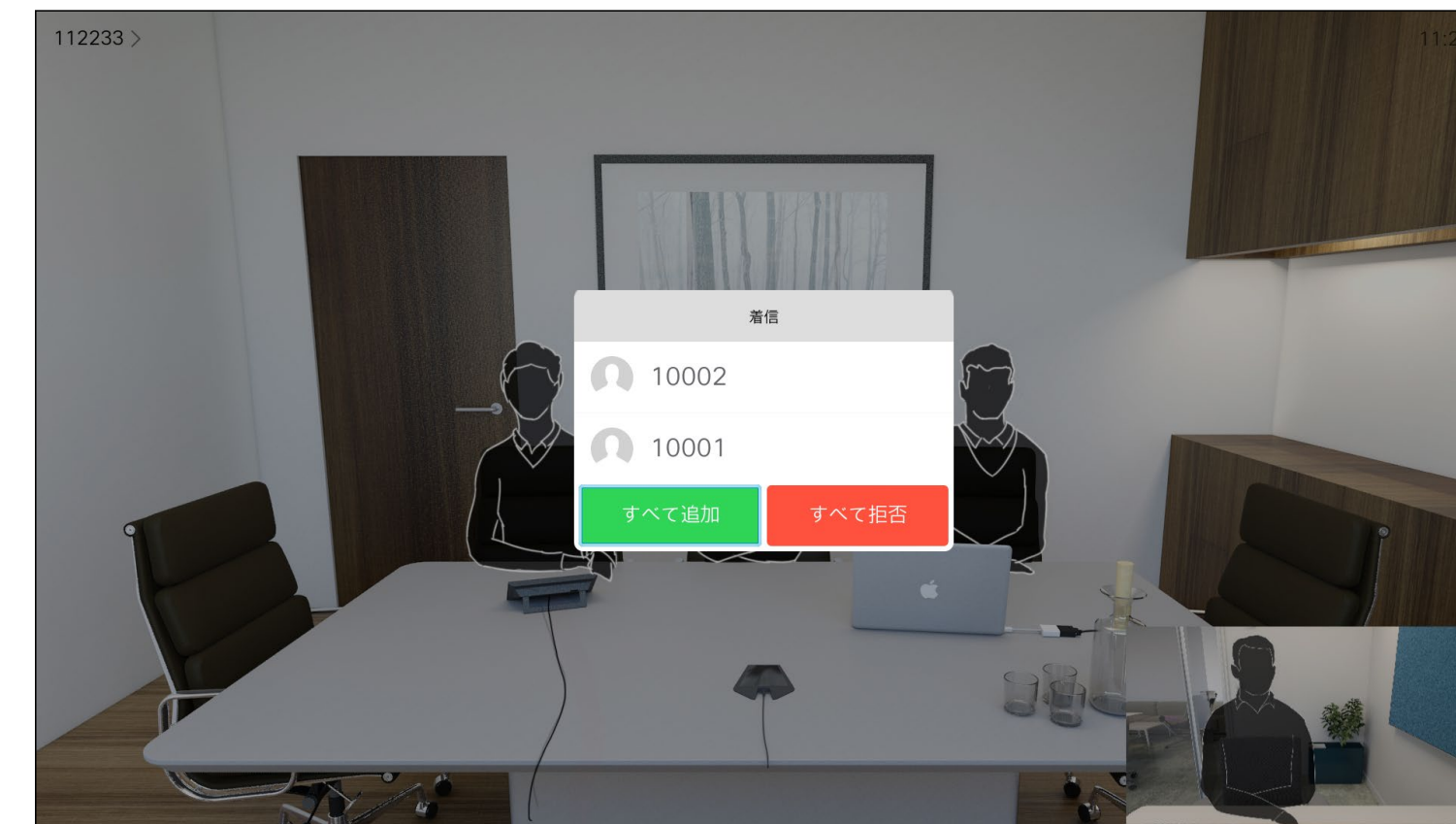
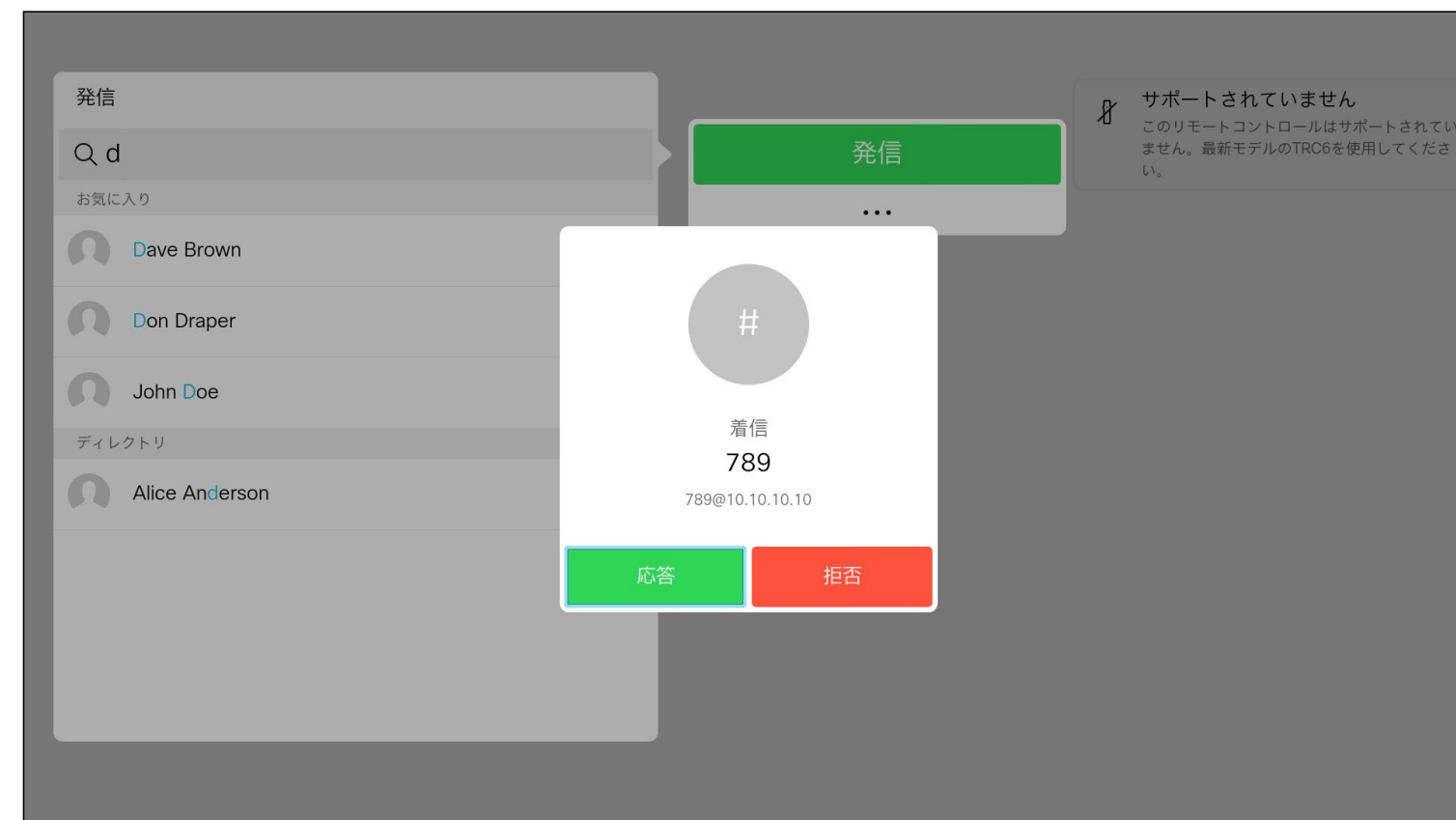


[ドロップ (Drop)] に移動して OK を押します。

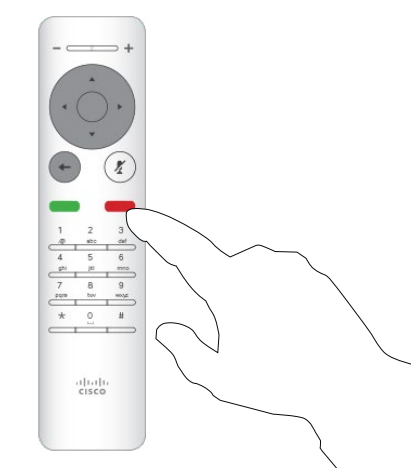
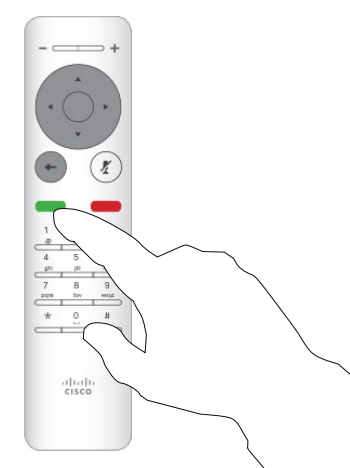
ビデオ システムからビデオ会議を行う機能はオプションの機能です。お使いのシステムで使用できる場合と使用できない場合があります。

# ビデオ電話 受信

## 着信があった場合



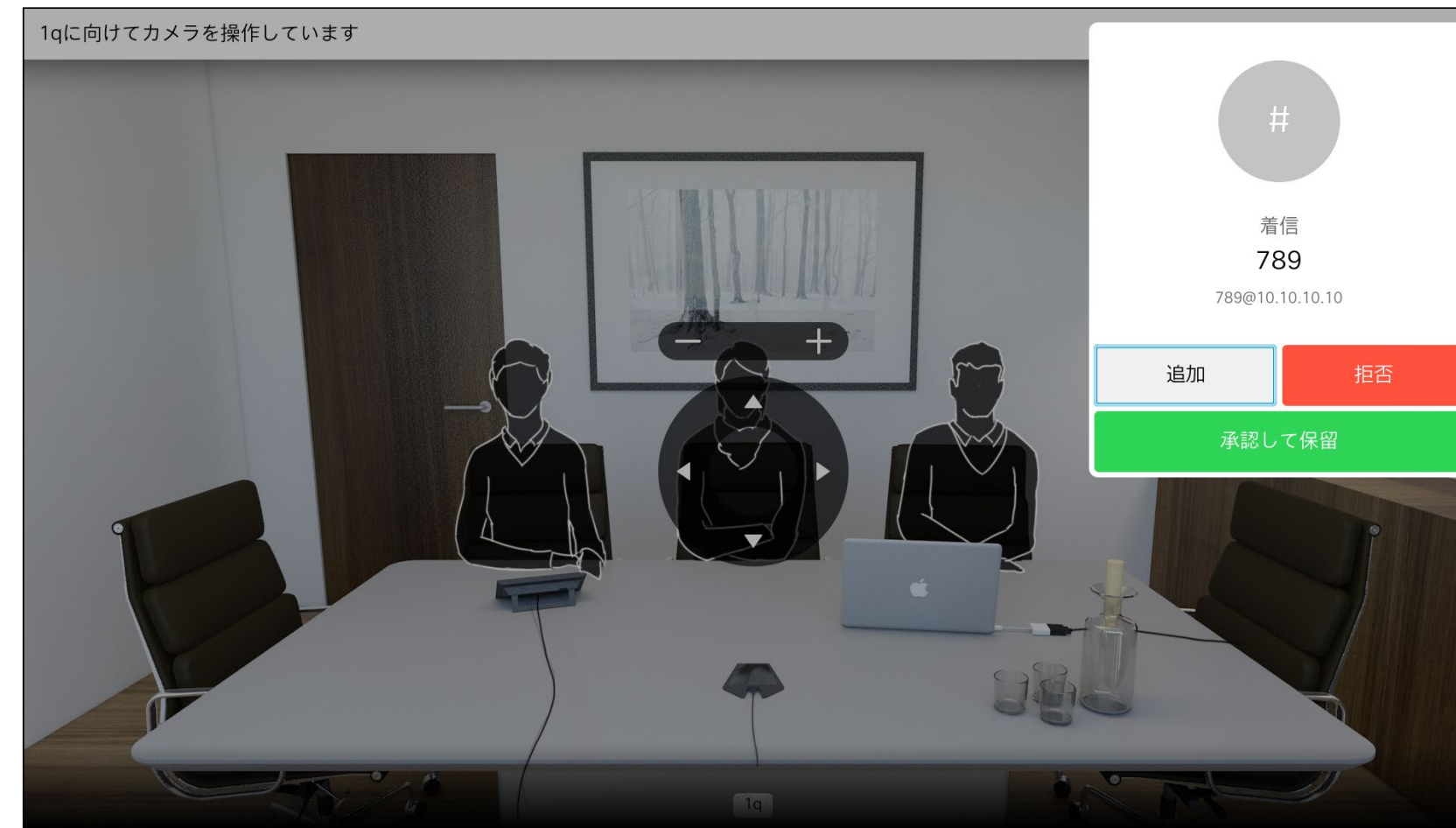
- ・ 着信があった場合は、通話を許可、拒否、または無視できます。
- ・ 通話を拒否した場合、ビジーであるという情報が発信者に送信されます。
- ・ 通話を無視した場合、発信者には、自分が不在である（通話を取らなかった）場合と同じように見えます。
- ・ ビデオ インフラストラクチャによっては、複数の着信コールを受信できます。必要に応じてビデオ サポート チームに問い合わせてください。



リモート コントロールの円形ボタンの下にある発信/通話終了キーを直接使用することもできます（着信に応答するには左側の緑色のキー、拒否するには右側の赤のキー）。

## ビデオ電話 通話中に別の着信を受信する

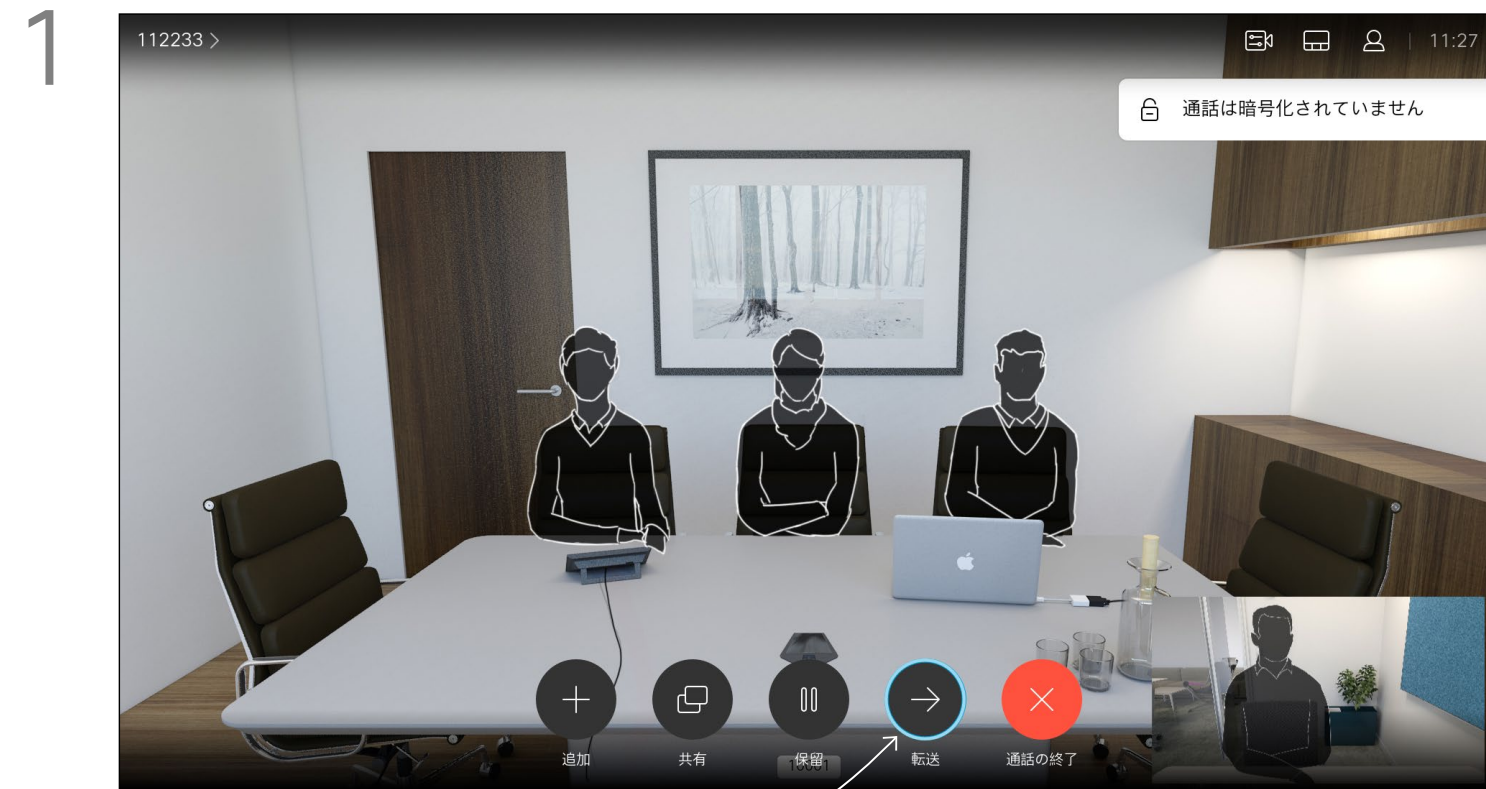
## 通話の拡張



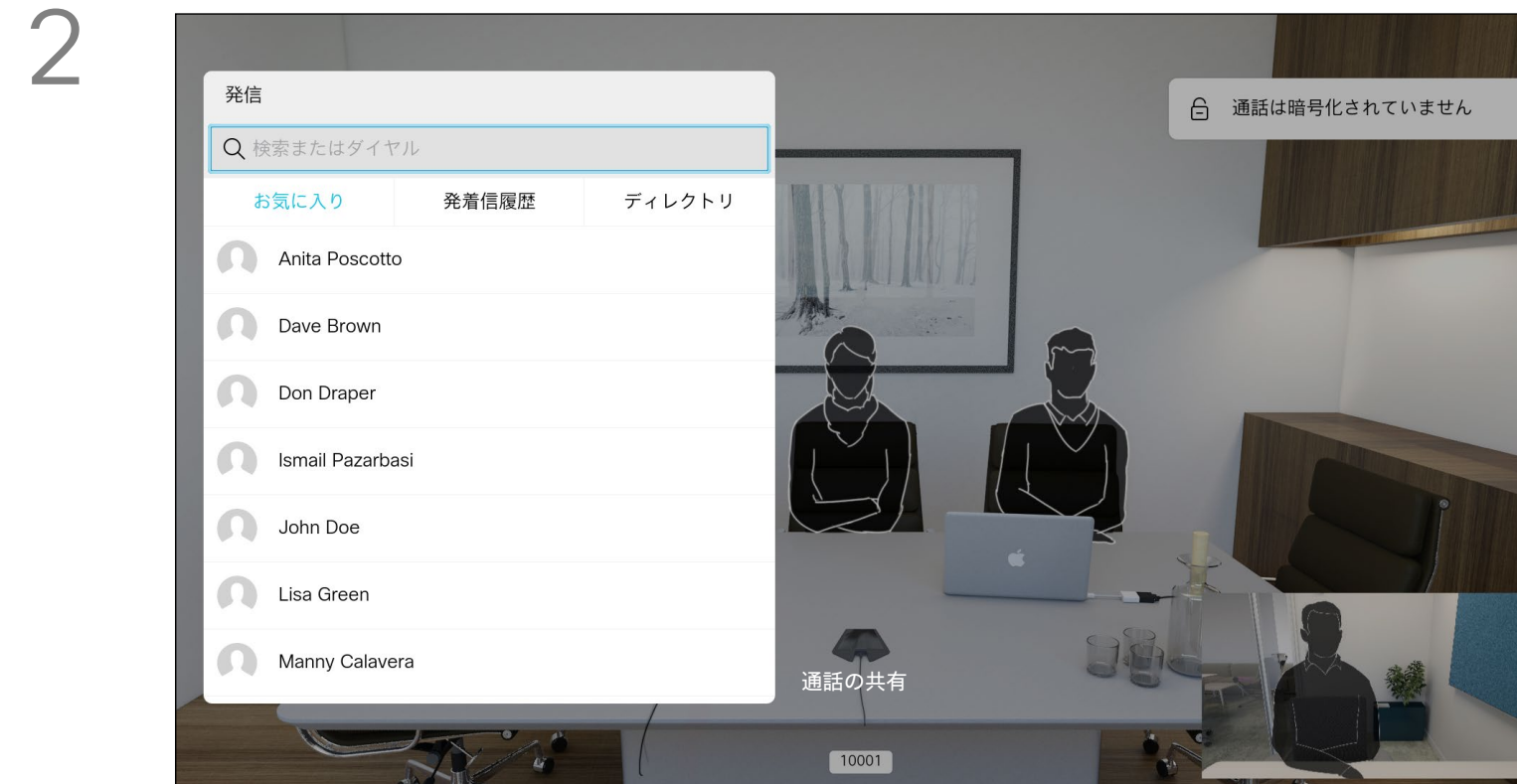
通話中に別の着信があった場合、着信を拒否する、現在の通話に着信を追加する、または現在の通話を保留しの着信を受信することができます。

- ・ 着信があった場合は、通話を許可、拒否、または無視できます。
- ・ 通話を拒否した場合、ビジーであるという情報が発信者に送信されます。
- ・ 通話を無視した場合、発信者には、自分が不在である（通話を取らなかった）場合と同じように見えます。
- ・ ビデオ インフラストラクチャによっては、複数の着信コールを受信できます。必要に応じてビデオ サポート チームに問い合わせてください。

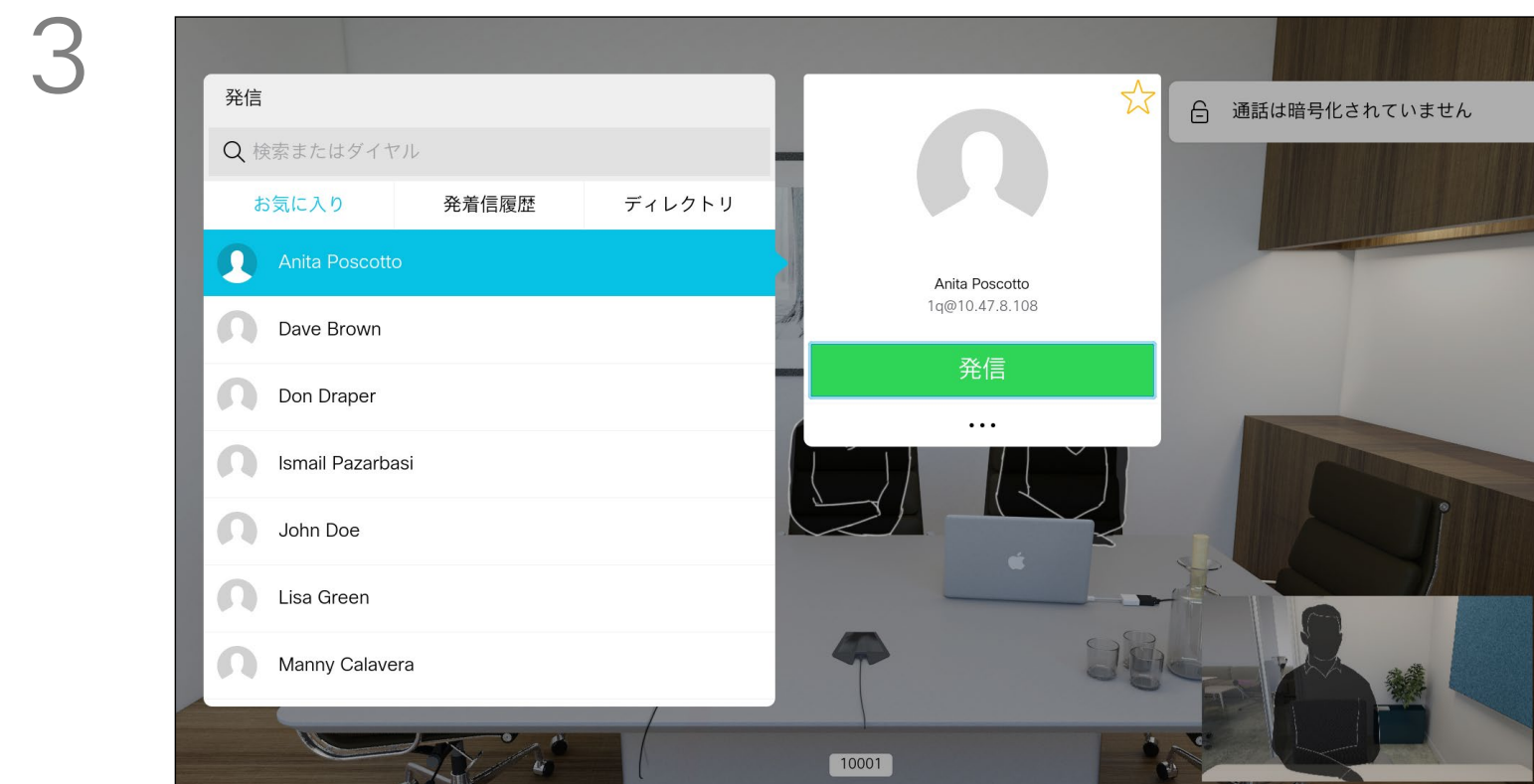
# ビデオ電話 対応中の通話の転送



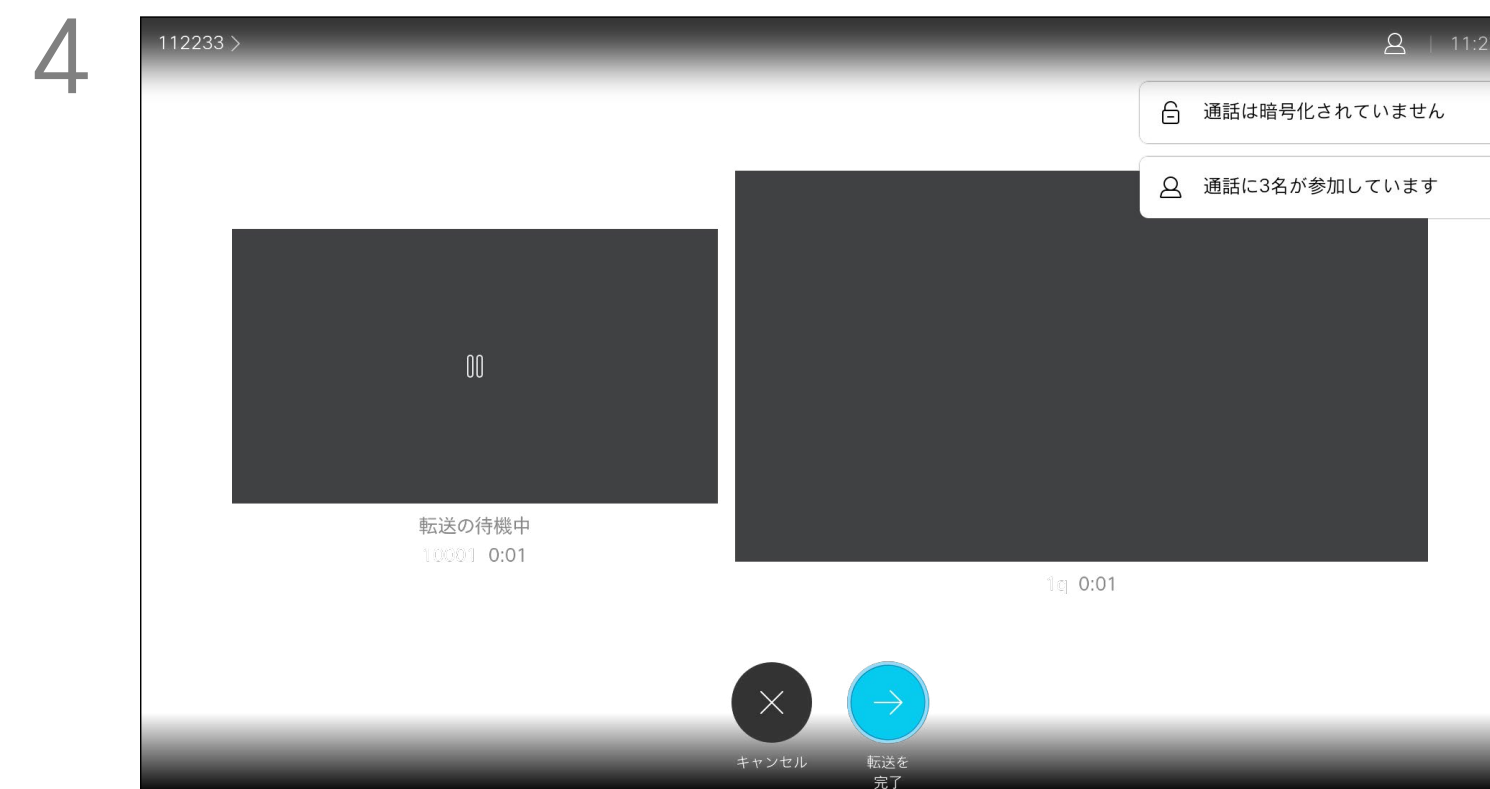
[転送 (Transfer)] に移動し、リモート コントロールの OK を押します。現在の通話が保留になります。



通常の方法で、発信先を探します。



緑色の [発信 (Call)] アイコンを選択して OK を押すか、リモート コントロールの緑色の発信ボタンを押します。

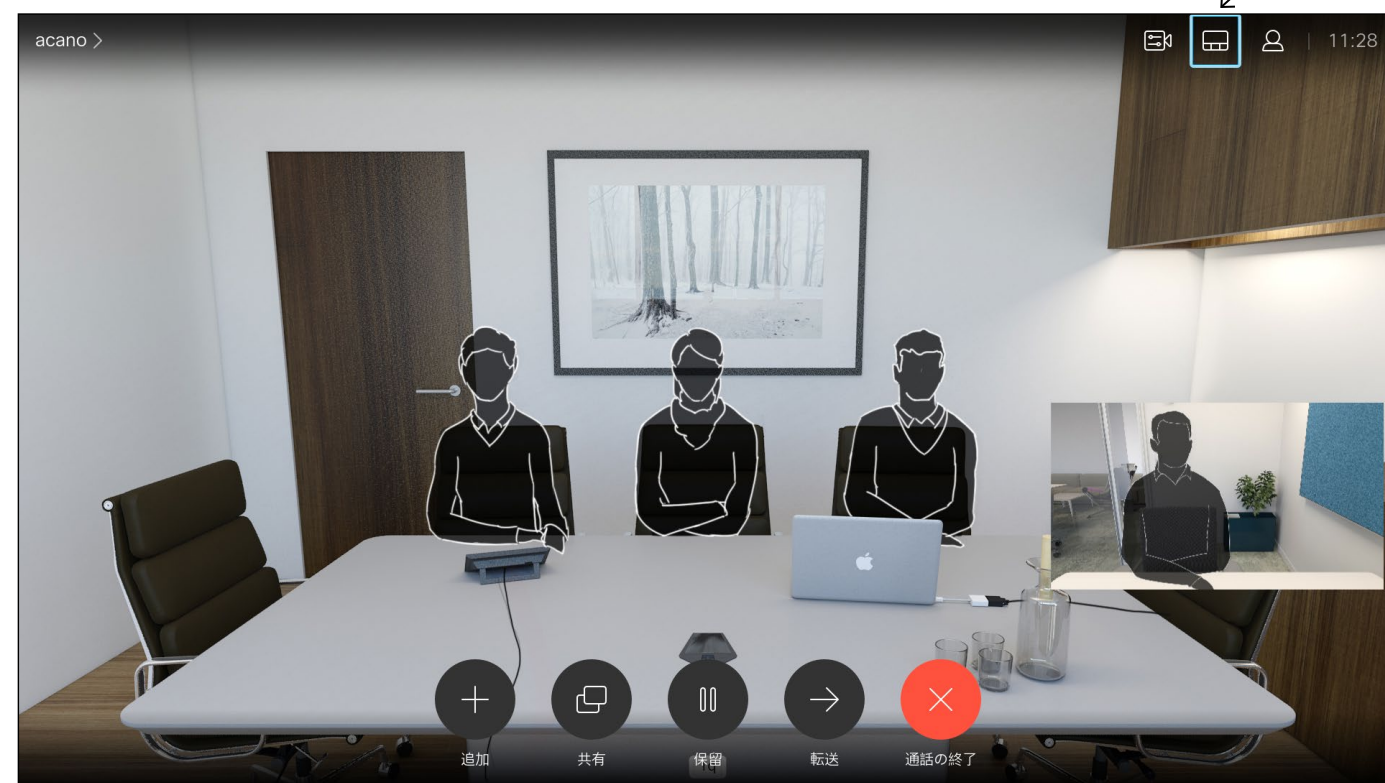


転送してよいかどうか確認します。転送先では保留中のままになります。[転送完了 (Complete Transfer)] を選択して、リモート コントロールの OK を押します。

# ビデオ電話 スクリーンのレイアウトの変更

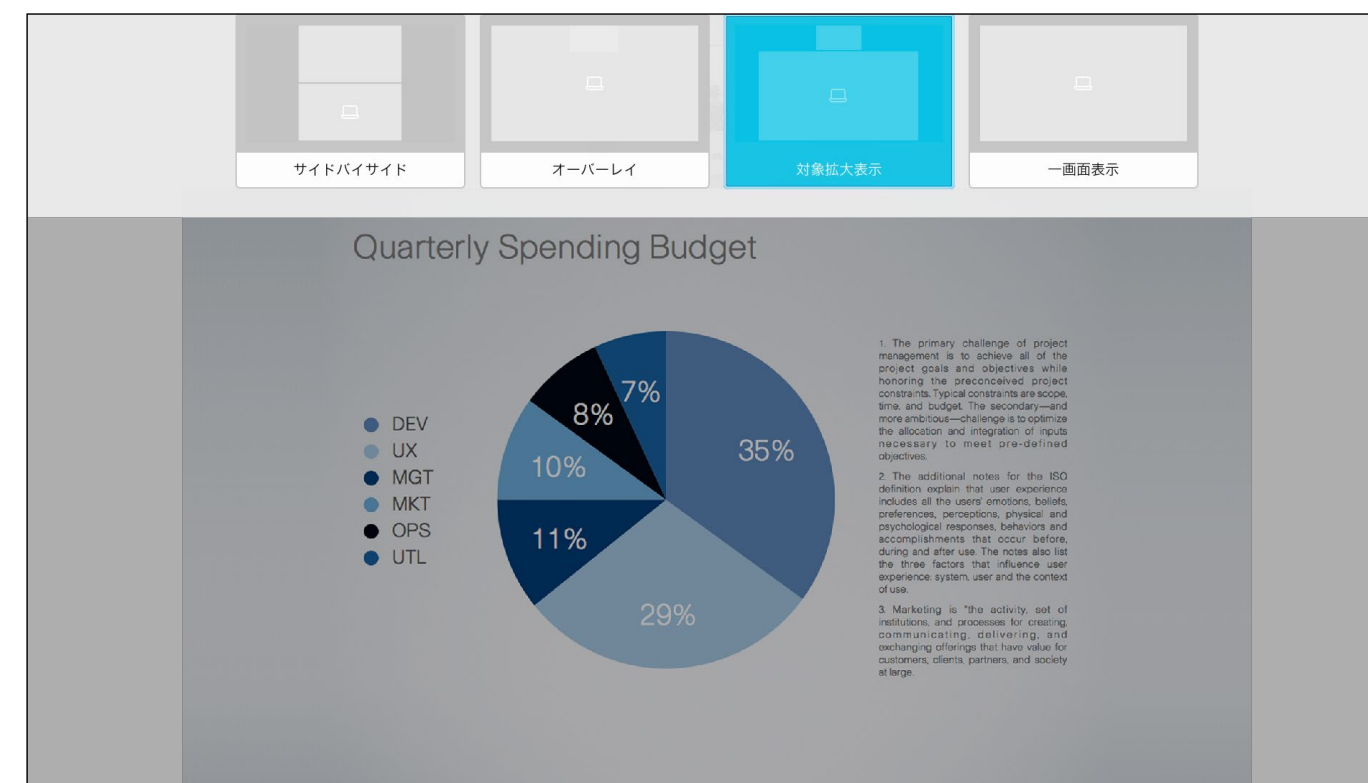
## レイアウトについて

1



右上隅の [レイアウト (Layout)] に移動し、リモコンの [OK] を押します。該当する場合にだけ、このアイコンが表示されます。

2



方向キーを使用して新しいレイアウトを選択し、OK を押します。

コンテンツを共有する場合、またはビデオ会議中の場合は、画面に表示されるビデオのレイアウトを変更できます。

ビデオ会議は、組織に一定のインフラストラクチャがないと開始できません。確信が持てない場合は、ビデオ サポートチームに問い合わせてください。

ただし、他の人によってビデオ会議に招待されることができます。招待された場合は、スクリーン レイアウトを変更する機能を使用できます。

システムによって提供されるレイアウト変更オプションは、コンテキストおよび参加者数によって決まります。

ここで行った変更は、他の人には影響しません。

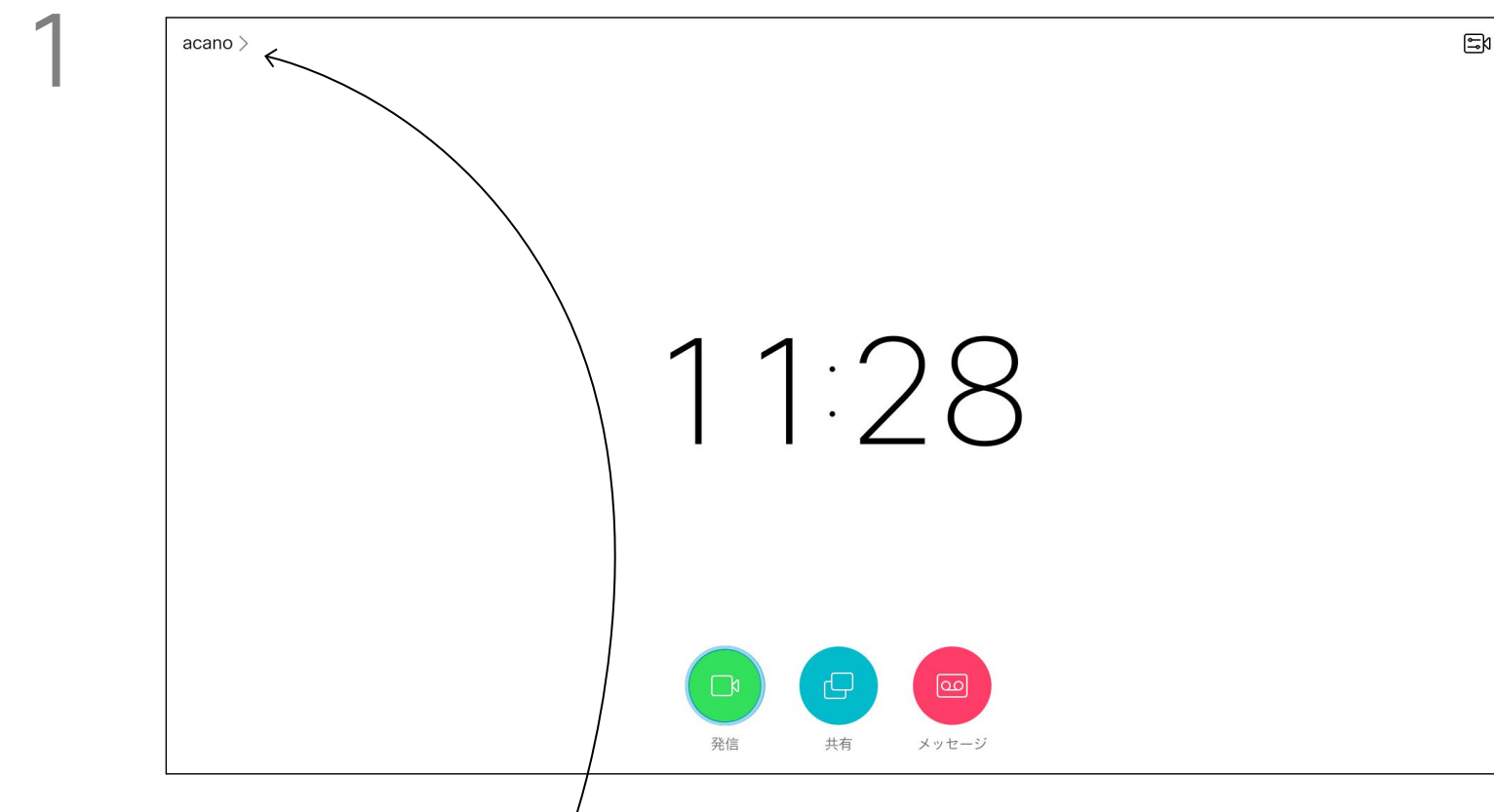
# ビデオ電話 [応答不可 (Do Not Disturb)] を有効にする

## 応答不可について

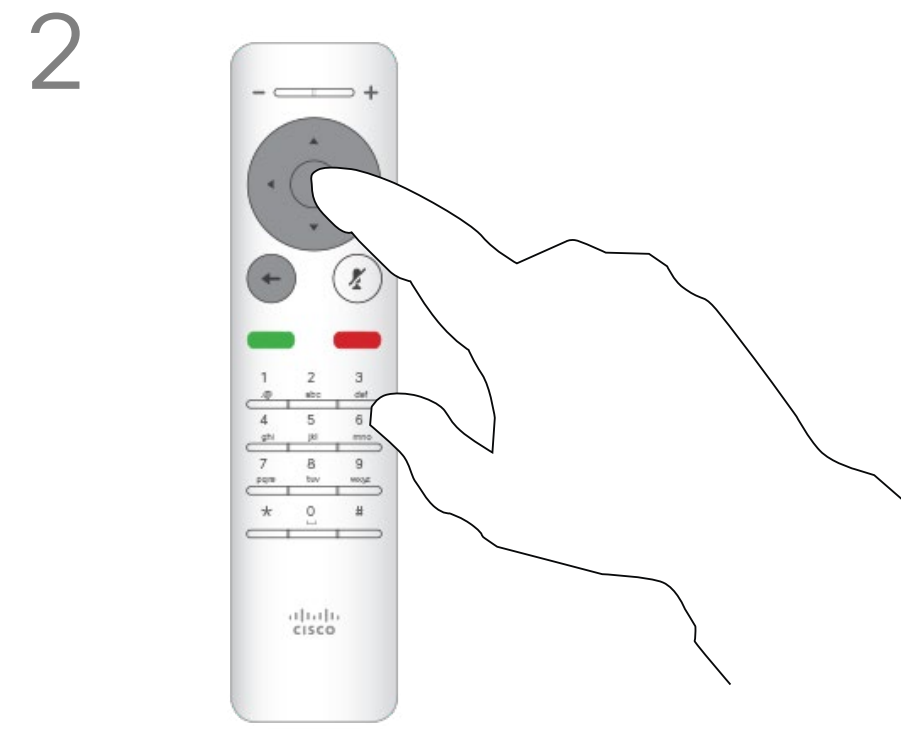
着信通話に回答しないようにシステムを設定できます。

[応答不可] に設定すると、着信音はミュートになり、他者からの着信は不在着信として表示されます。ただし、こちらからは必要時にいつでも発信することができます。

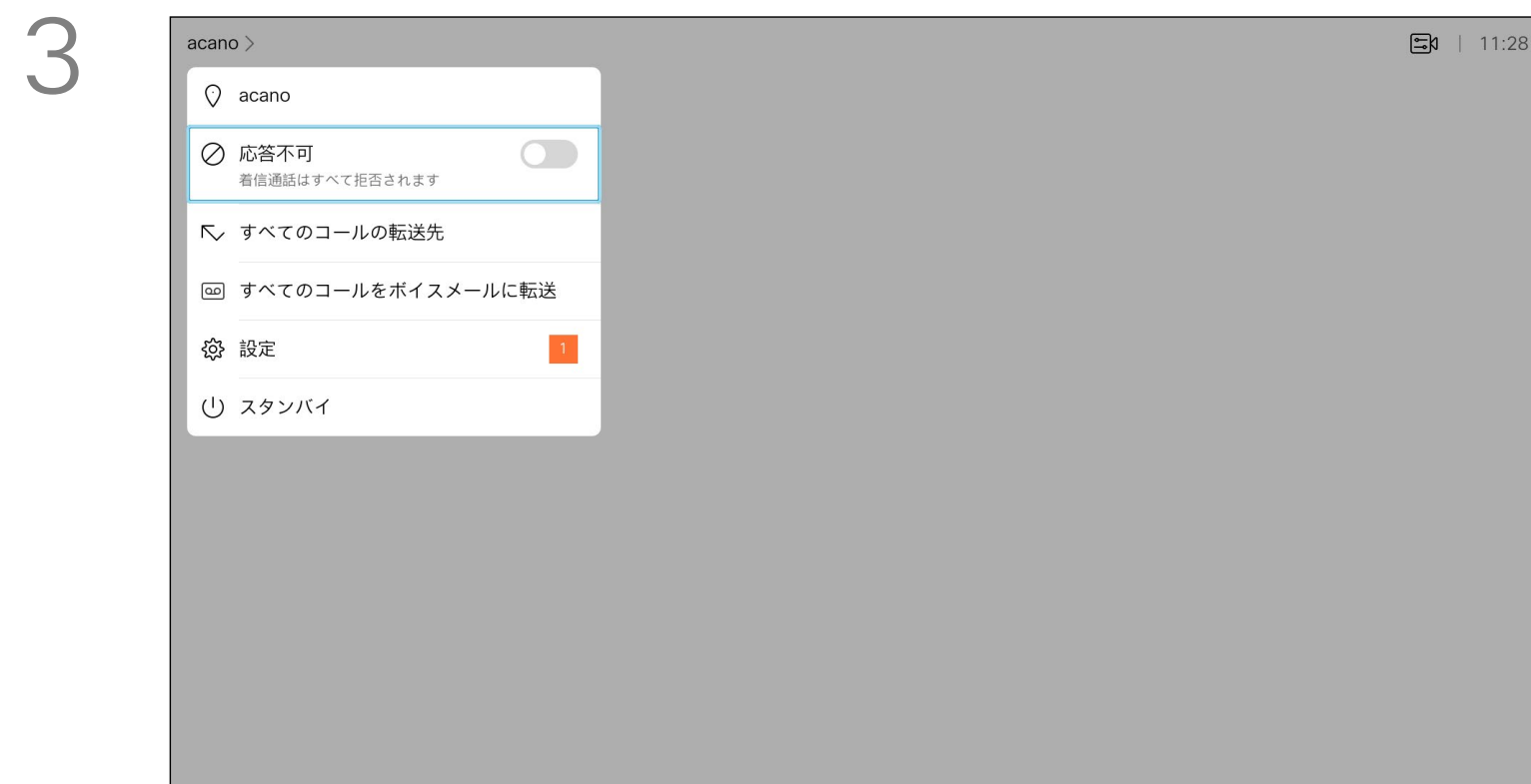
デフォルトでは、応答不可には 60 分のタイムアウトがあります (この後、システムは通常動作に戻ります) が、ビデオ サポート チームによって異なる設定に変更されている場合があります。



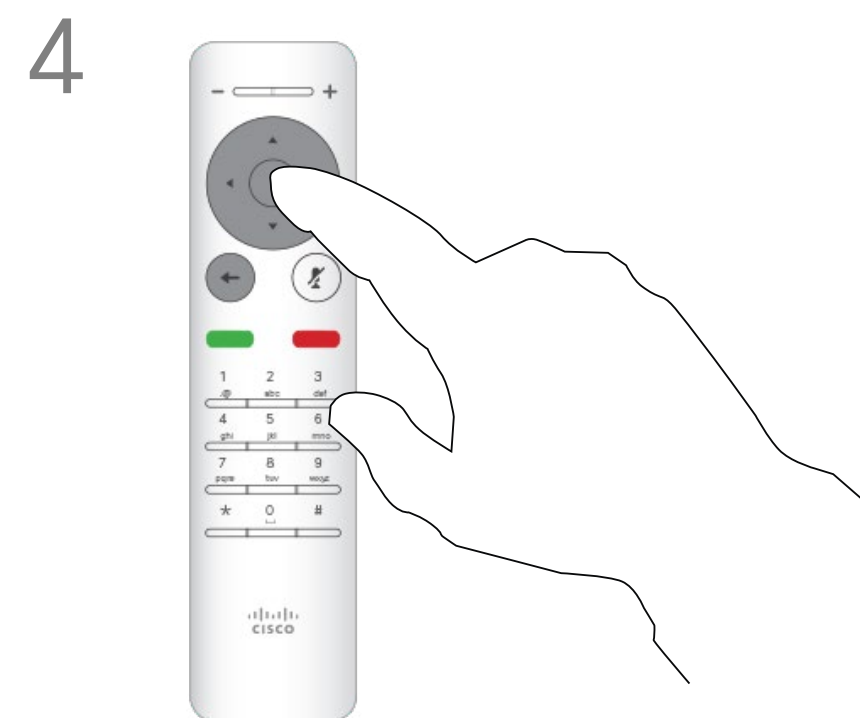
1 [ホーム (Home)] 画面でリモート コントロールの方向キーを使用して、画面の左上隅にある [その他 (More)] アイコン (>) を選択します。



2 リモート コントロールの OK を押します。



3 リモート コントロールの下方向キーを押して [応答不可 (Do Not Disturb)] に移動し、リモート コントロールの OK ボタンでオンまたはオフに設定します (切り替え)。

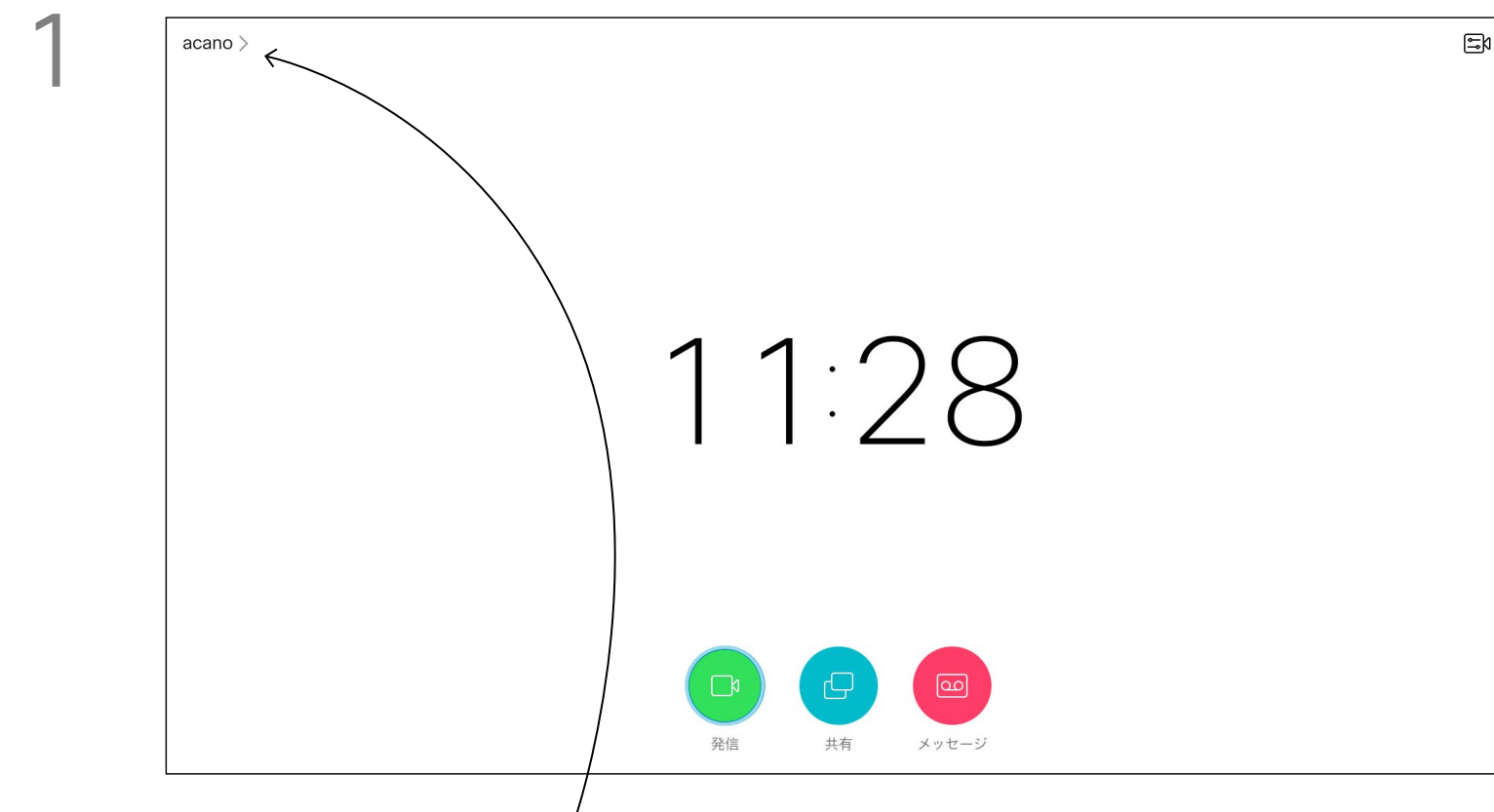


4 リモート コントロールの OK キーを押してメニューを終了させると、変更が有効になります。

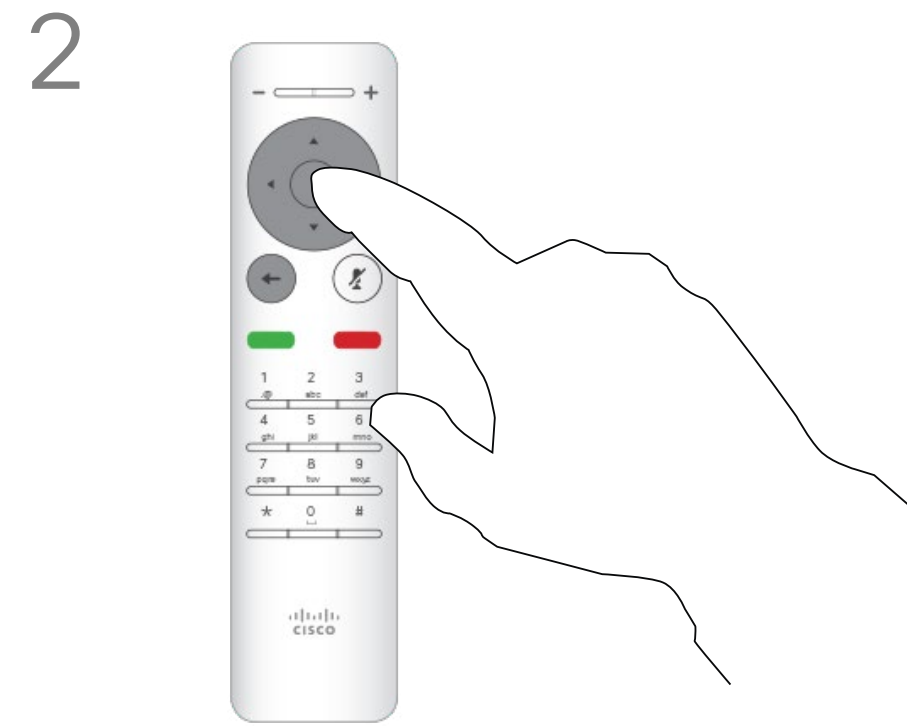
# ビデオ電話 スタンバイを有効にする

## スタンバイについて

システムをスタンバイに設定して電力を節約できます。この場合も、通常どおりに着信できます。



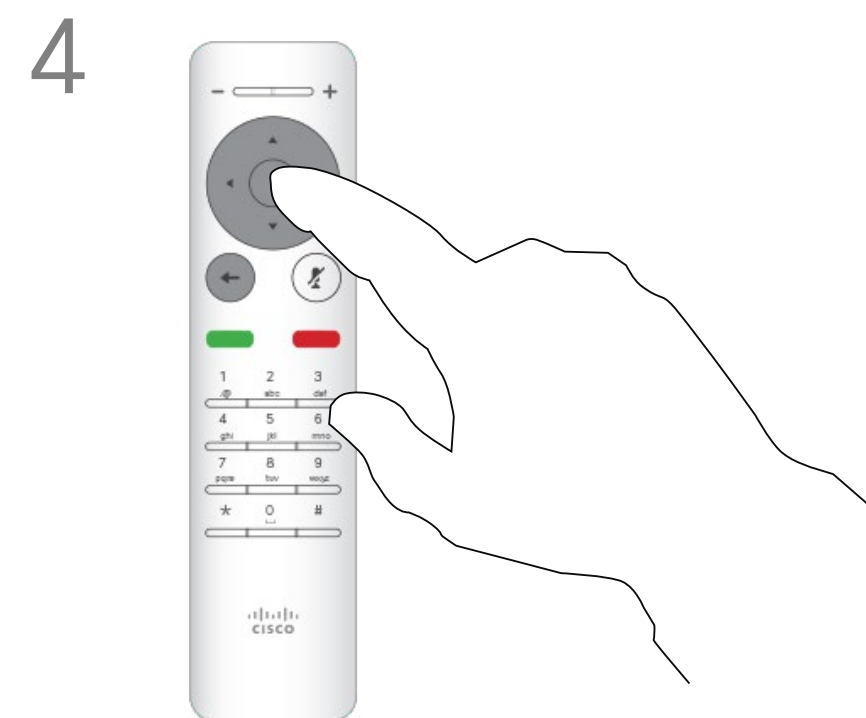
[ホーム (Home)] 画面でリモート コントロールの方向キーを使用して、画面の左上隅にある [その他 (More)] アイコン (>) を選択します。



リモート コントロールの OK を押します。



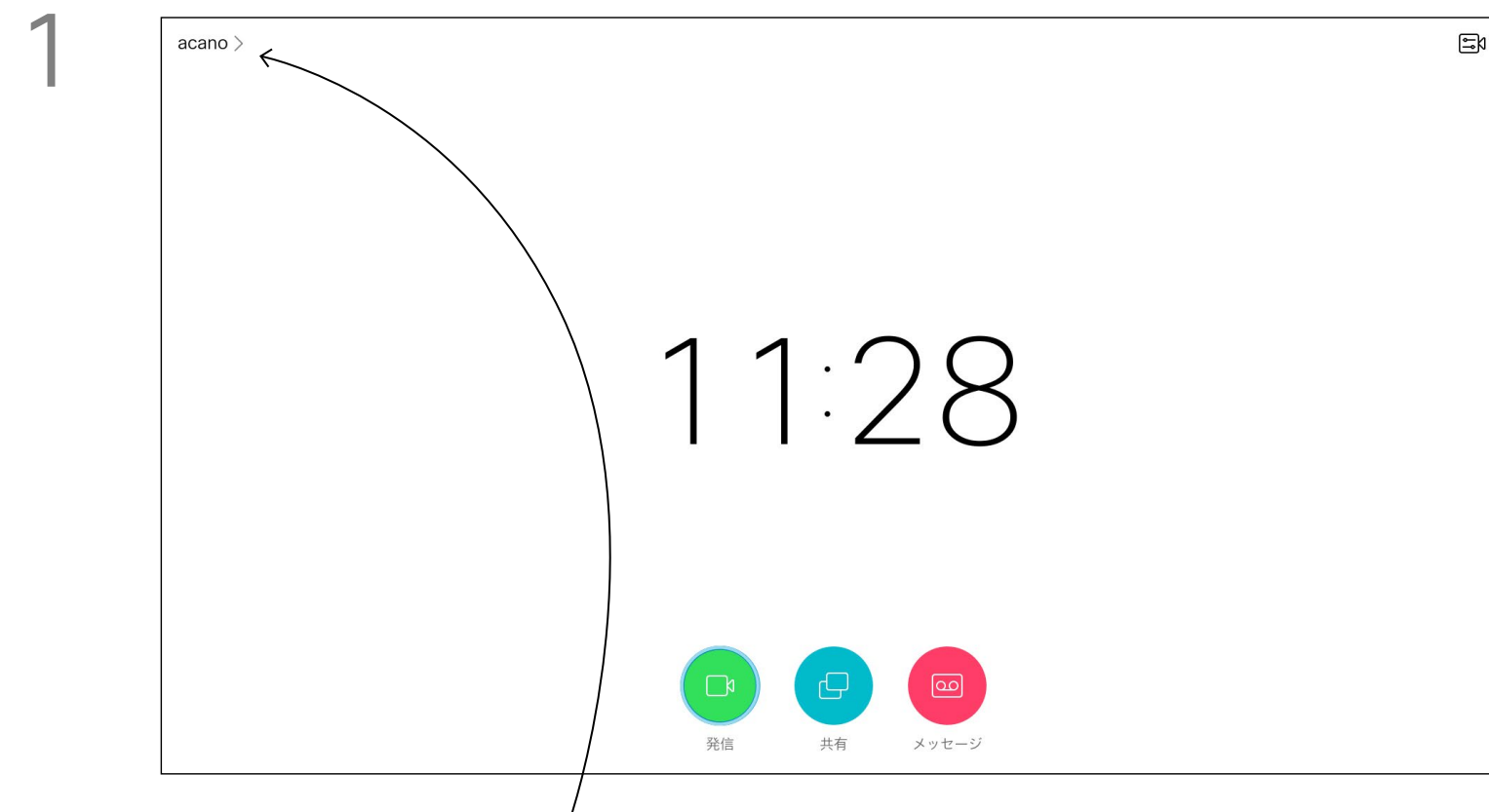
下方向キーを押して [スタンバイ (Standby)] に移動します。



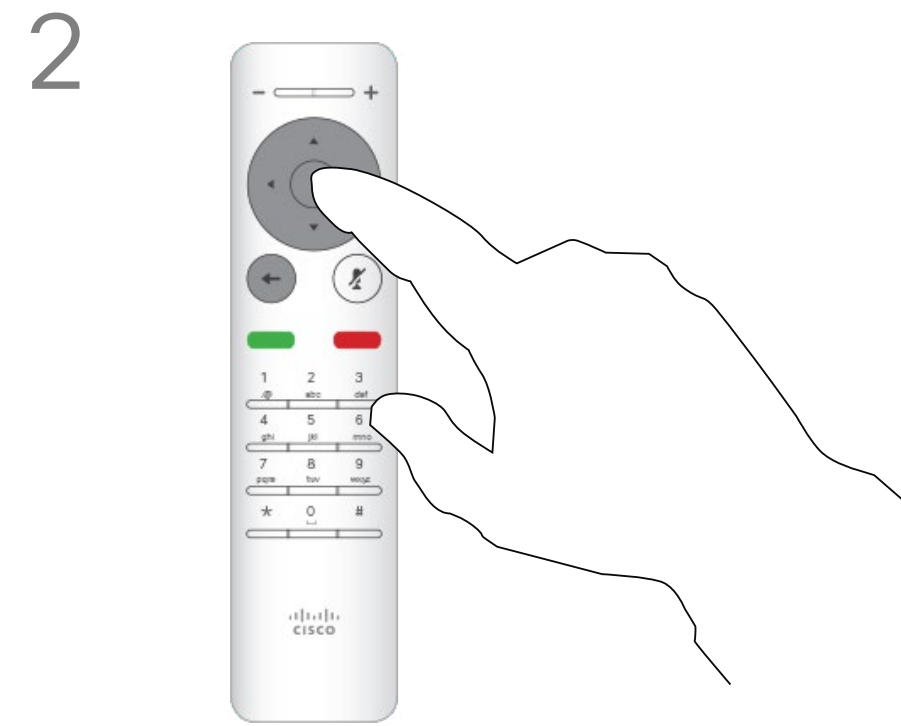
リモート コントロールの OK キーを押してメニューを終了させると、変更が有効になります。

# ビデオ電話 すべてのコールを転送する

## 転送について



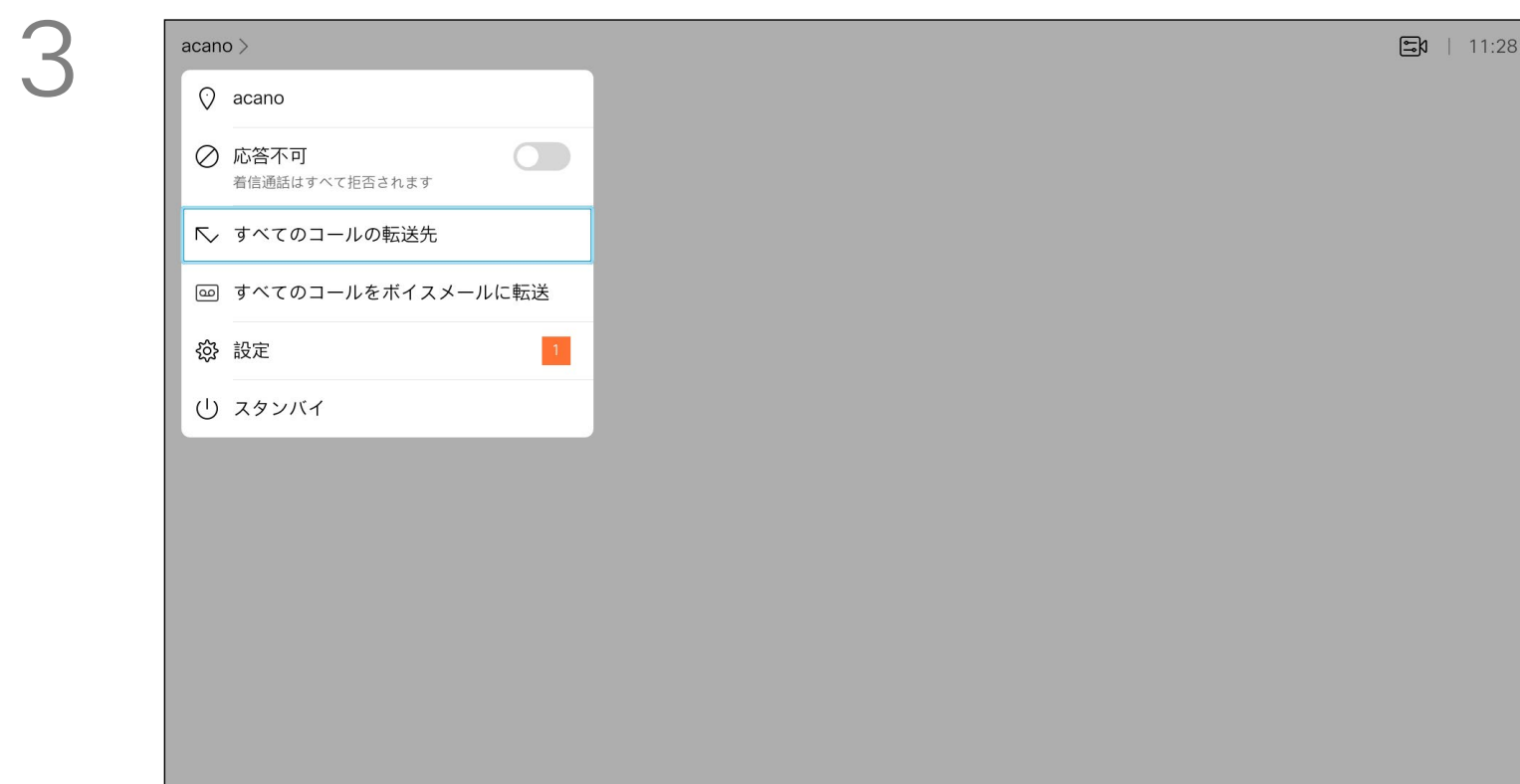
1 [ホーム (Home)] 画面でリモート コントロールの方向キーを使用して、画面の左上隅にある [その他 (More)] アイコン (>) を選択します。



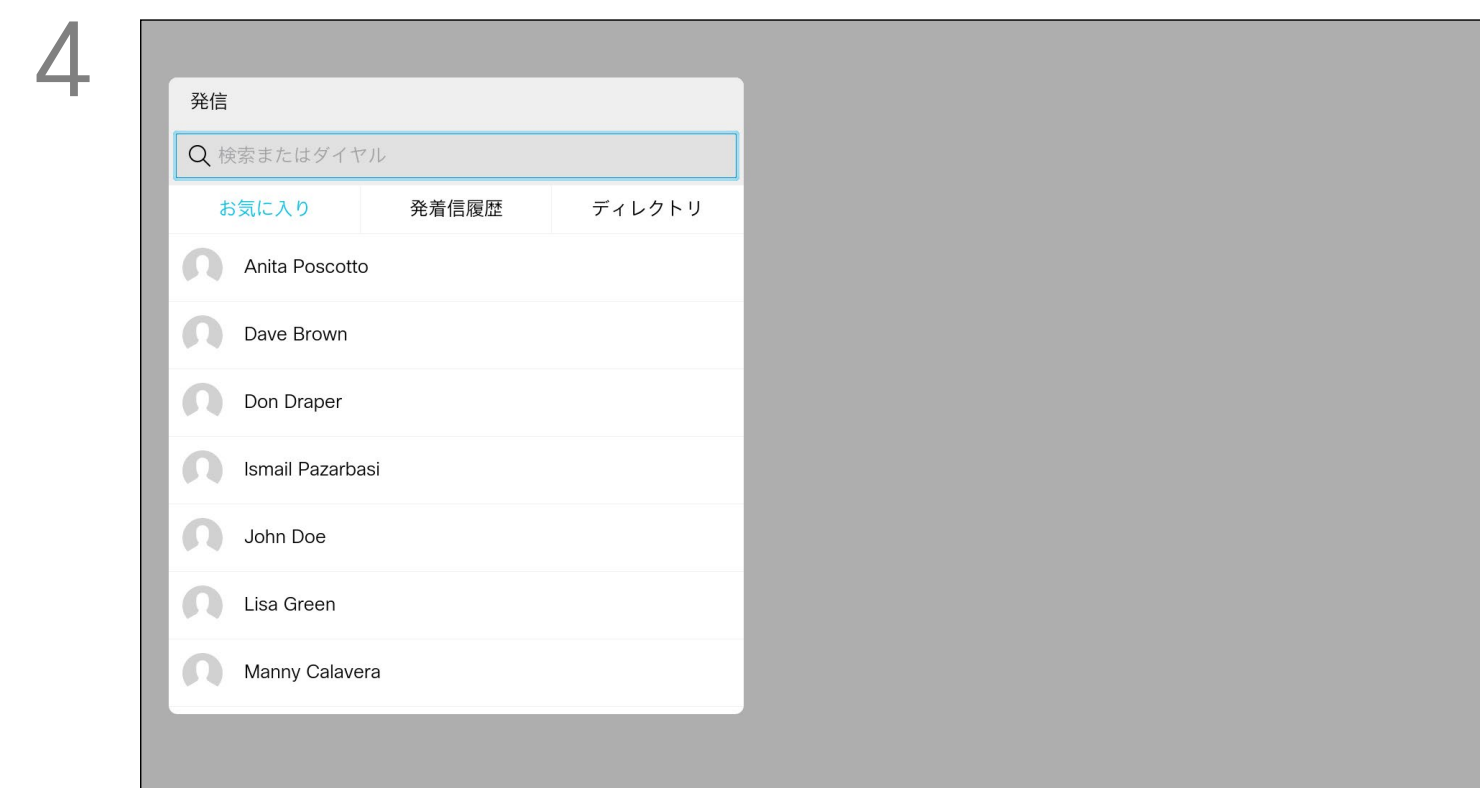
2 リモート コントロールの OK を押します。

ビデオ サポート チームがすべての受信コールを転送するオプションを有効にしている場合もあります。ボイスメールに転送するか、受信者を指定して転送するかを選択できます。

[すべての通話の転送先 (Forward all calls to...)] を選択すると、いつもの [発信 (Call)] メニューが表示され、受信者を指定できます。

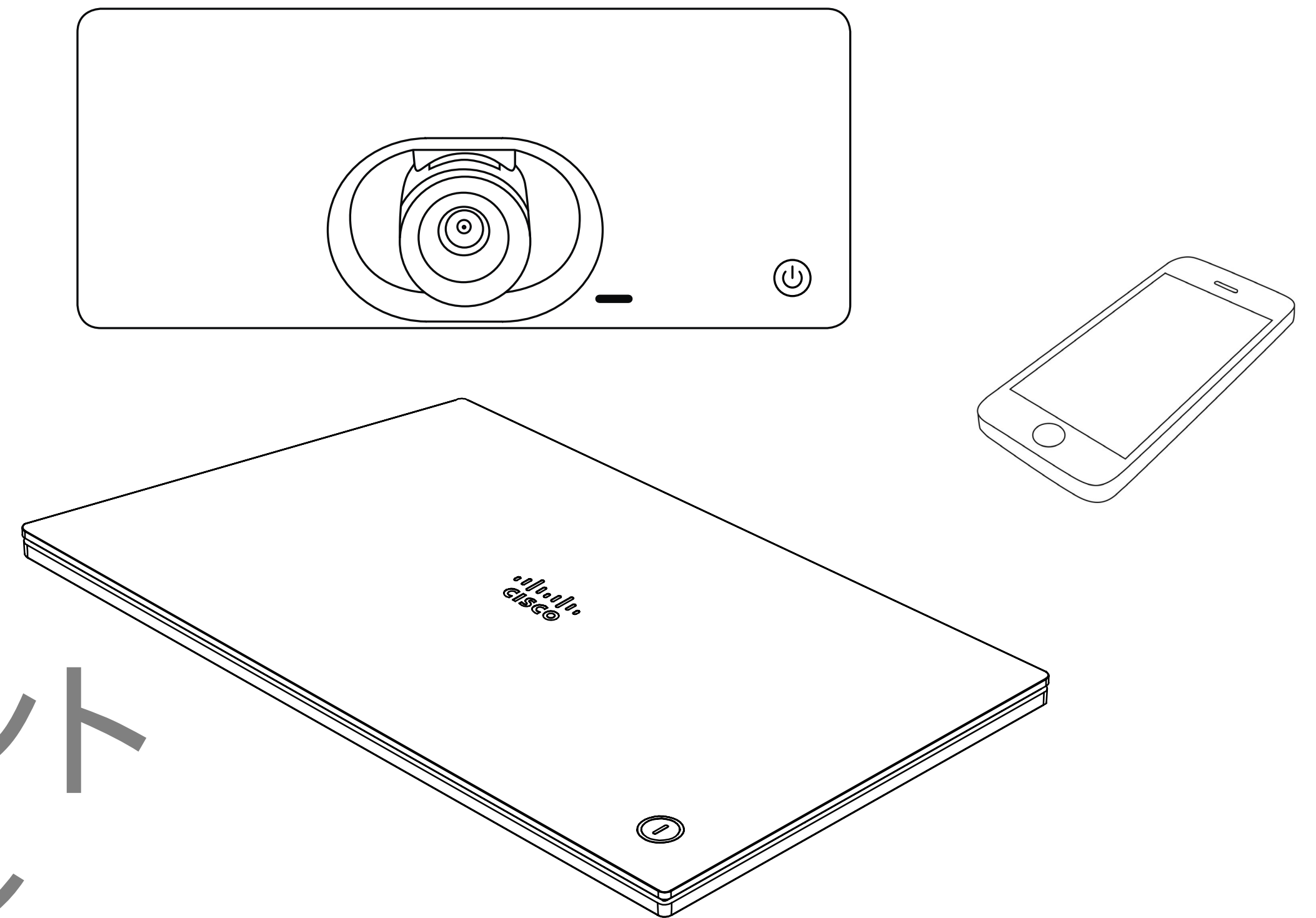


3 方向キーを押して [すべての通話の転送先 (Forward all calls to...)] に移動します。すべての通話をボイスメールに転送するには、[すべての通話をボイスメールに転送 (Forward all calls to Voicemail)] に移動し、OK を押します。



4 [すべての通話の転送先 (Forward all calls to...)] を選択すると、[発信 (Call)] メニューに移動します。すべての着信を受信する人を、その人に発信しようとしている場合と同じ方法で選択します。

# インテリジェント プロキシミティ

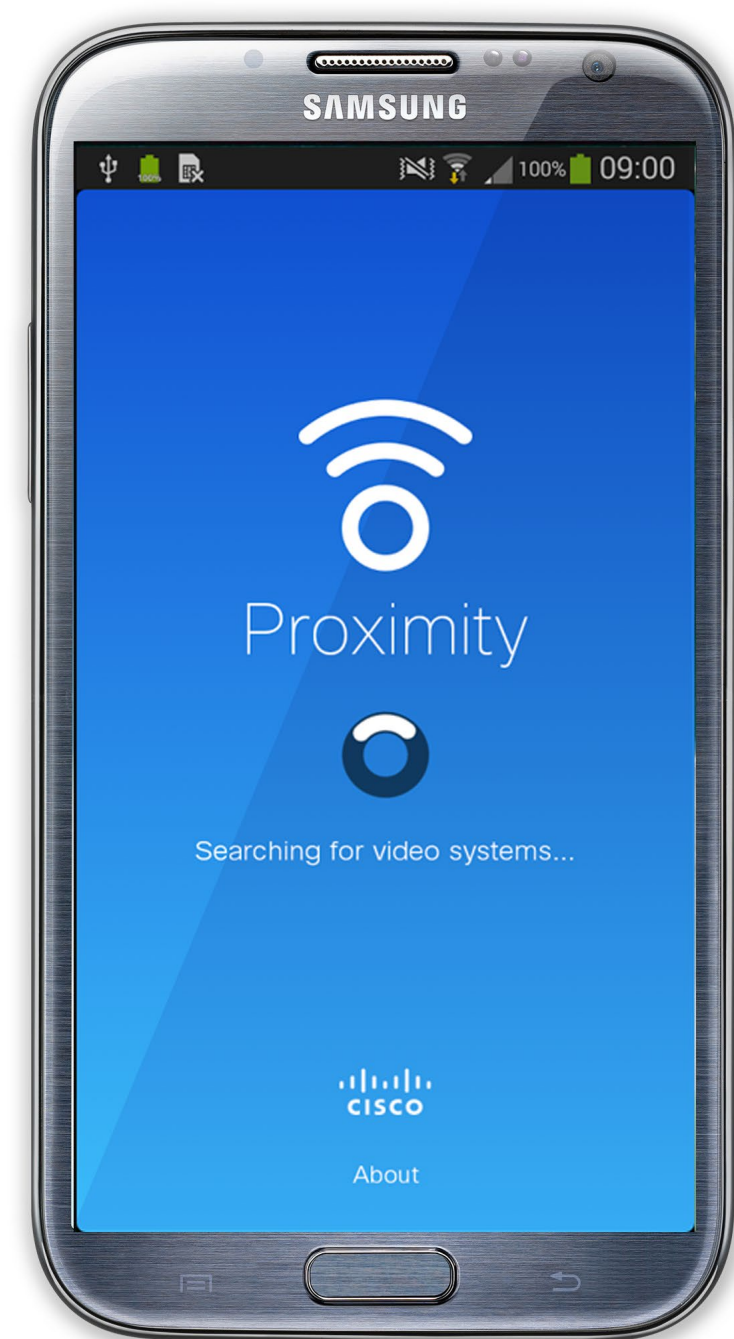


# シスコの Proximity の超音波信号

シスコのビデオ システムは、Proximity 機能の一部として超音波を発します。業務用または商用アプリケーション、家電製品など、ほとんどの人は毎日さまざまな環境で、程度の差はあれ超音波にさらされています。

人によっては空中の超音波によって何らかの影響を自覚する場合がありますが、75 dB 未満の音圧レベルで影響が生じることはほとんどありません。超音波にさらされる量の制限値のガイドラインは国によって大きく異なりますが、シスコの Proximity 信号によって発せられている 75 dB は 20 kHz の周波数帯域での現状の最小制限値です。

この情報の参考資料として、カナダ保健省のガイドライン [http://www.hc-sc.gc.ca/ewh-semt/pubs/radiation/safety-code\\_24-securite/index-eng.php#a2.2.2](http://www.hc-sc.gc.ca/ewh-semt/pubs/radiation/safety-code_24-securite/index-eng.php#a2.2.2) (英語) をご覧ください。



これらのガイドラインには、120 dB 未満の音圧レベルが永続的または一時的な聴力損失を引き起こした例は示されていないと記載されています。

グループで使用するためにスピーカーが組み込まれているシスコのビデオ システムでは、スピーカーから 50 cm 以上の距離で、超音波の音圧レベルが 75 dB 未満になっています。

個人で使用するためのシスコのビデオ システムでは、スピーカーから 20 cm 以上の距離で、超音波の音圧レベルが 70 dB 未満になっています。

Cisco Webex Boards では、ディスプレイの前方 20 cm 以上の距離で、超音波の音圧レベルが 75 dB 未満になっています。このレベルはディスプレイの真下では、スピーカーが下向きであるため若干高くなる可能性があります。

ほとんどの現実的なケースでは、ユーザの耳の位置でのレベルは、スピーカーの指向性、距離減衰、一般的な会議室での高い高周波数吸収率によって、これらの最大レベルよりはるかに低くなります。このレベルは、可聴音について会議スペースの一般的なバックグラウンド/環境ノイズ レベルから通常のスピーチのいわゆる会話レベルまでさまざまです。

したがって、人間が Proximity の信号に連続的にさらされても安全であると考えられます。ほとんどの人は、信号の存在に気付かず、信号の影響を受けません。ただし、特に急性の高周波聴力を持つ一部の個人は、この信号が聞こえます。この状況はほとんどの場合、スピーカーの正面かつ近傍で起こります。

犬のような動物は、可聴周波数範囲が広いため、Proximity の信号が聞こえます。

ただし、音の影響はレベルに依存し、犬の可聴レベルの範囲は人と大きくは異なりません。20 kHz での犬の可聴しきい値は 0-10 dB と低く、最も感度の高い周波数範囲での人の耳のしきい値と変わりません。

シスコは、信号が犬に影響を及ぼす可能性についてテストや検証を行っていません。レベルが制限されているため、犬に信号が聞こえることが明らかであっても、犬にとってわずらわしいものではないと信じられています。

オフィスまたは会議室にいる犬は、通常のバックグラウンド ノイズと同等のレベルまたはほとんどの会話レベルの超音波を受けることになります。当社の製品にこの機能を搭載したここ数年間で、信号によって動物に影響を受けたという報告はありません。

ただし、超音波を使用する犬撃退デバイスが存在していることから、超音波が犬に及ぼす影響について疑問を持つことは当然のことです。これらのデバイスは通常、不快ではあるが無害な超音波を使用していると主張しています。シスコは、犬撃退デバイスの設計について見識はありませんが、このようなデバイスの仕様を調べると、そのレベルが 100 dB 以上であることが多いことがわかります。

シスコのビデオ コーデックをサードパーティ製のスピーカー システムと組み合わせて使用するソリューションについては、シスコは超音波の音圧レベルを制御できません。ほとんどの場合、必要なスピーカー感度および周波数応答によって、音圧レベルは 75 dB の制限未満になります。ただし、過剰な外付けアンプを接続したり、スピーカー システムで高周波数の応答を強化したりすると、制限レベルを超える可能性があります。

## Proximity について

Intelligent Proximity 機能を使用すれば、手元の端末 (スマートフォン、iPad、Android タブレット、PC または Mac) でワイヤレスにビデオ システムのコンテンツを共有できます。

また、自分の端末 (スマートフォンとタブレットのみ) を使用してビデオ システムの通話を制御することもできます。

次のことを確認します。

App Store または Google Play から、Cisco Intelligent Proximity アプリケーション (無料) をダウンロードする必要があります。

Windows または OS X を使用している場合は、<https://proximity.cisco.com/> (英語) にアクセスしてください。

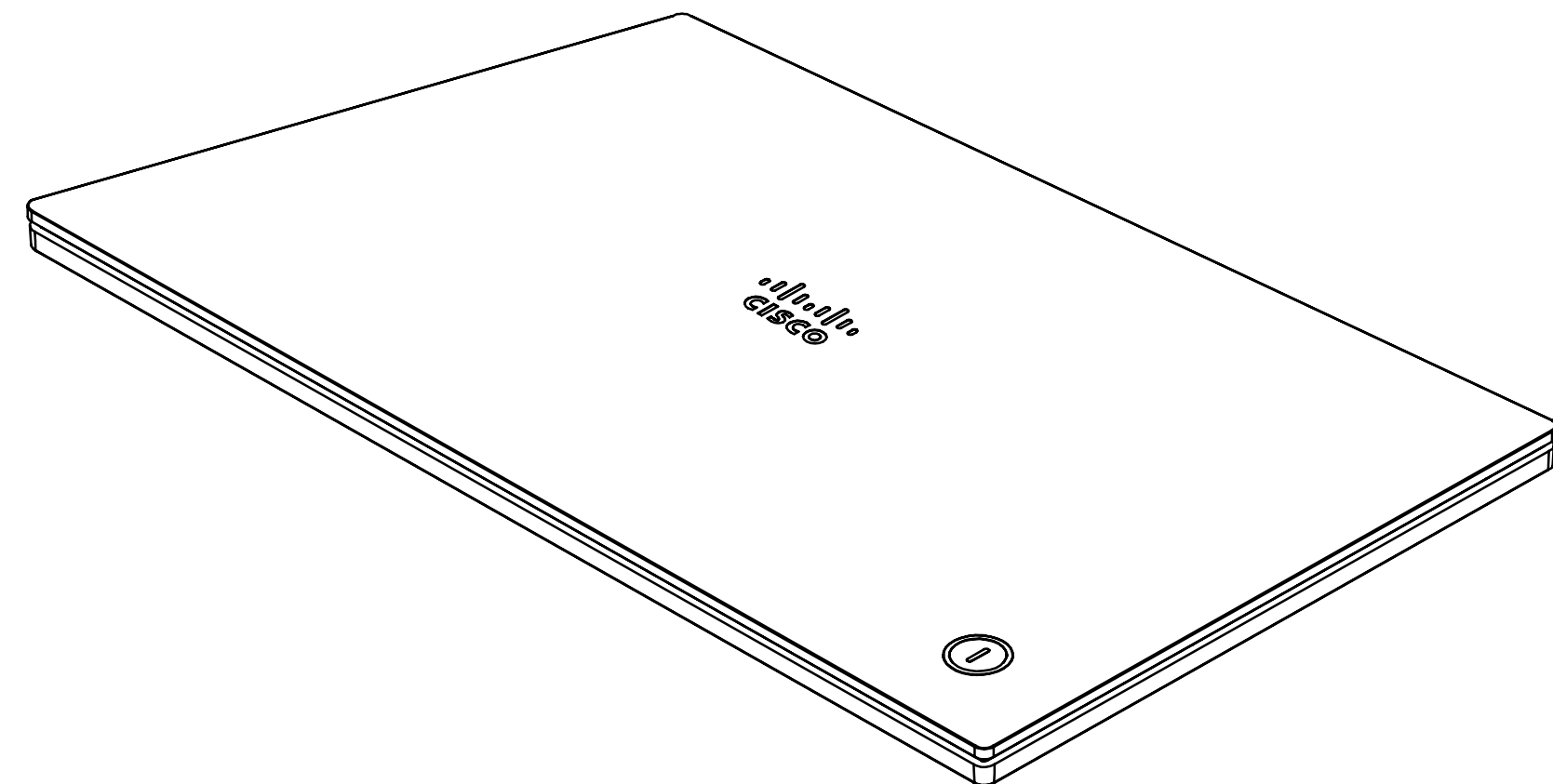
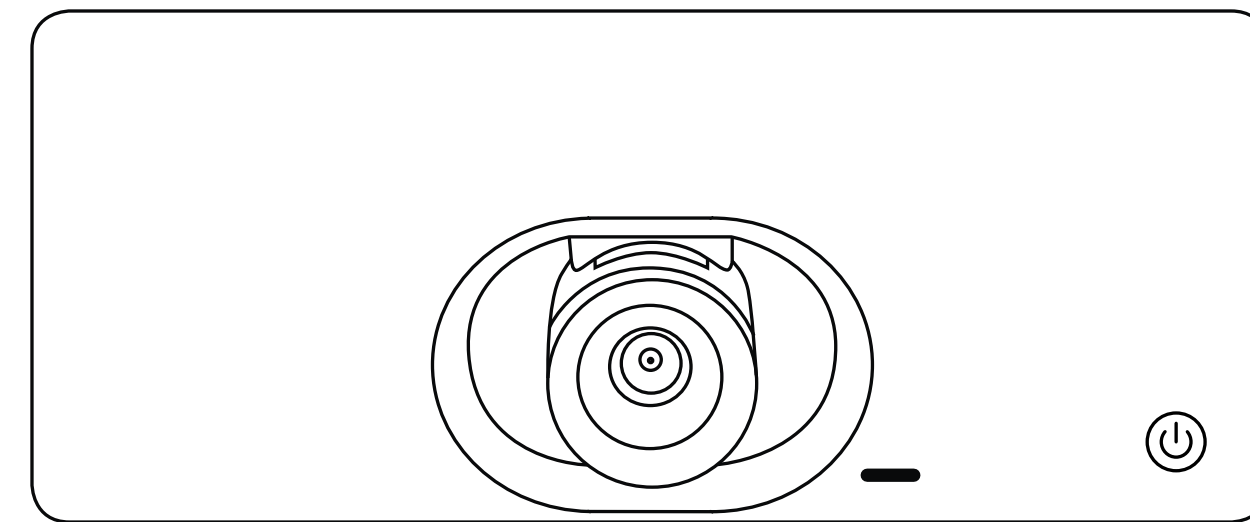
ビデオ サポート チームは、すべての機能を無効にしている場合、すべての機能を有効にしている場合、または一部の機能だけを有効にしている場合があります。

Intelligent Proximity は、ユーザの接続時に超音波を利用します (詳細は左記参照)。コンピュータやスマートフォン、タブレットのマイクをふさがないようにしてください。

Intelligent Proximity は、会議室のドアが閉じられた状態では、会議室の外側では機能しないように設計されています。この機能を使用するには、ビデオ エンドポイントの近くにデバイスを置く必要があります。

プライバシー上の必要がある場合は、会議室の入口を閉めて、隣室に音が漏れないようにします。

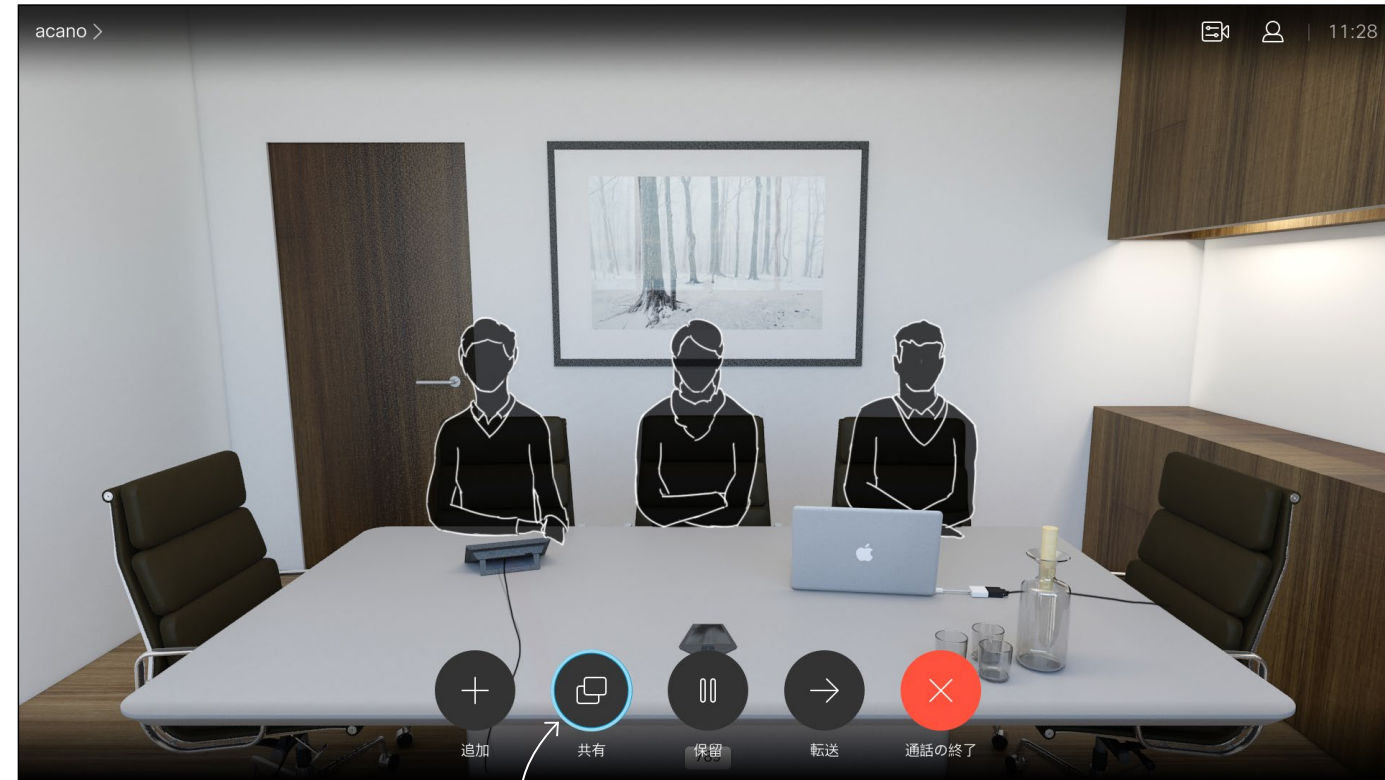
# コンテンツ共有



# コンテンツ共有 プレゼンテーションの開始と中止

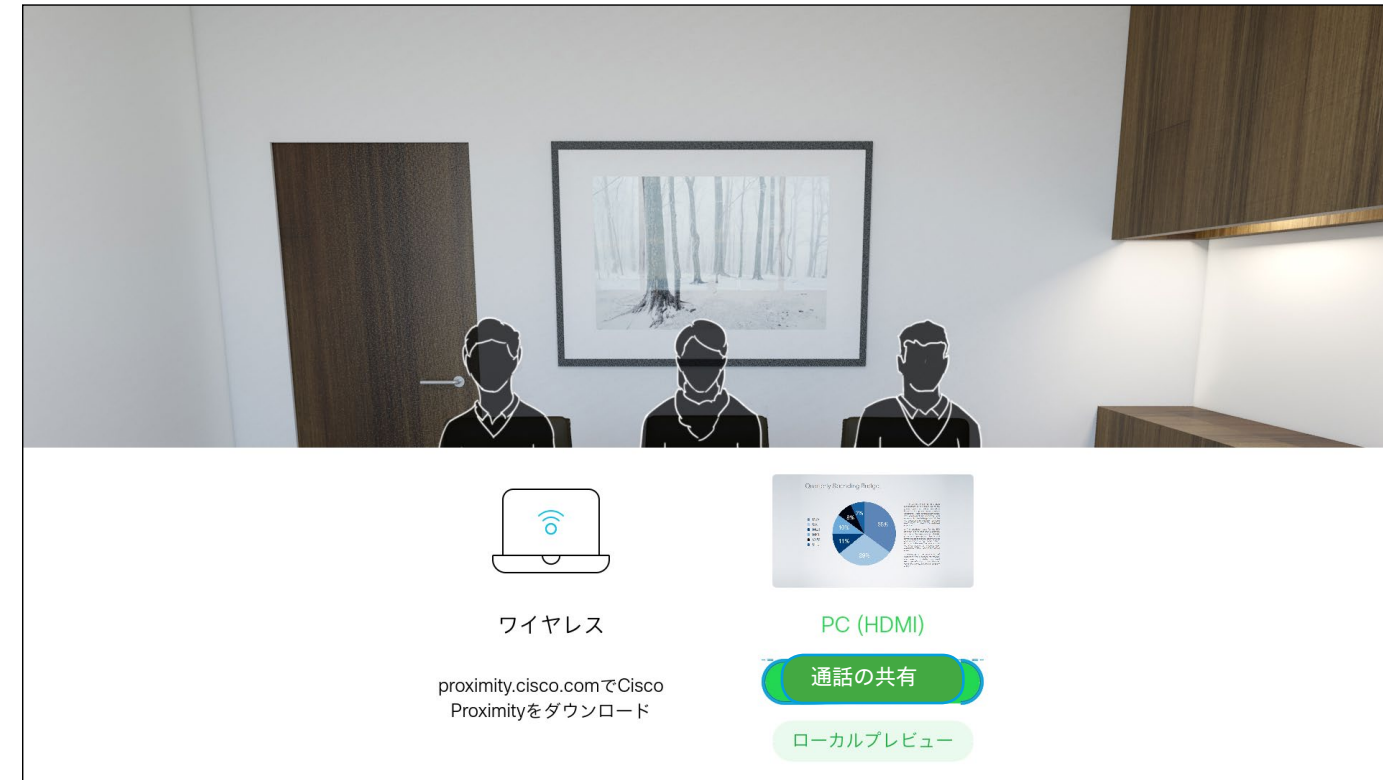
# コンテンツの共有について

1



プレゼンテーション ソースが接続され、オンになっていることを確認します。場合によっては、[共有 (Share)] を選択し、リモート コントロールの OK を押す必要があります。

2

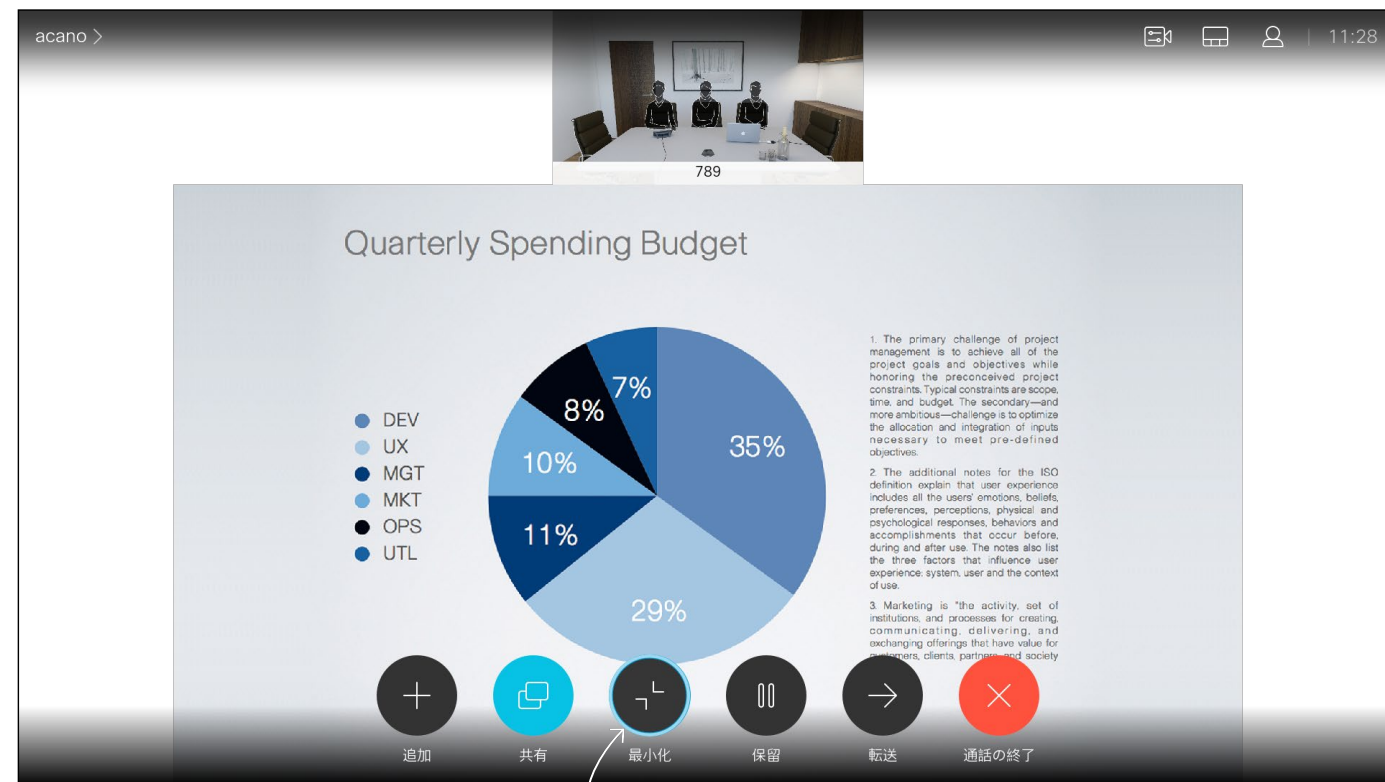


[通話中に共有 (Share in call)] を選択する前に [ローカル プレビュー (Local preview)] を選択すると、他の参加者と共有せずにコンテンツを確認できます。

通話中または通話外で、この機能を使用して PC のコンテンツを共有します。どちらも手順は同じですが、ここに示す手順は通話中の場合のみです。

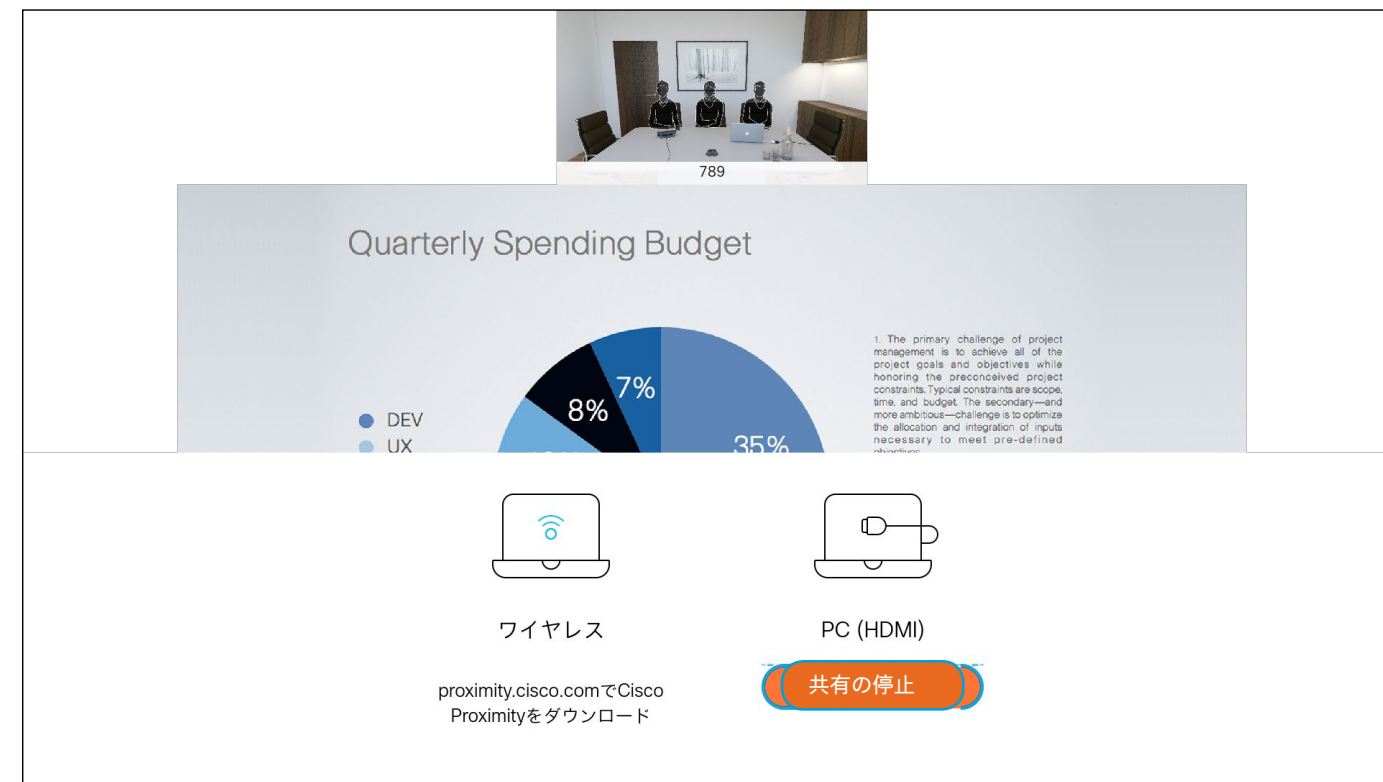
Proximity を使用してコンテンツを共有するには、プレゼンテーション ソースに Cisco Proximity がインストールされていて、アクティブ化されていることを確認します。ペアリングが開始するまで数分かかります。画面の指示に従います。

3



共有画像のサイズは、[縮小化]/[最大化] アイコンで操作します。必要に応じて、このフィールドを選択し、リモート コントロールの OK を押します。

4

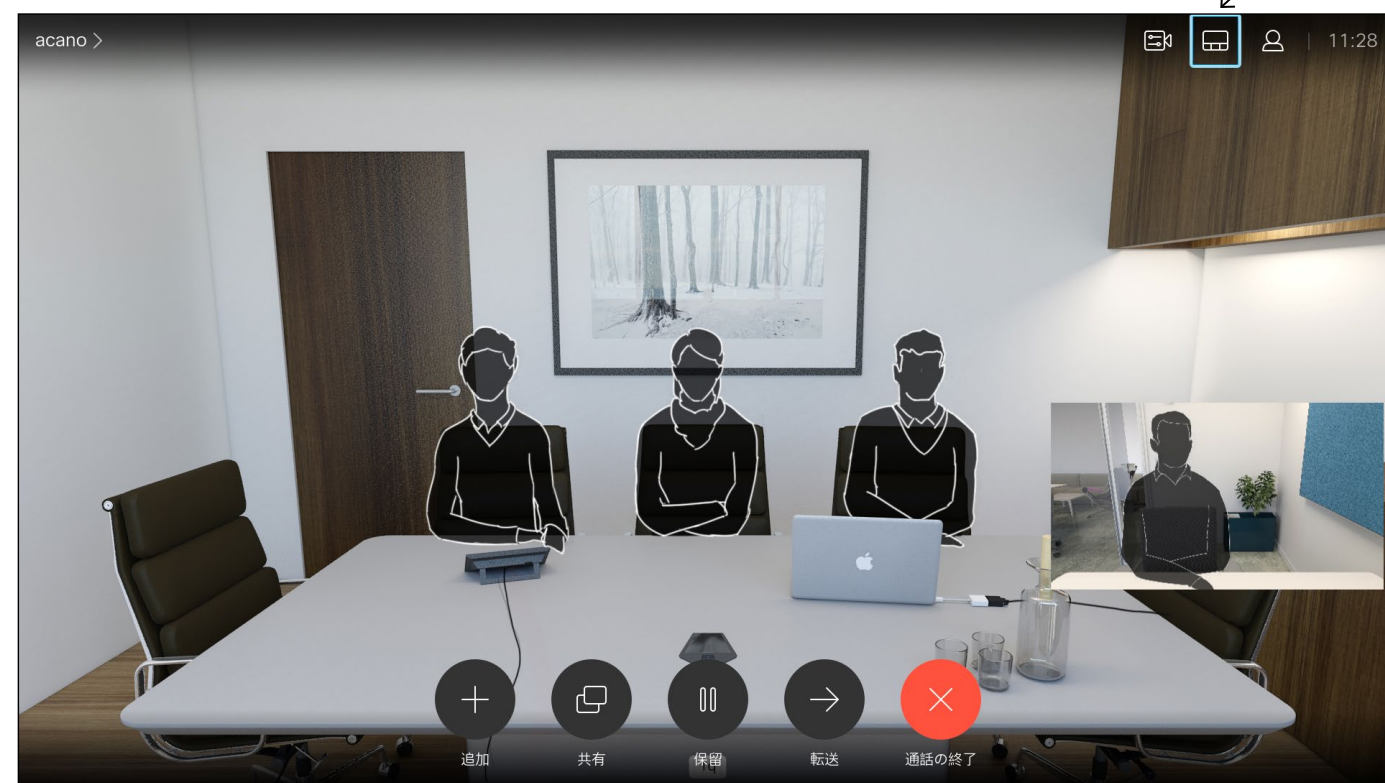


コンテンツの共有をやめるには、[共有を中止 (Stopsharing)] を選択し、リモート コントロールの OK を押します。

# コンテンツ共有 通話中のプレゼンテーション レイアウトの変更

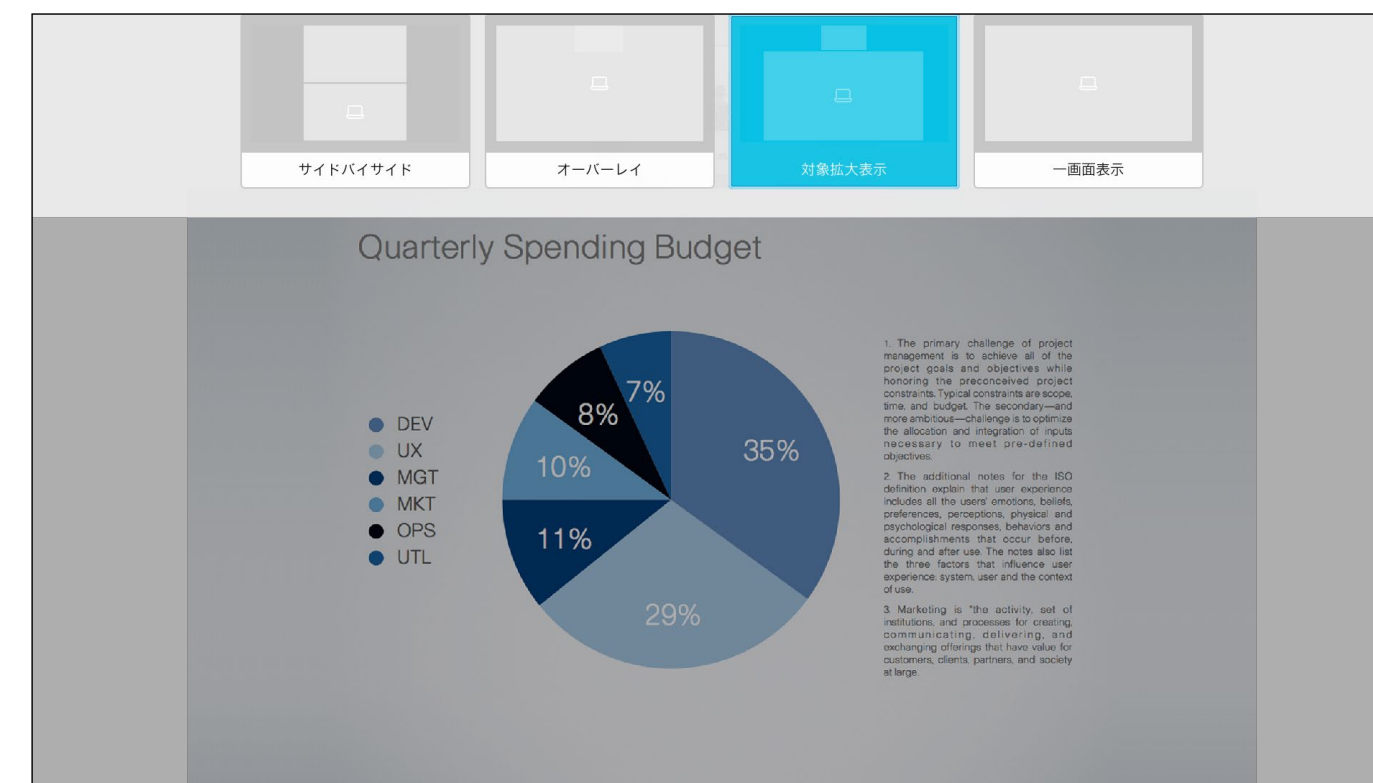
## プレゼンテーションレイアウトについて

1



右上隅の [レイアウト (Layout)] に移動し、リモコンの [OK] を押します。該当する場合にだけ、このアイコンが表示されます。

2

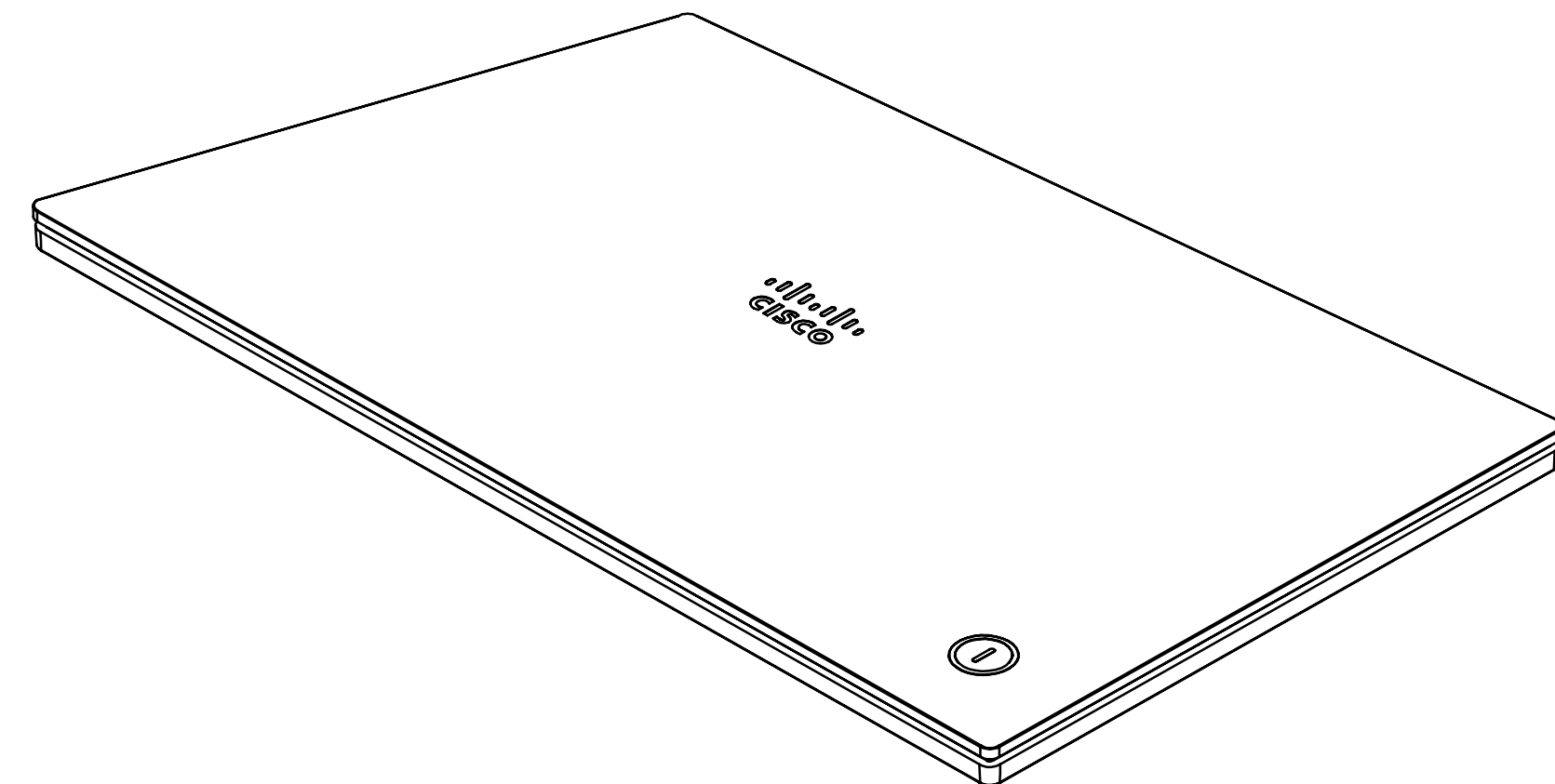
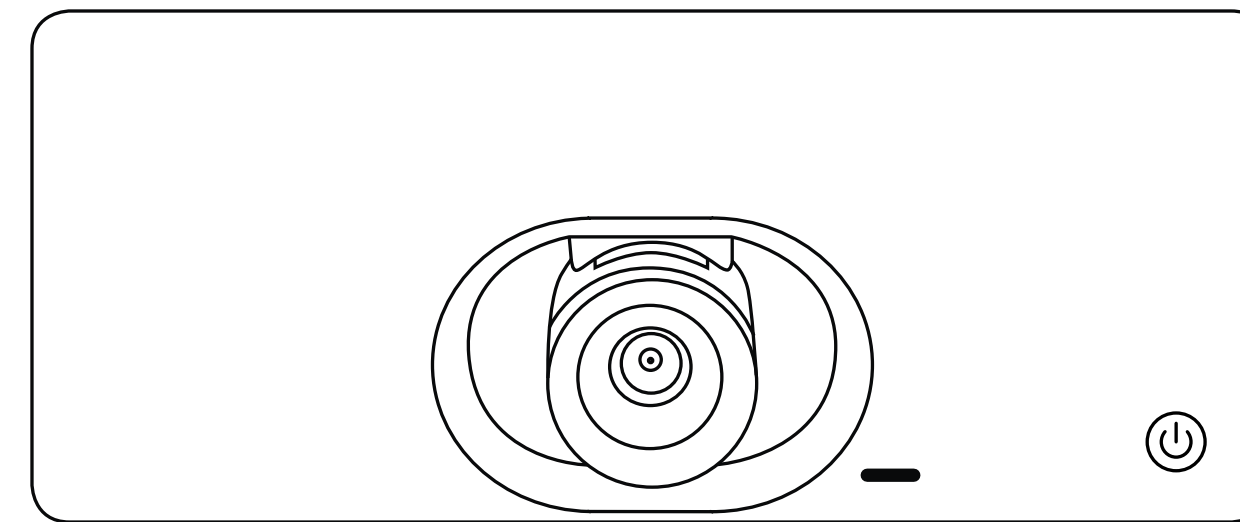


方向キーを使用して新しいレイアウトを選択し、OK を押します。

プレゼンテーション中に、スクリーンのレイアウトを変更することができます。通常は、プレゼンターを表示するかどうか、およびプレゼンターを PIP (ピクチャ イン ピクチャ) と PoP (ピクチャ アウトサイド ピクチャ) のどちらで表示するかを選択できます。

システムで使用可能なレイアウトのオプションは、ここに表示されているものと異なる場合がありますが、常に、選択可能なレイアウトが表示されます。

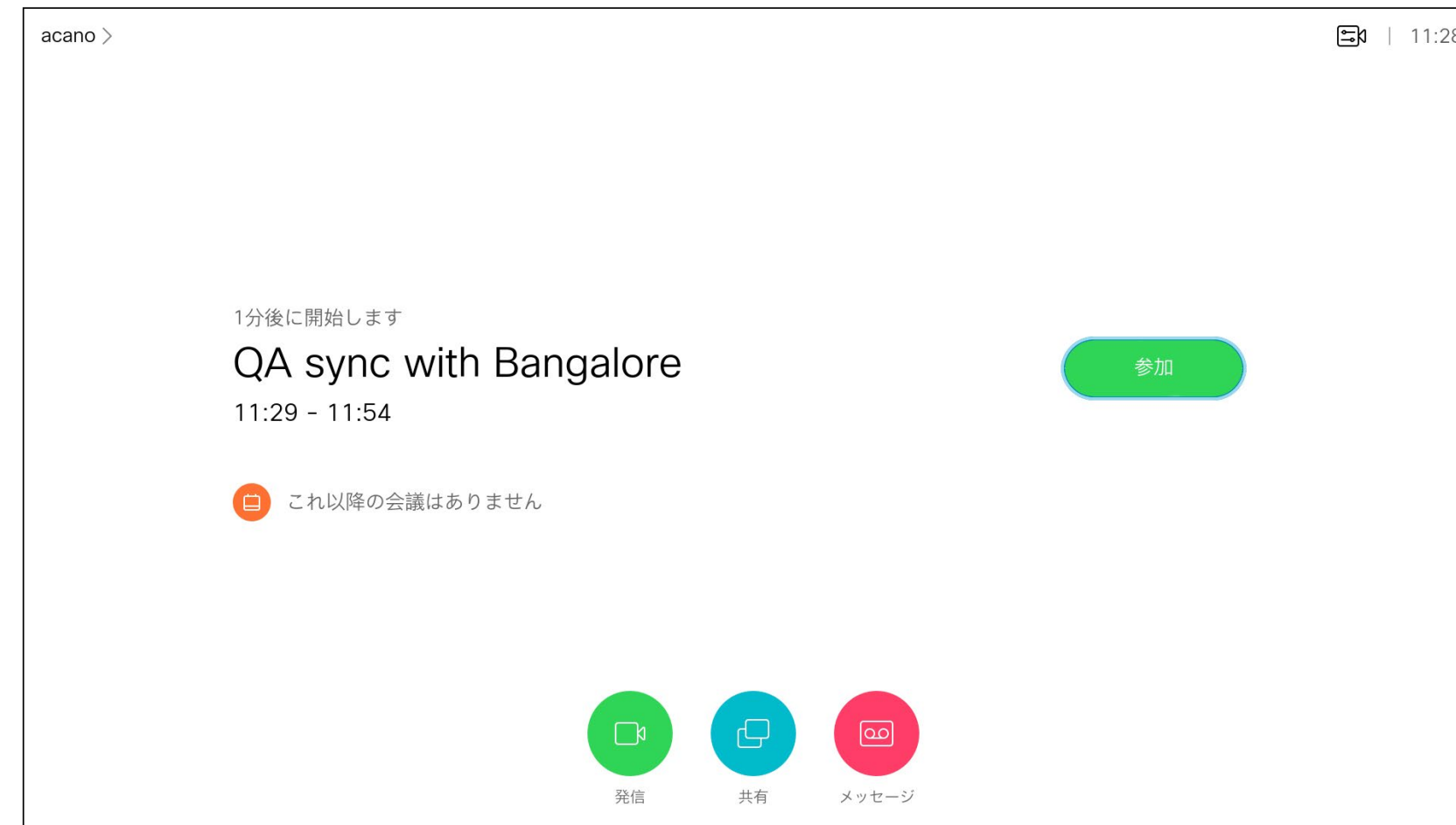
# スケジュール された会議



スケジュールされた会議

## スケジュールされた会議に参加する

参加可能な会議に参加するには、緑色の [参加 (Join)] アイコンに移動します。リモート コントロールの OK を押します。



## 会議への入室

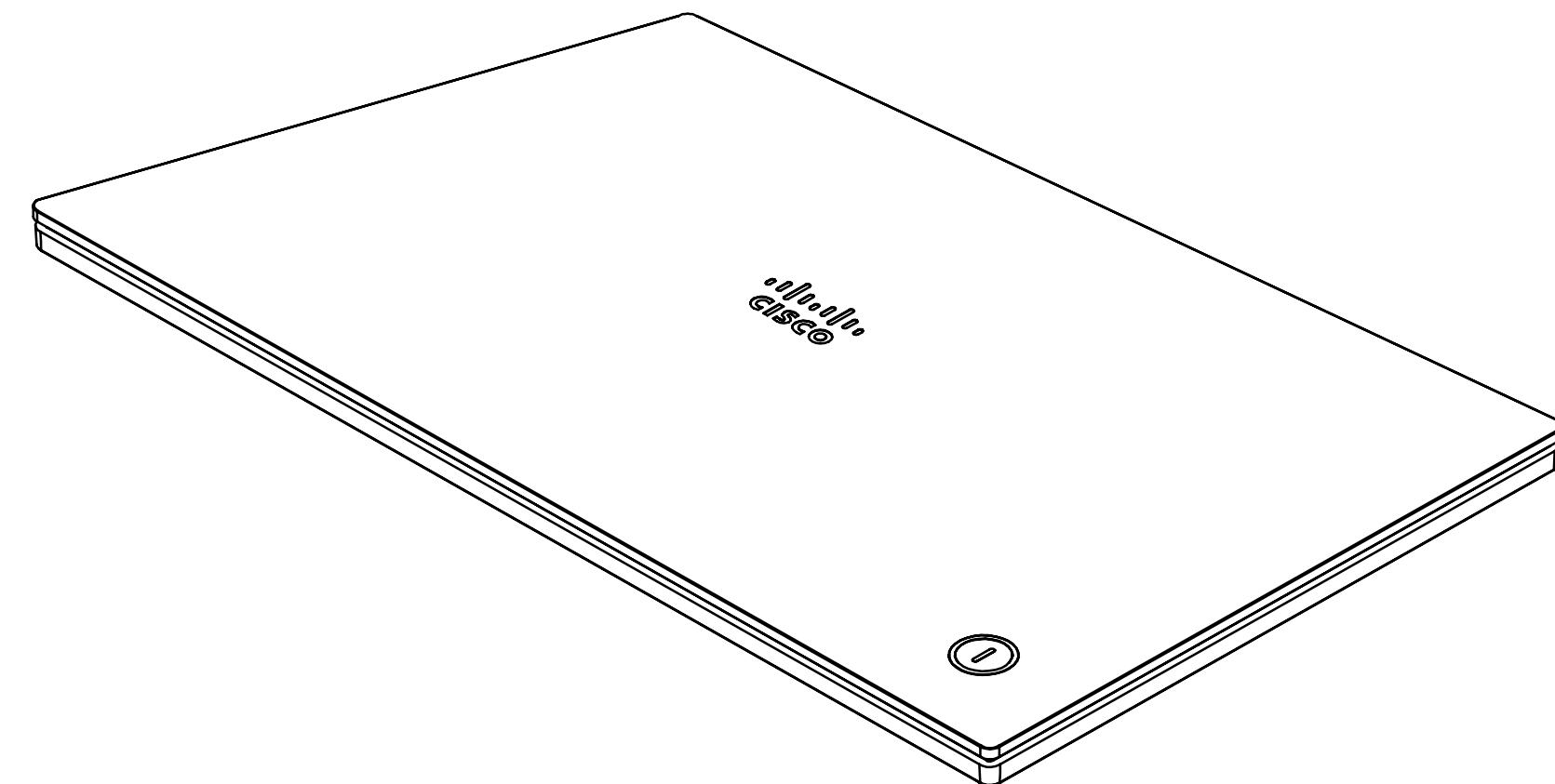
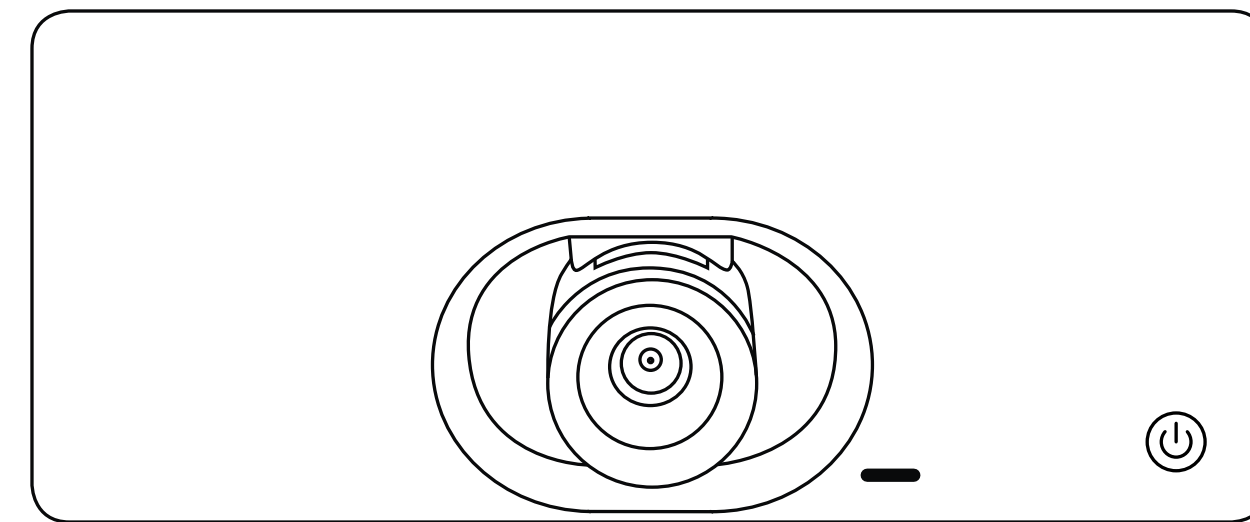
ビデオ会議をスケジュールすることができる管理システムに、ビデオ システムを接続することができます。スケジュールされた会議は左図のように表示されます。

会議に参加するには [参加 (Join)] を使用します。

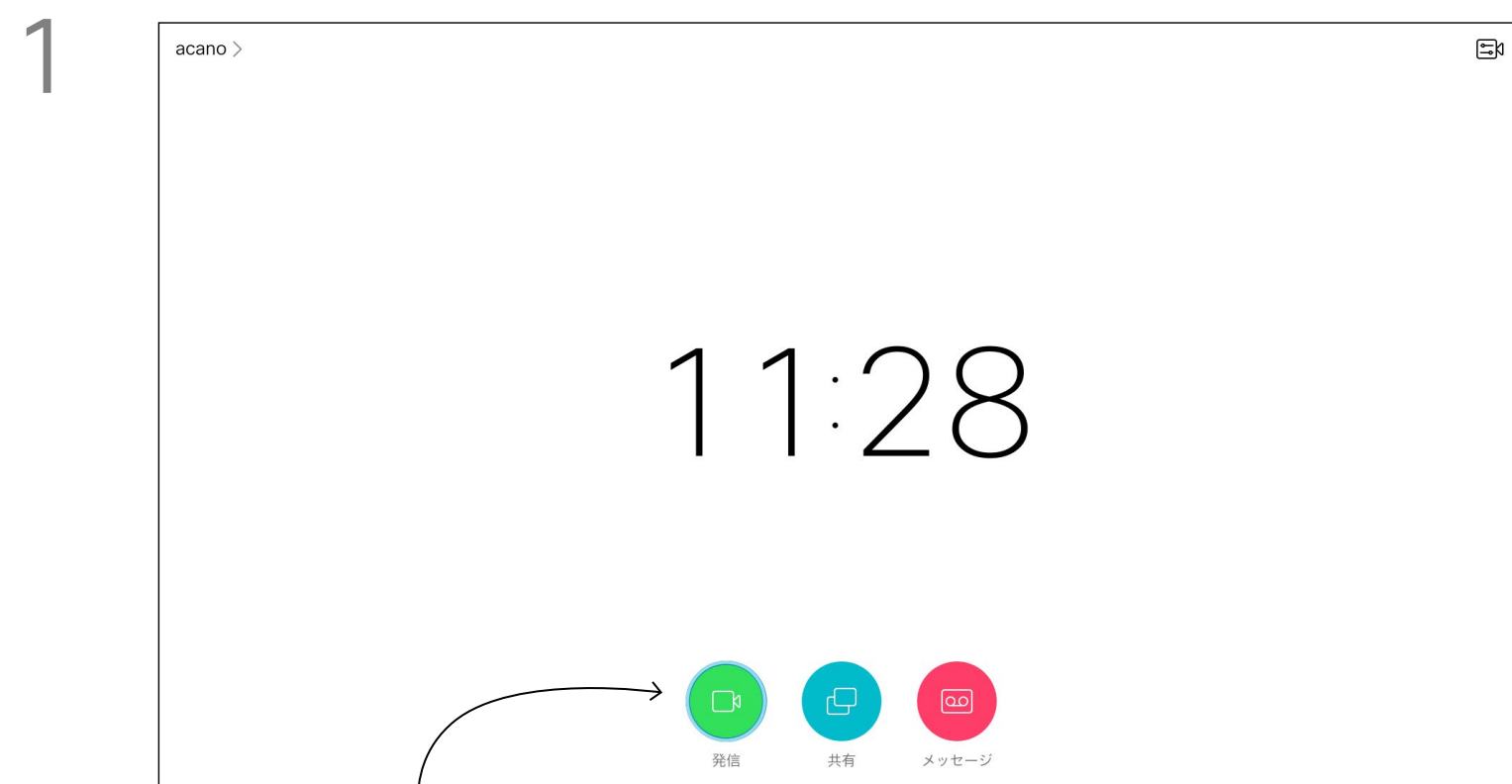
会議がすでに始まっていても参加をオファーできます。

[スヌーズ (Snooze)] アイコンが利用できる場合もあります。このアイコンを使用して、参加のオファーを 5 分後に延期します。

# コンタクト



# コンタクト 誰かを非通話時にお気に入りに追加する



1 [発信 (Call)] (画面の下部に並んでいる一番左のフィールド) を選択し、リモートコントロールの OK を押すか、緑色の発信ボタンを押します。



2 [発信 (Call)] メニューが表示されます。方向キーを使用して、[発信履歴 (Recents)] と [ディレクトリ (Directory)] を切り替え (右側の2つ)、いずれかのリストを選択できます。



3 エントリが見つかったら、リモートコントロールの OK を押して [発信 (Call)] メニューを呼び出し、方向キーを使用して、その他 (...) に移動します。OK を押します。



4 方向キーを使用して、[お気に入りとしてマーク (Mark as Favorite)] に移動します。リモートコントロールの OK を押すと、選択したエントリがお気に入りに追加されます。

[お気に入り (Favorites)] リストから誰かを削除するには、この手順を繰り返します。

[ディレクトリ(Directory)], [発信履歴(Recents)], [お気に入り(Favorites)] について

[ディレクトリ (Directory)] は、社内電話帳としての役割を果たします。このディレクトリを編集することはできません。ただし、エントリを [お気に入り (Favorites)] のリストにコピーした上で編集することはできます。

フォルダをタップしてそのコンテンツを表示します。必要に応じて、ディレクトリをスクロールしてフォルダやフォルダ内のエントリを探します。

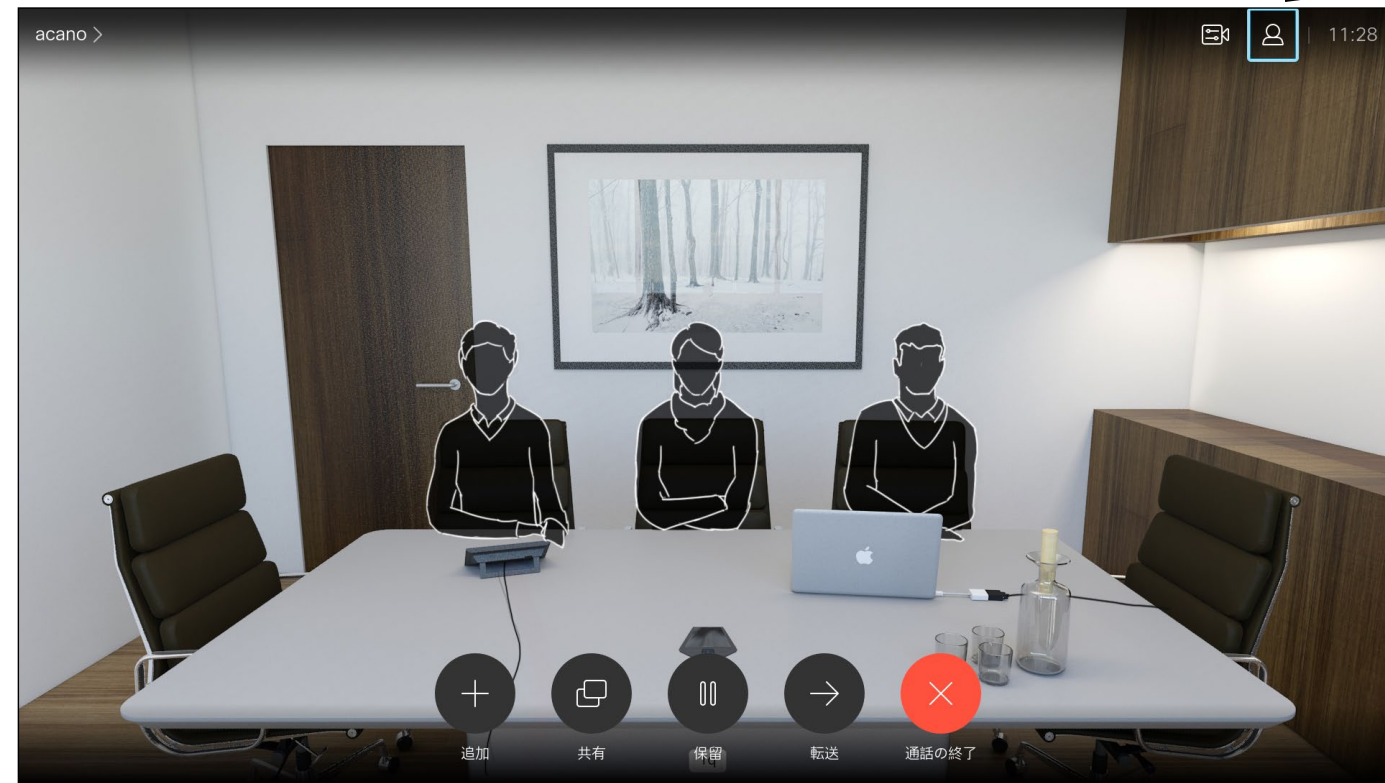
社内ディレクトリ内で検索する場合、検索は現在のディレクトリフォルダとそのサブフォルダにのみ適用されます。1つ上のレベルに移動するには、[戻る (Back)] をタップします。検索を社内ディレクトリ全体に適用する場合は、検索を開始する前に、フォルダを入力 (タップ) しないでください。

ディレクトリからお気に入りのリストにコピーしたエントリが、その後ディレクトリ内で更新されることがあります。この更新はお気に入りのリストには反映されません - お気に入りのリストのエントリは手動で更新する必要があります。手動の更新には、[編集して通話 (Edit and Call)] を使用します。

# コンタクト 通話中に [お気に入り (Favorite)] に追加する

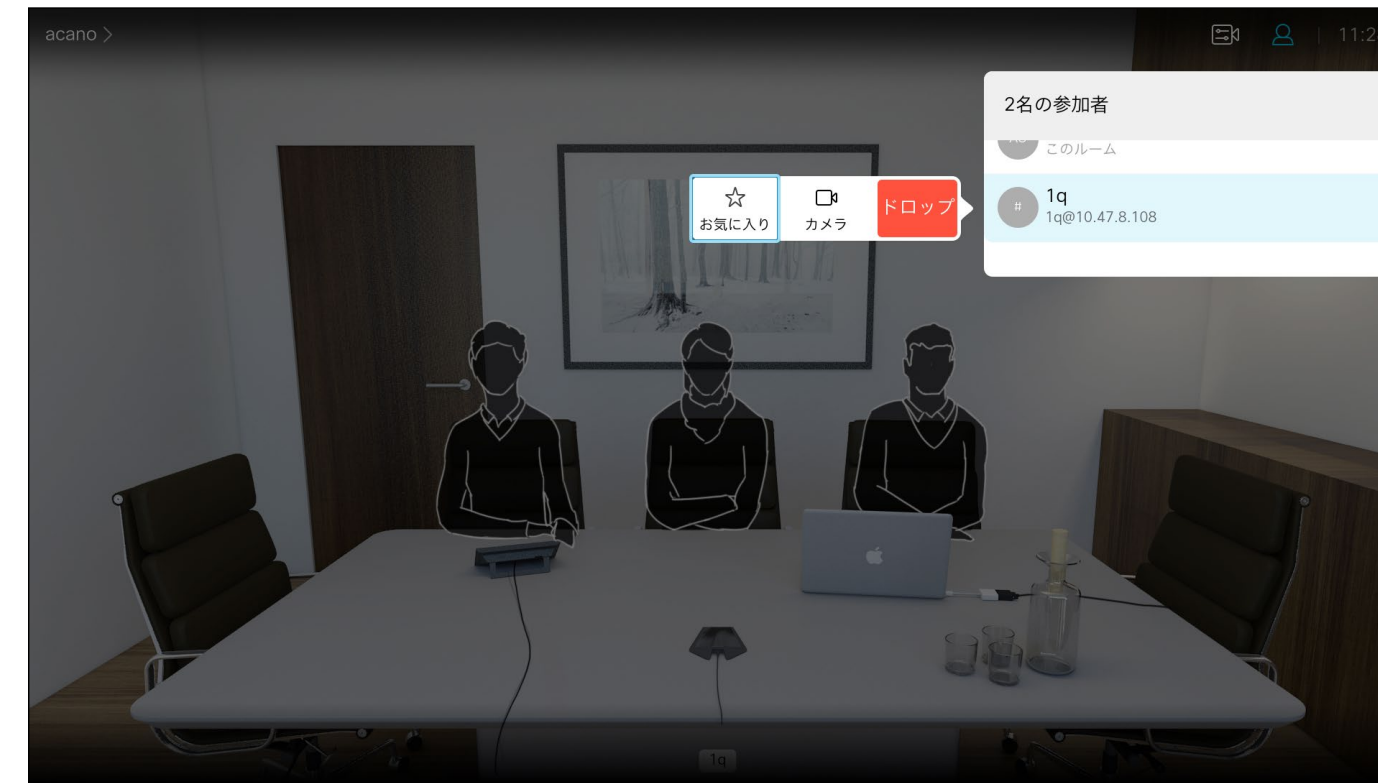
## お気に入りについて

1



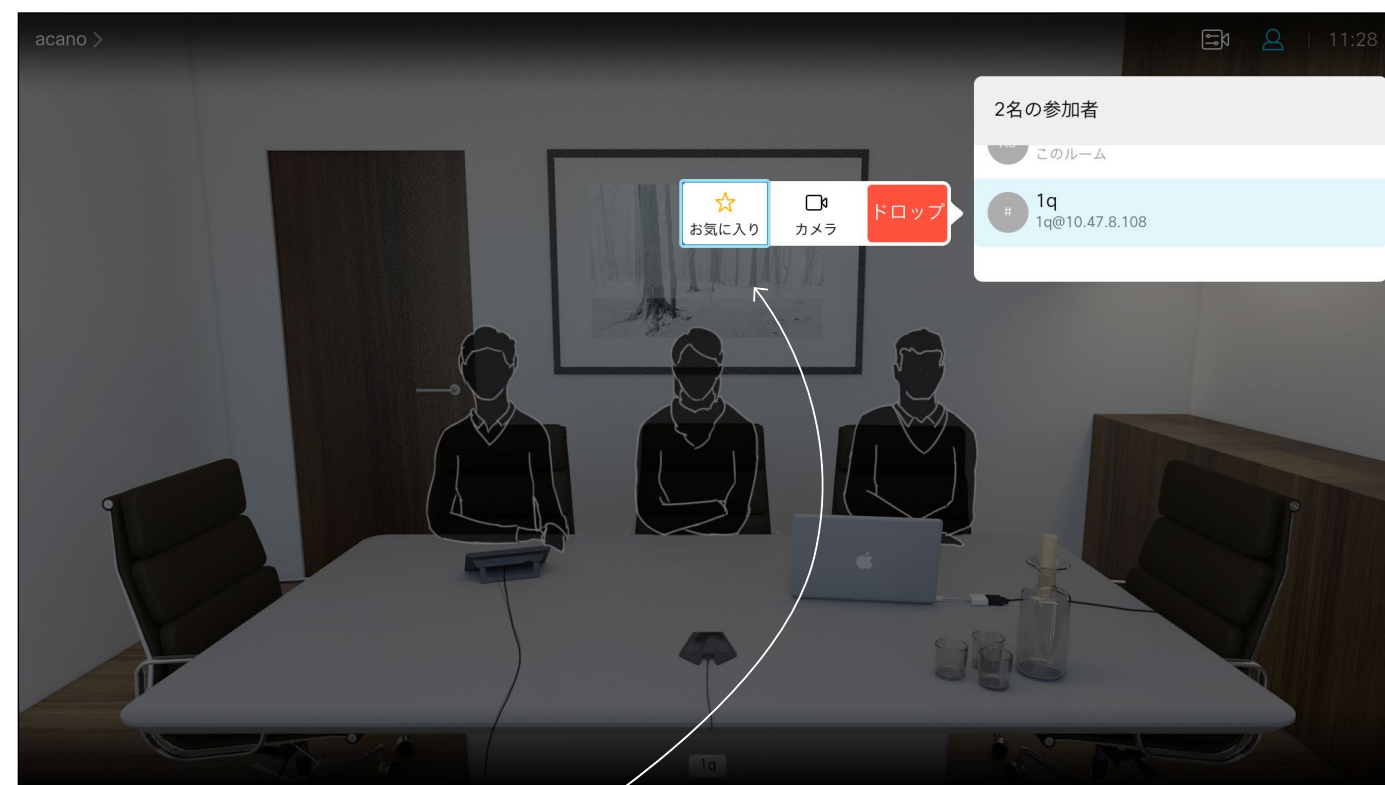
通話中に、リモート コントロールを使用して右上隅の参加者アイコンに移動し、リモート コントロールの OK を押します。

2



通話の参加者リストを表示するメニューが表示されます。方向キーを使用して [お気に入り (Favorites)] に追加する参加者に移動し、リモート コントロールの OK を押します。サブメニューが表示されます。

3

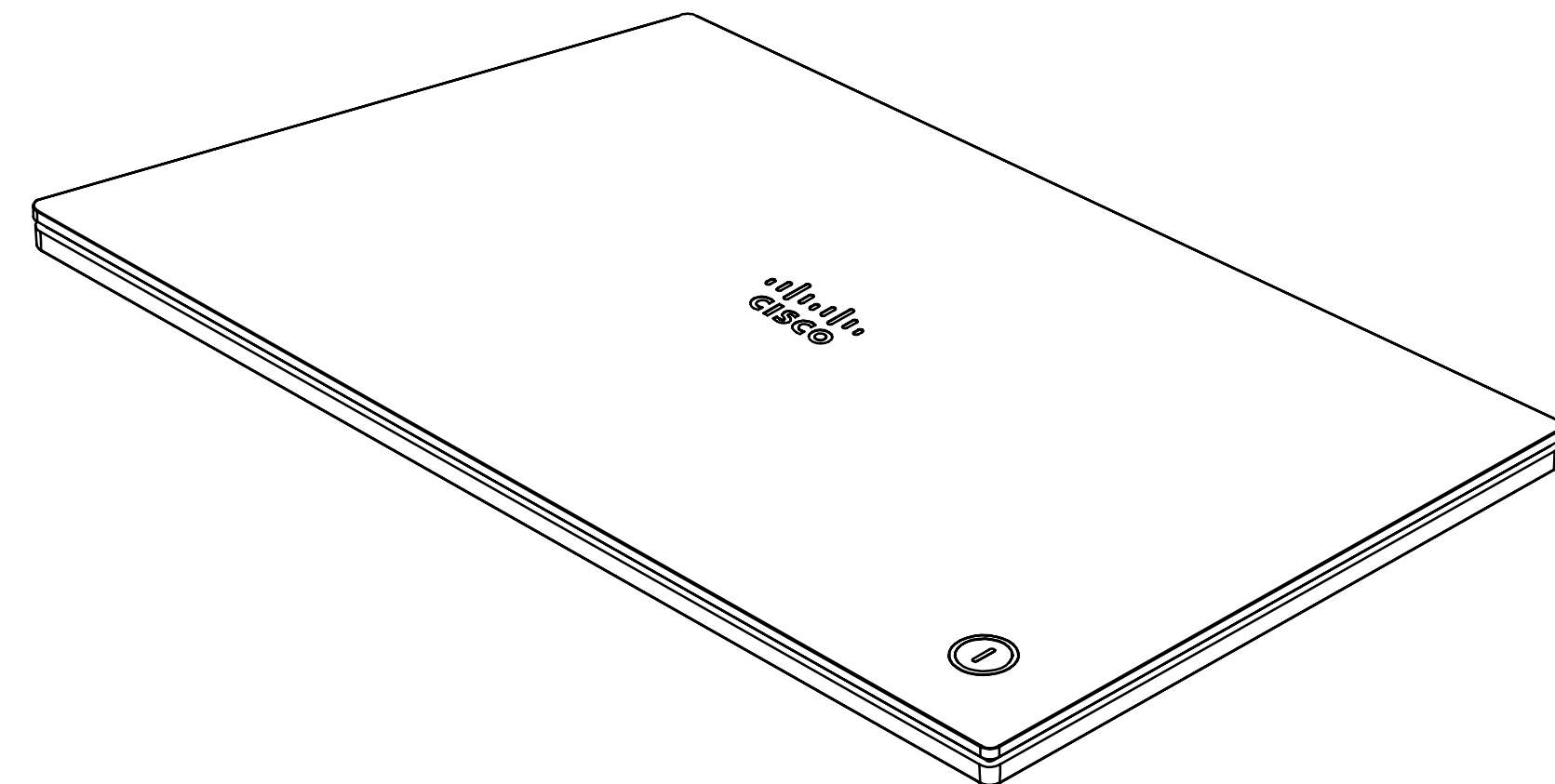
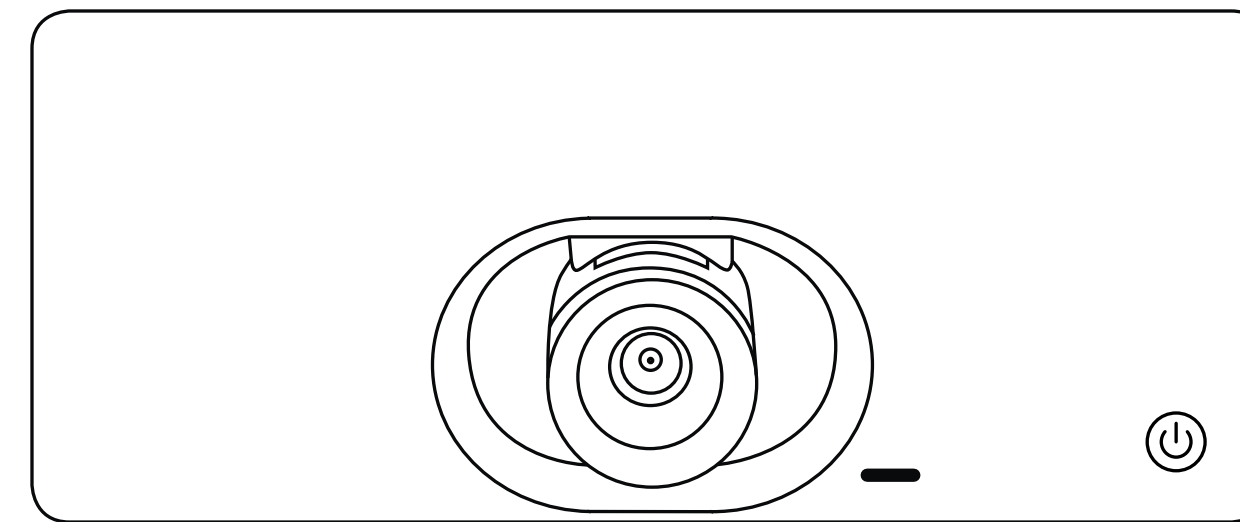


次に、このサブメニューの [お気に入り (Favorite)] に移動し (一番左)、リモート コントロールの OK を押します。選択した参加者が [お気に入り (Favorite)] に追加されます。

同じ操作を繰り返すと、元に戻ります。

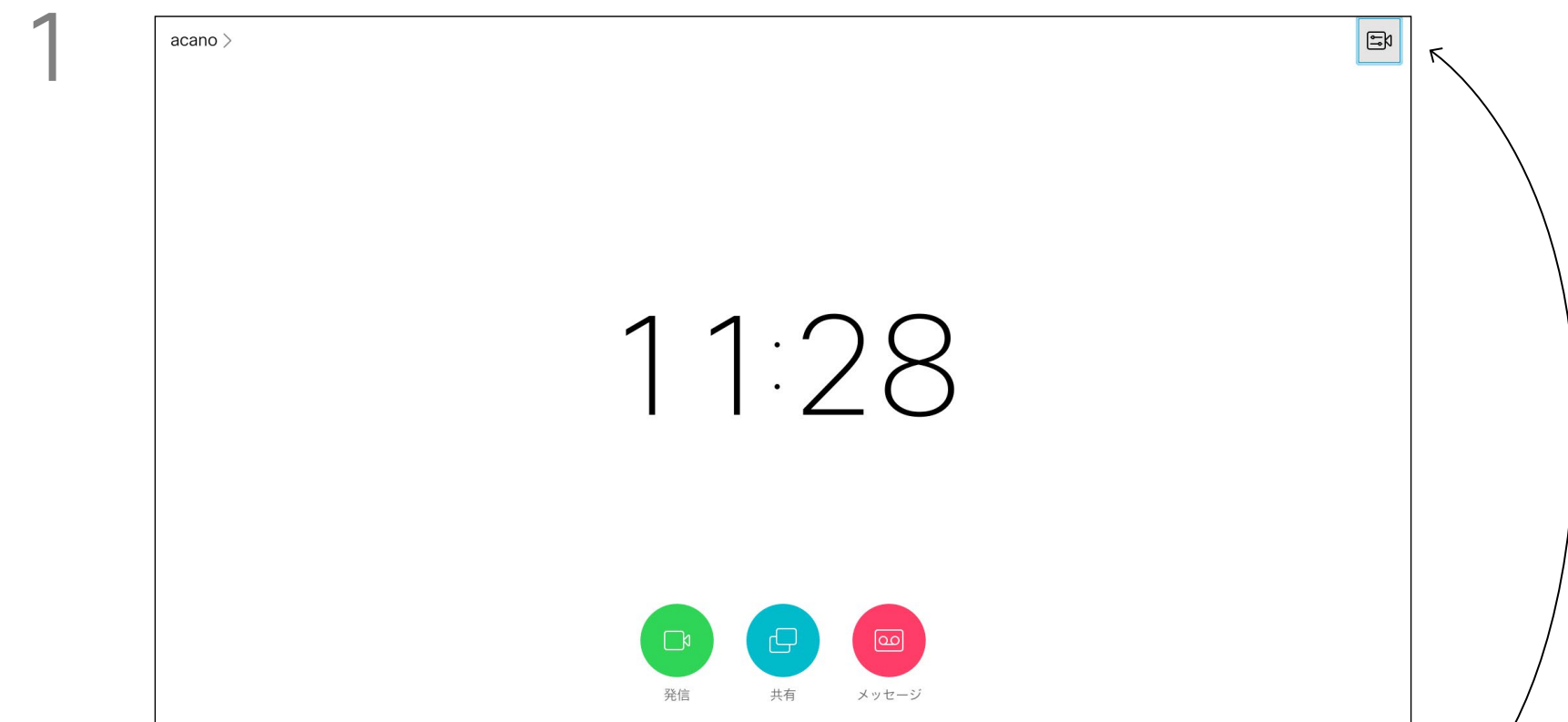
[お気に入り (Favorites)] は、個人用のディレクトリです。エントリは、社内ディレクトリから追加することも (詳細については前のページを参照)、発信先または着信元から追加することもできます。

# カメラ制御

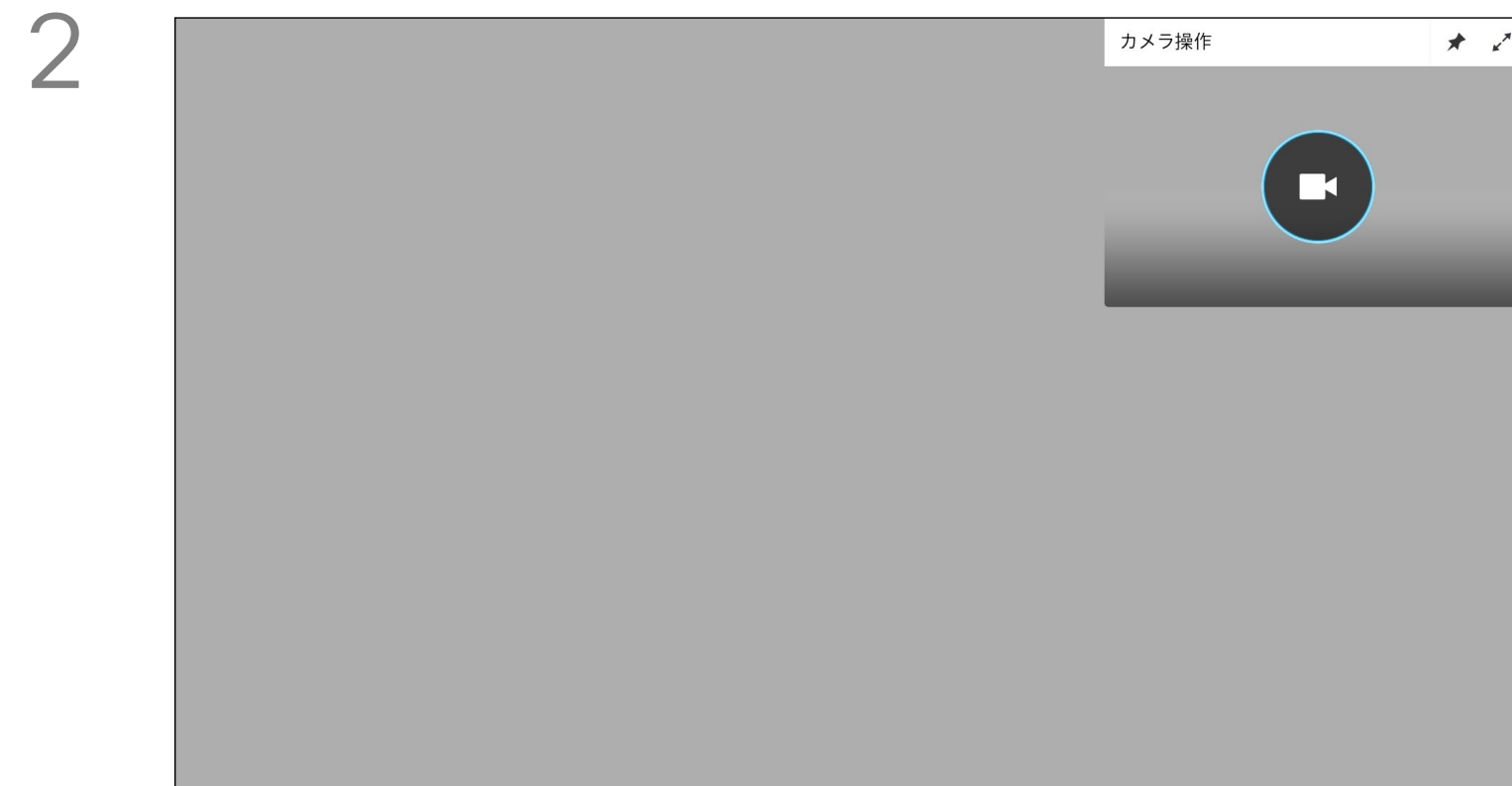


# カメラ制御 カメラ設定の表示 (ローカル カメラ)

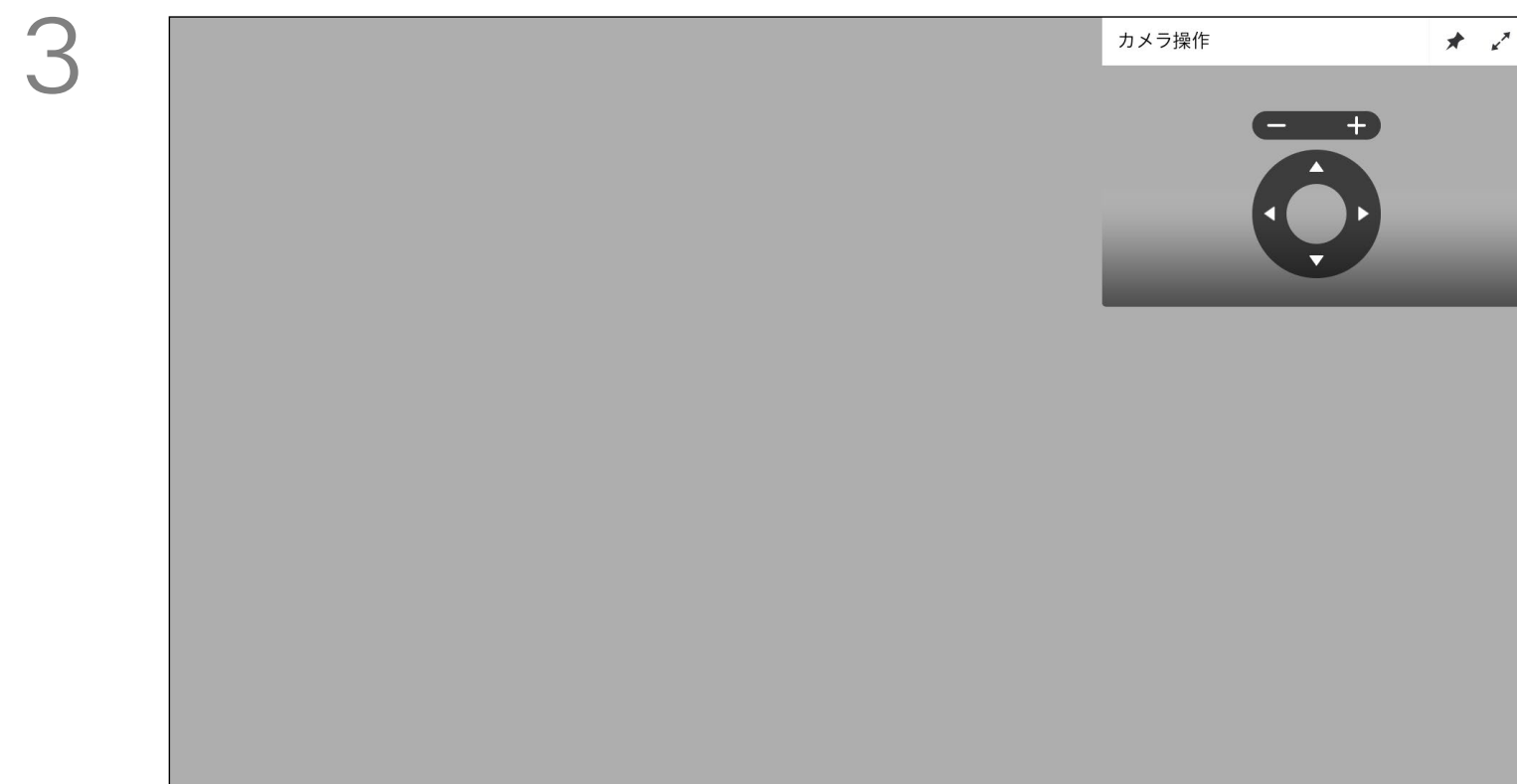
## カメラ設定について



1 通話中または非通話時に (図を参照)、カーソルを右上のカメラ アイコンに置きます。リモート コントロールの OK を押します。



2 カメラ アイコンが表示されます。リモート コントロールの OK をもう一度押します。



3 カメラのパン、ズーム、傾きを調整できます。リモート コントロールの増/減コントロールを使用してズームを調整し、方向キーを使用してパンとチルトを調整します。



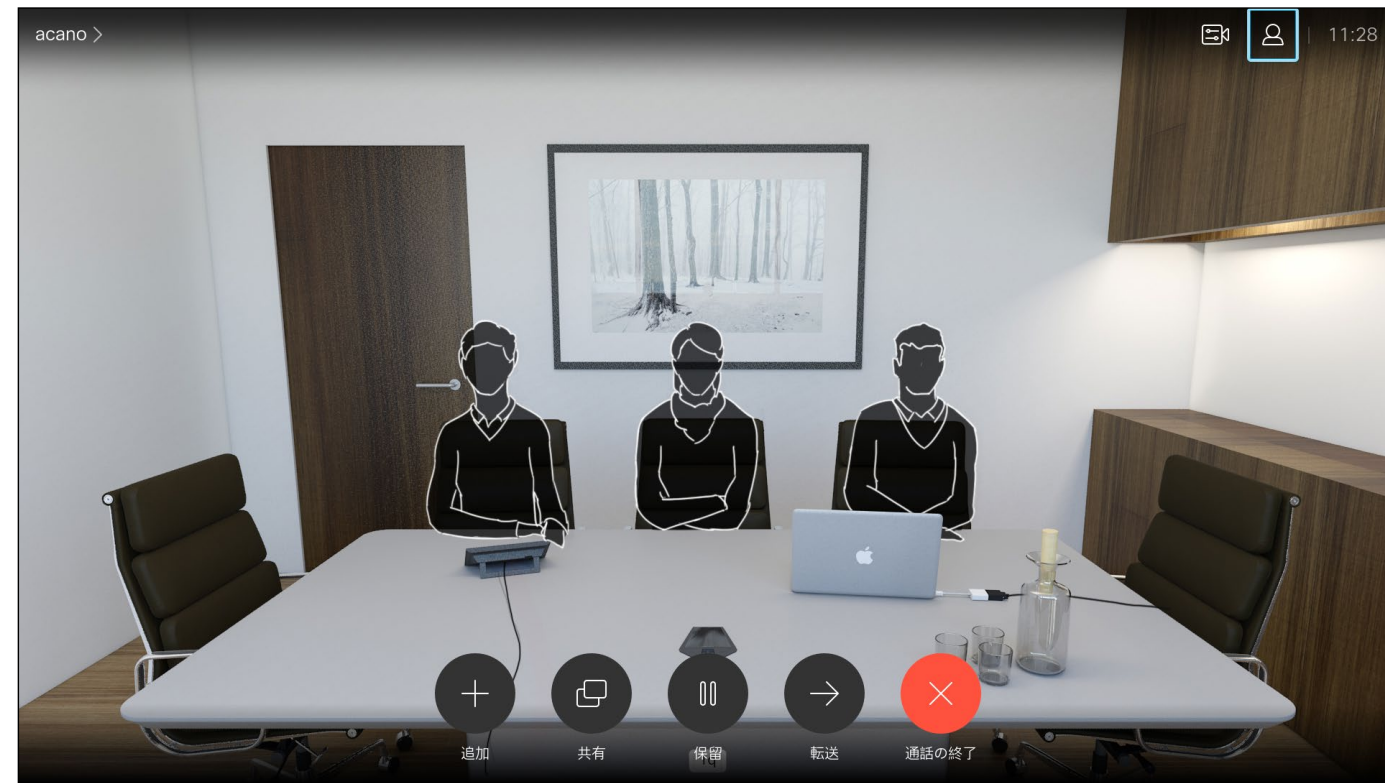
4 このメニューの右上隅のアイコンを選択して、自画面の画像を固定 (常に表示) または最大化することもできます。リモート コントロールの戻るを押してメニューを終了します。

カメラ設定では、カメラのズーム、パン、傾きを制御できます。自画面 (システムによって他者に表示される画像) のオン/オフに加えて、自画面の縮小/拡大 (全画面) を実行できます。自画面は常に表示しておくことができます。これを**固定**すると言います。

# カメラ制御 相手先カメラ操作

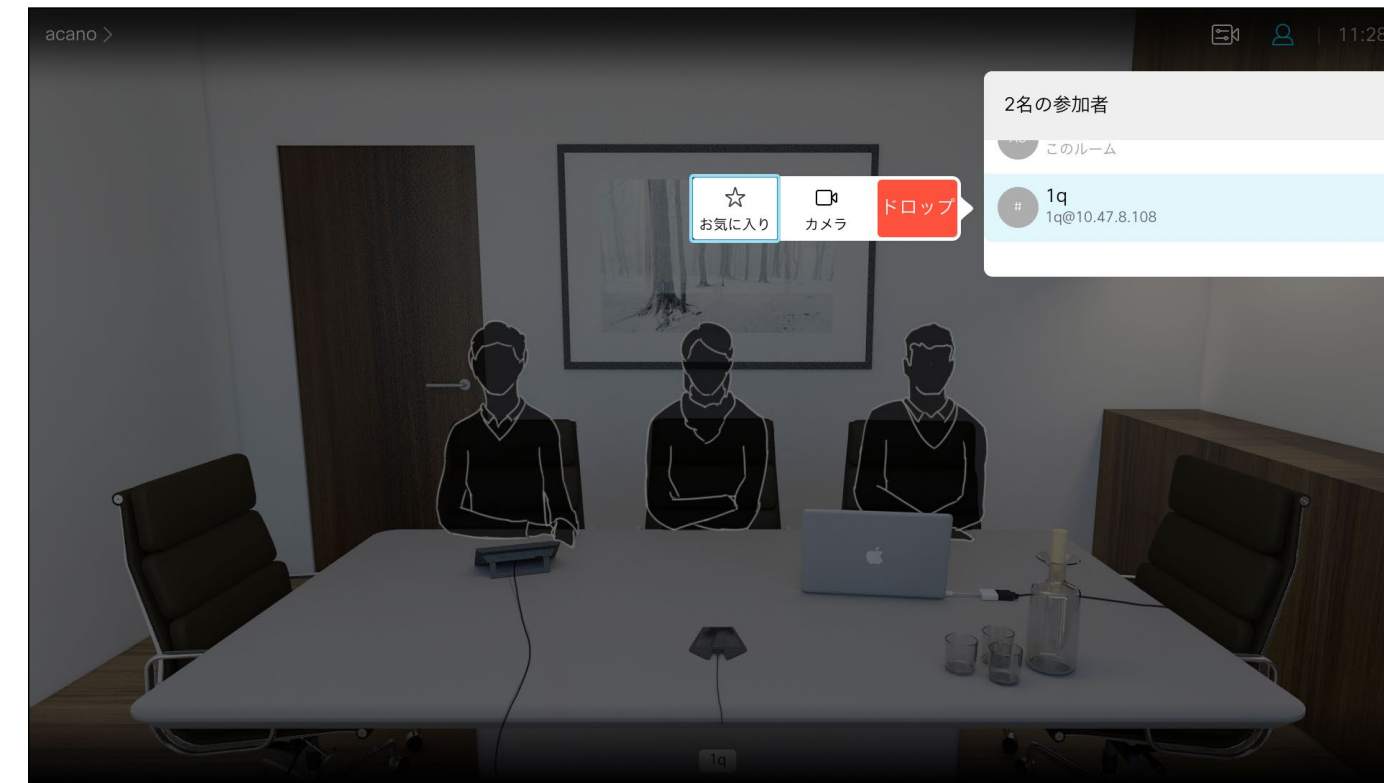
## 相手先カメラ操作について

1



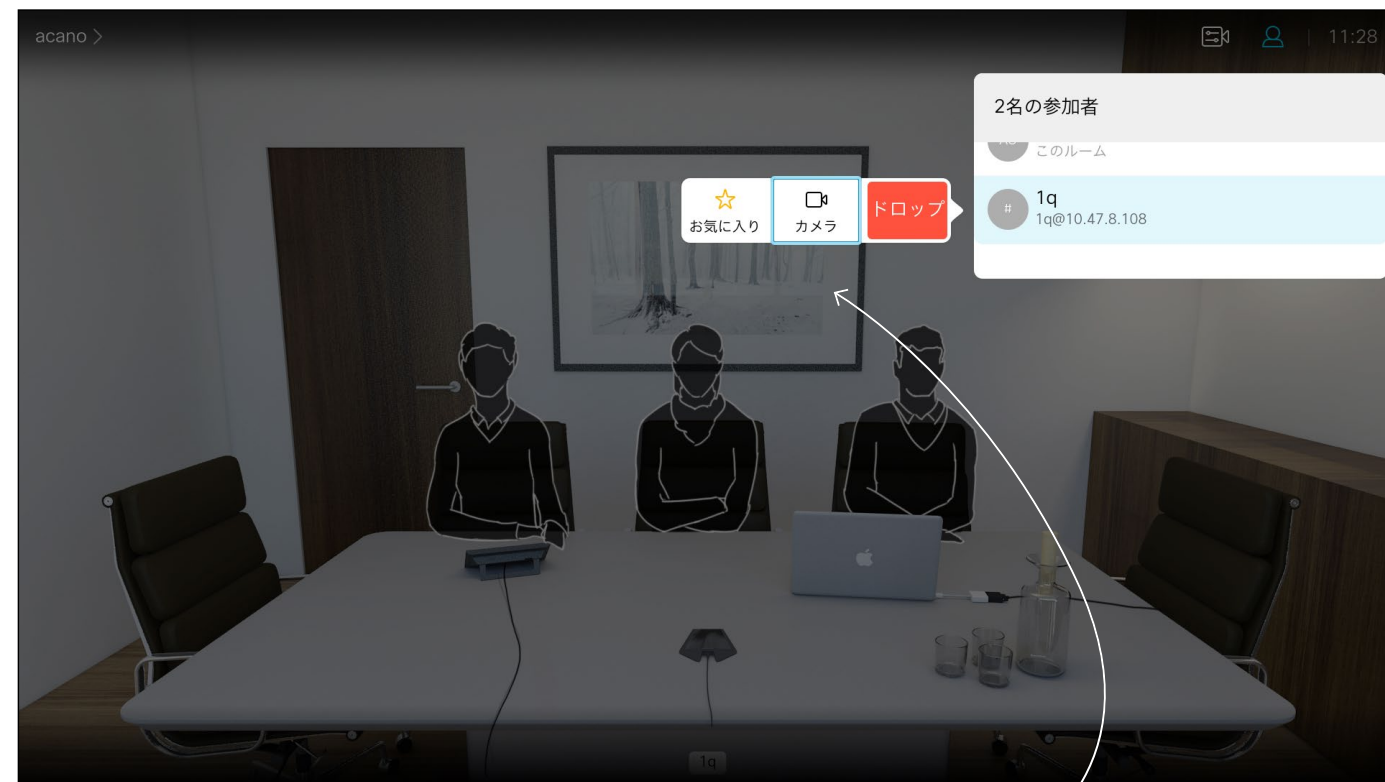
右上隅の参加者に移動し、リモート コントロールの OK を押します。

2



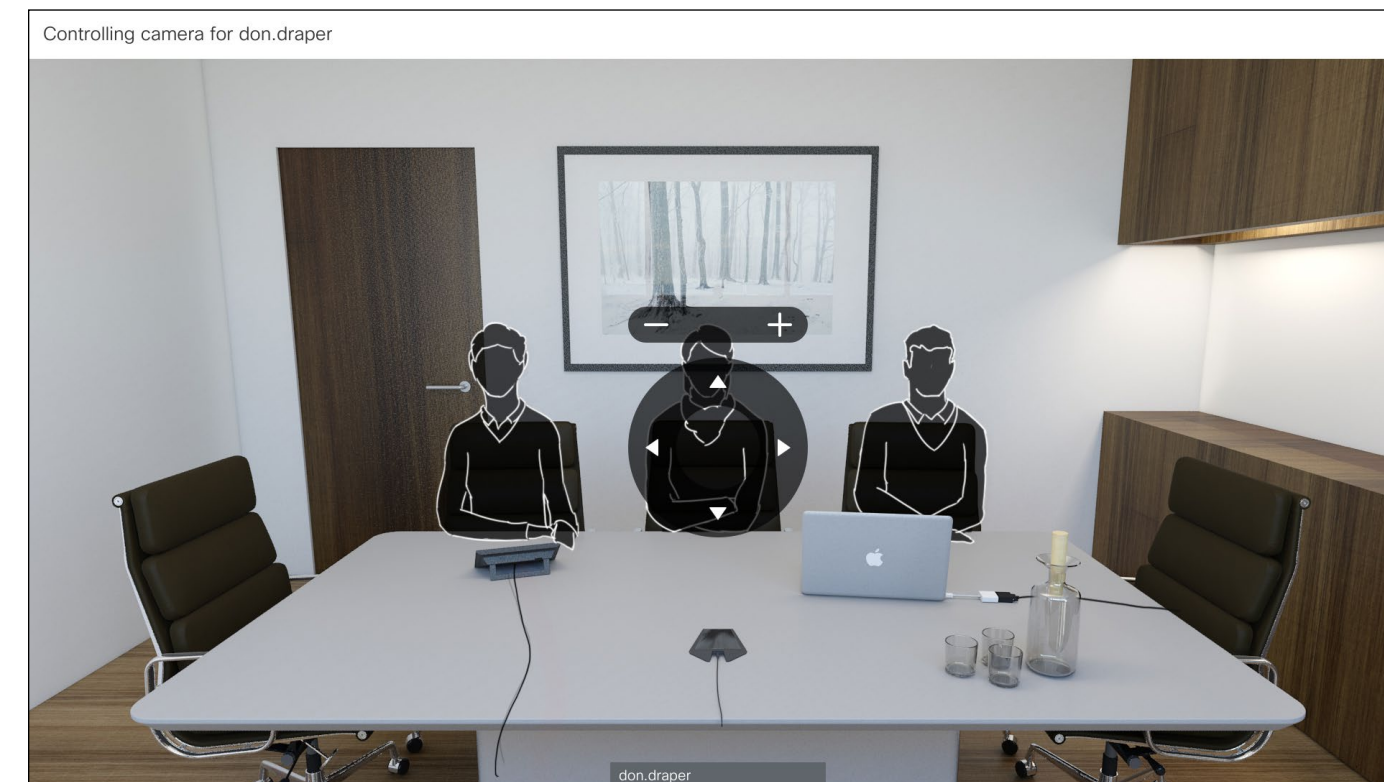
通話の参加者リストを表示するメニューが表示されます。カメラを制御する参加者に移動し、リモート コントロールの OK を押します。サブメニューが表示されます。

3



相手先カメラを制御するには、[カメラ (Camera)] に移動し (右から 2 番目)、リモート コントロールの OK をクリックします。

4



好みに応じて、パン、傾き、およびズームの調整をします。リモート コントロールの OK または戻るを使用して終了します。

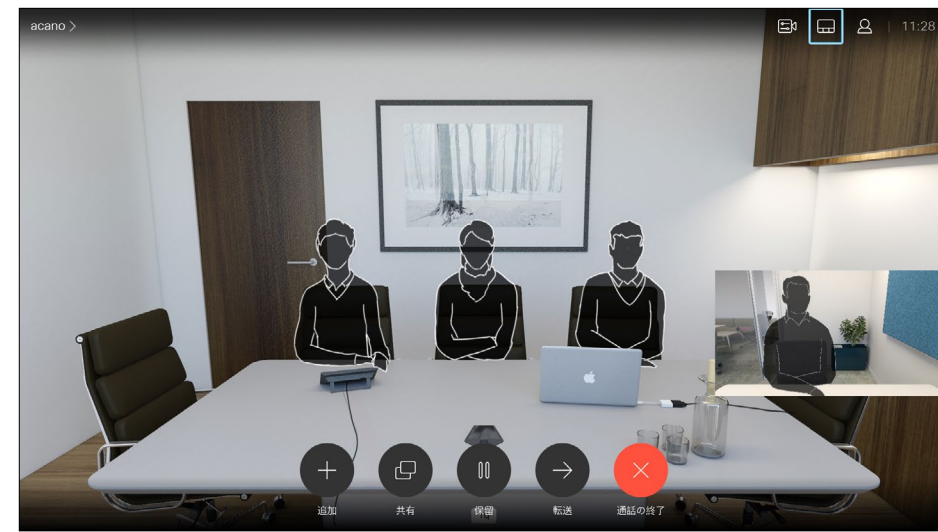
多くのビデオ システムには、遠隔から操作できるカメラが付いています。このようなシステムでは、リモート コントロールを使用して、パン、傾き、およびズームを変更できます。

相手先 (会議の相手先) にこのようなシステムがある場合、通話中に相手先のカメラを操作できます。

# カメラ制御 自画面 PiP の移動

## 自画面を移動する理由

1



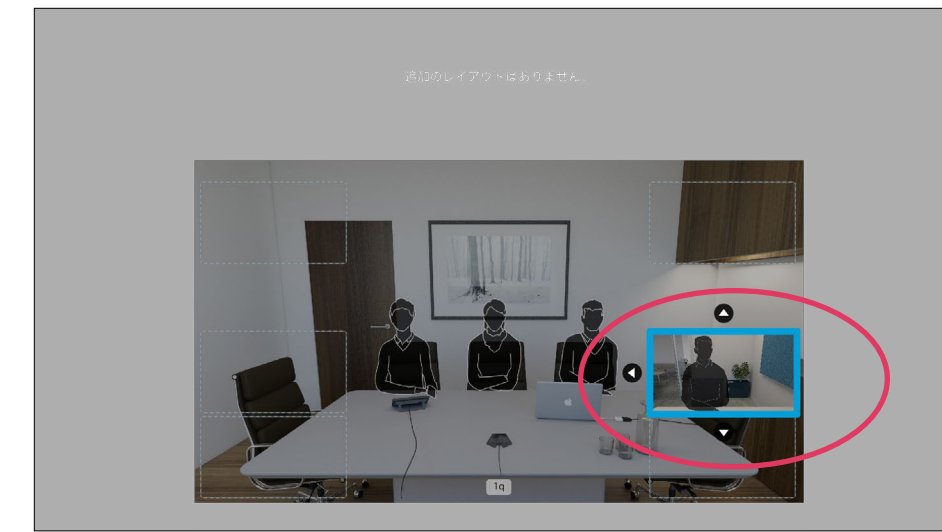
自画面がアクティブである場合、またはピクチャインピクチャが含まれるレイアウトの場合は、右上隅のレイアウトに移動し、リモートコントロールの OK を押します。該当する場合にだけ、レイアウトアイコンが表示されます。

2



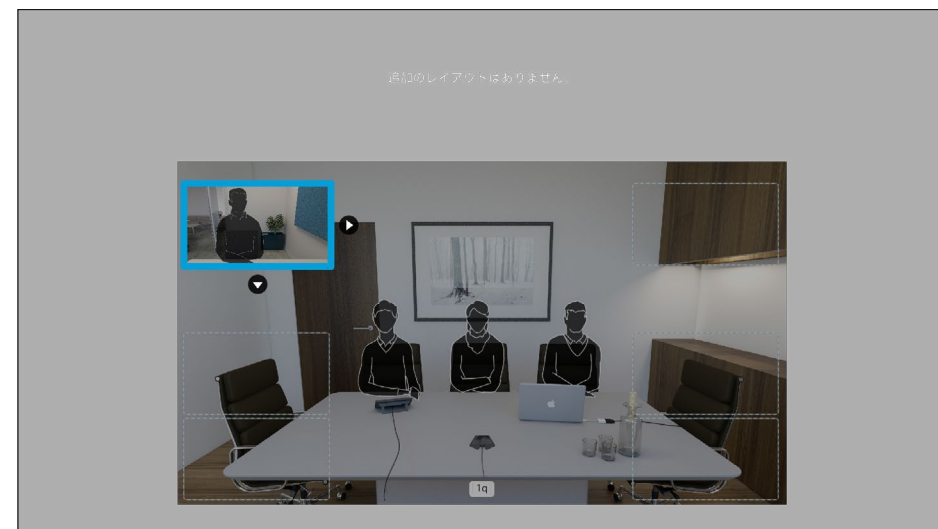
レイアウトメニューが表示されます。リモートコントロールの下矢印を押して、自画面に移動します。

3



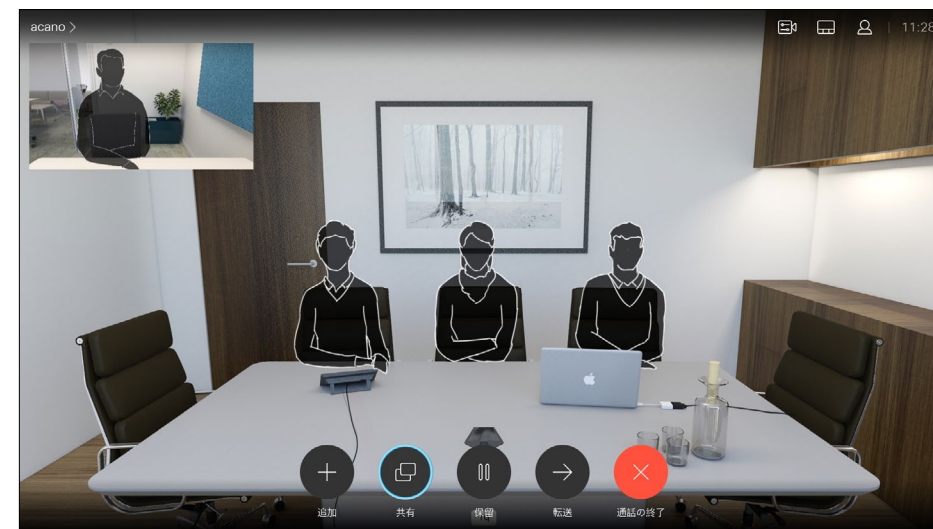
自画面が青色に変わり、選択されていることが表示されます。リモートコントロールの OK を押します。矢印が表示され、自画面を移動できることが示されます。移動できる新しい場所が表示されます。

4



リモートコントロールの方向キーを押して、画像を移動します。終わったら、OK を押します。

5



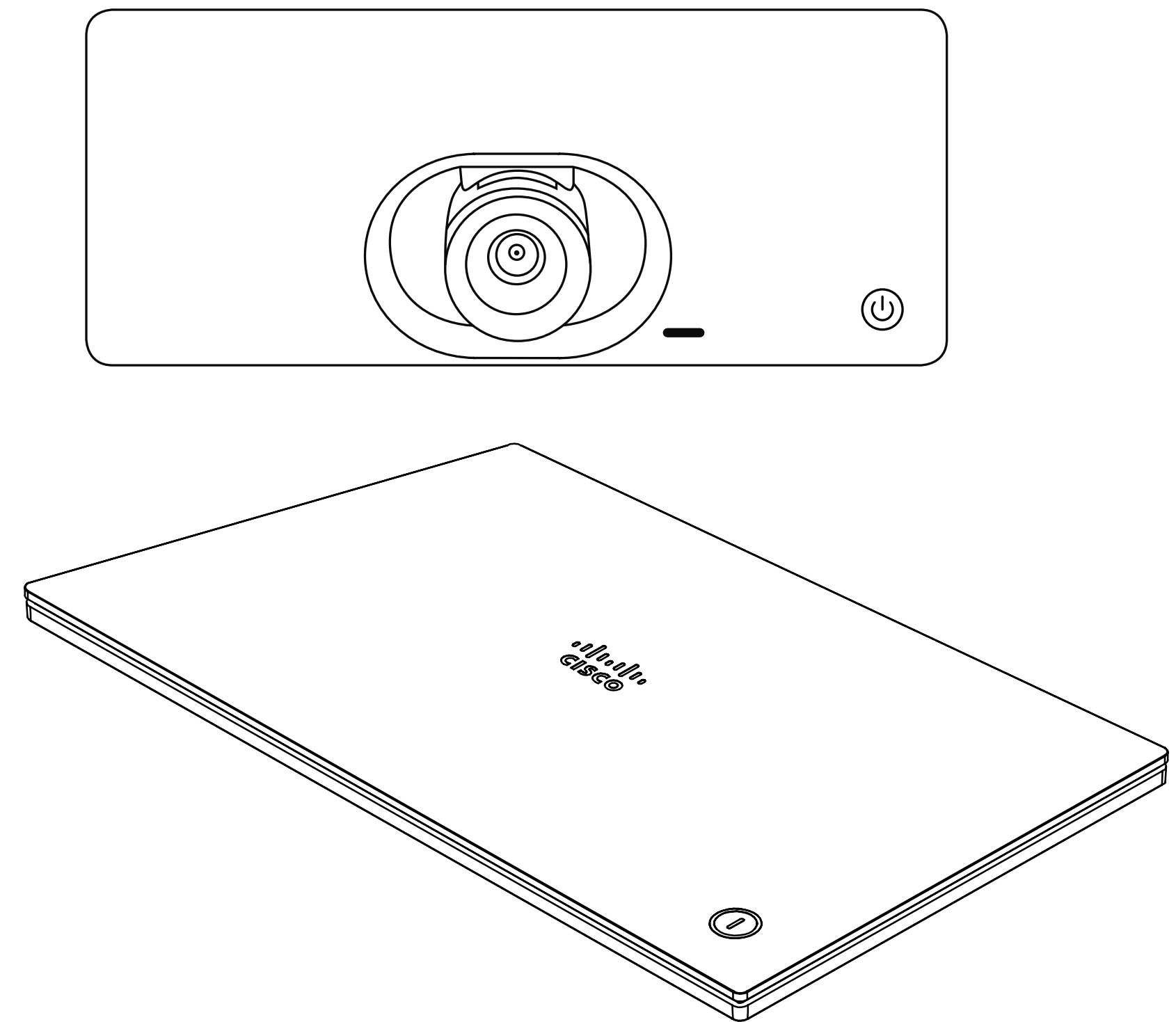
画面の画像は元のサイズになり、自画面は新しい位置に表示されます。

自画面には、ビデオシステムから他者に見える内容が表示されます。通常は、自画面を使用して、目的どおりの映像が他者に表示されるかどうかを確認します。自画面は、PiP (ピクチャインピクチャ) として表示されます。

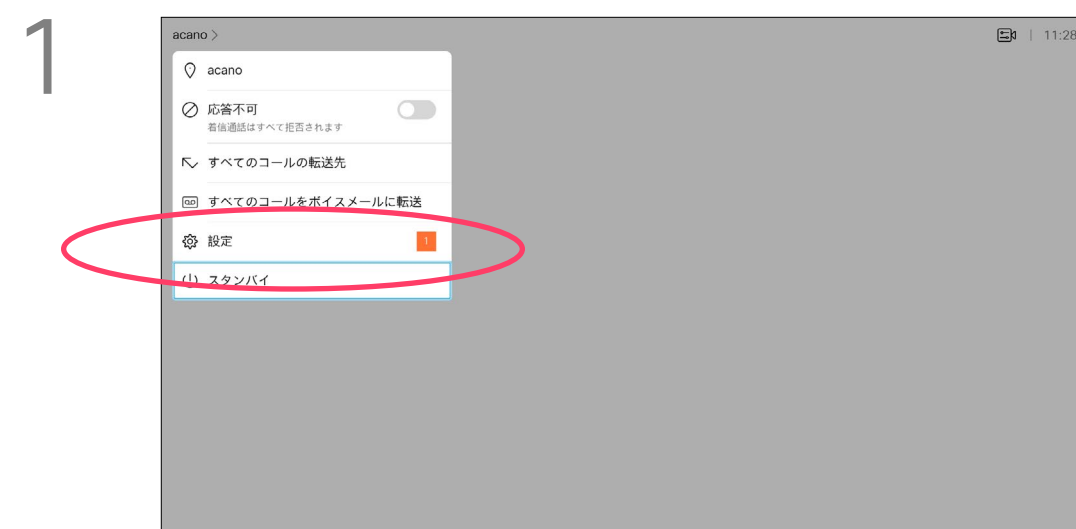
会議中に時折、自画面の有効化が必要になる場合があります。たとえば、画面に自分を表示したままにしたい場合です。

自画面の現在の位置により、画面上で画像の重要な部分が見えなくなる場合があります。このような場合に、自画面を移動することができます。

# 設定



# 設定 設定にアクセスするには



[設定 (Settings)] メニューにアクセスするには、画面の左上に移動し、リモートコントロールの OK を押します。次に、下にある [システム情報 (System Information)] に移動し (メニューの下から 2 番目)、再度 **OK** を押します。



[設定 (Settings)] にはシステムの基本情報が示されますが、ここではセットアップ ウィザードにアクセスして、システムを再起動することもできます。

[システム情報 (System Information)] ページには、IP アドレス、MAC アドレス、SIP プロキシ、インストールされているソフトウェアのバージョン、デバイス名などの情報が表示されます。  
ここではシステムの再起動ができ、[詳細設定 (Advanced settings)] からセットアップ ウィザードを使用できます。  
このメニューから着信音とボリュームを指定できるようになりました。



アメリカ本社  
Cisco Systems, Inc.  
San Jose, CA

アジア太平洋地域  
Cisco Systems(USA)Pte. Ltd.  
シンガポール

Europe Headquarters  
Cisco Systems International BV Amsterdam,  
The Netherlands

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号はシスコの Web サイト([www.cisco.com/go/offices/](http://www.cisco.com/go/offices/))をご覧ください。

---

Cisco および Cisco ロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における商標です。シスコの商標のリストは、[www.cisco.com/go/trademarks](http://www.cisco.com/go/trademarks) に記載されています。その他の商標はそれぞれの権利者の財産です。「パートナー」または「partner」という用語の使用は Cisco と他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1005R)